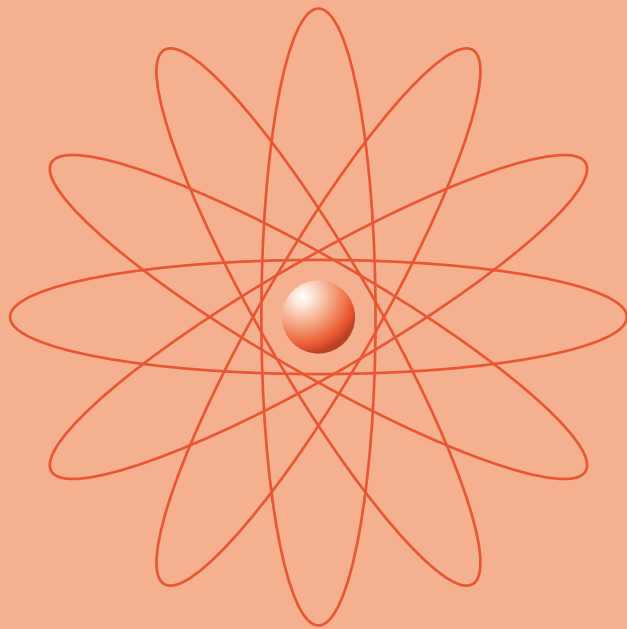


令和6年度 地域保健総合推進事業
全国保健所長会協力事業

公衆衛生医師の確保と育成に関する 調査および実践事業報告書



令和7年3月

一般財団法人 日本公衆衛生協会
分担事業者 宗 陽子(長崎県県央保健所)

はじめに

保健所は、公衆衛生の中核機関として、広域的・専門的・技術的業務や市町村の活動支援などを担っていますが、地域保健をめぐる環境は大きく変化しています。少子高齢化が進み人口減少社会となり、地域包括ケアシステムの推進や地域医療体制の整備、新興感染症発生時の健康危機管理、大規模自然災害発生時の被災地支援やマネジメント対応など、時代とともに多様化・複雑化する課題への対応が強く求められ、こうした保健所の役割を十分に果たすためには、広い視野を持ちつつ地域に根ざした公衆衛生のリーダーとして保健所長の役割が重要です。

しかしながら、全国の保健所長の約1割は兼務を余儀なくされており、人材を確保することや、継続して資質向上を図ることは極めて重要な課題です。

当事業班では、公衆衛生医師を確保し育成することを目的として事業を実施しました。調査事業として、公衆衛生医師就業状況調査とケーススタディ集効果活用検証、実践事業として、PHSS、PHCC、PHWS、公衆衛生医師の集い、公衆衛生チャンネル(YouTube)及びブログの企画・運営、レジナビフェアにおける広報活動を行い、公衆衛生医師の魅力や様々な情報を発信するとともに、様々なツールを作成していますので、各自治体での取り組みにもご活用いただけますと幸いです。

最後に、本事業の調査および実践活動に献身的なご協力いただきました班員の皆様をはじめ、厚生労働省、全国保健所長会、都道府県・市区関係部署、全国衛生学公衆衛生学教室の皆様にご厚く御礼申し上げます。

令和7年3月 令和6年度地域保健総合推進事業
公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業
分担事業者 宗 陽子（長崎県県央保健所）

目次

I 事業の概要

1 分担事業名	4
2 事業の目的	4
3 事業の内容	5
4 事業の実施経過	6
5 考察	9
6 今後の方向性	9

II 事業報告

1 調査事業

(1) 公衆衛生医師就業実態調査	10
(2) 「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」 活用効果検証	19

2 実践事業

(1) 公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー (Public Health Summer Seminar : PHSS) 2024 の開催	26
(2) 公衆衛生医師 WEB 合同相談会 (Public Health Career Counseling : PHCC) 2024 の開催	36

(3) 公衆衛生ウインターセミナー

(Public Health Winter Seminar : PHWS) 2024 の開催 . . . 42

(4) 第 83 回日本公衆衛生学会総会での自由集会

「公衆衛生医師の集い 2024」の開催 57

(5) レジナビフェア東京・大阪での啓発活動 69

(6) YouTube「公衆衛生医師チャンネル」の企画・運営 77

(7) ブログ「保健所長のお仕事紹介」の企画・運営 89

III 参考資料

1 PHSS / PHCC / PHWS の講義資料、講演動画、チラシ、プログラム

募集や終了報告等 94

2 YouTube「公衆衛生医師チャンネル」 94

3 ブログ「保健所長のお仕事紹介」 94

4 調査事業（2）資料編

① 調査協力依頼文 95

② 全国保健所長対象アンケートフォーム 97

③ 全国保健所長対象アンケート回答の詳細 100

④ 社会医学系専攻医対象調査票 106

分担事業者・事業協力者・助言者・事務局 一覧 107

I 事業の概要

1 分担事業名

公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業

2 事業の目的

医療及び保健福祉分野において、多様化・複雑化する社会課題を改善・解決に導くことが出来る公衆衛生医師を確保育成することにより、国民の健康な生活を維持増進することを目的とする。

○公衆衛生医師の確保

- ・ イベント（対面やオンライン）の開催やインターネットによる情報発信により公衆衛生医師の存在意義や活動を普及啓発
- ・ 公衆衛生に関心のある医学生や臨床医への就職相談やキャリアコンサルティング

○公衆衛生医師の育成

- ・ 入職後の離職防止および活躍・成長の支援
- ・ 公衆衛生医師同士、専攻医同士の交流や連携の推進
- ・ 委員会と連携した社会医学系専門医制度を活用した人材育成についての検討

3 事業の内容

(1) 事業班会議 4回開催

(2) 調査事業

1) 公衆衛生医師就業実態調査

2) ケーススタディ集活用効果検証

(3) 実践事業

1) 公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー

(Public Health Summer Seminar : PHSS) 2024 の開催【8/17～18】

2) 公衆衛生医師 WEB 合同相談会

(Public Health Career Counseling : PHCC) 2024 の開催【9/21】

3) 公衆衛生ウインターセミナー

(Public Health Winter Seminar : PHWS) 2024 の開催【12/14】

4) 第 83 回日本公衆衛生学会総会での自由集会

「公衆衛生医師の集い 2024」の開催【10/30】

5) レジナビフェア東京・大阪での啓発活動【5/26・6/16】

6) YouTube「公衆衛生医師チャンネル」の企画・運営

7) ブログ「保健所長のお仕事紹介」の企画・運営

(4) 報告書の作成

4 事業の実施経過

(1) 事業の実施期間

令和6年4月1日から令和7年3月31日

(2) 事業班会議

(第2回を除き、公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会と同時開催)

1) 第1回班会議(オンライン開催)【4/24(水) 19:00-20:30】

事業計画、各事業内容の検討、事業班チームの編成と役割分担

2) 第2回班会議(東京都)【8/17(土) 13-14、8/18(日) 13-14】

各事業の進捗状況の報告、今後の進め方について確認・協議

3) 第3回班会議(ハイブリッド開催)【10/30(水) 15-17】

PHSS 及び PHCC の実施報告、次年度開催に向けての方向性

各事業の進捗状況の報告、今後の進め方について確認・協議

4) 第4回班会議(オンライン開催)【2/3(月) 19:00-20:30】

令和6年度事業の実施報告、令和7年度事業に向けての協議

(3) 調査事業チームミーティング

1) 公衆衛生医師就業実態調査(メールにて随時情報共有・意見交換実施)

2) ケーススタディ集活用効果検証(オンライン開催)

① 7月2日(火) 20:10~20:45 調査の内容、実施時期等

② 9月20日(金) 19:00~20:00 調査票案について協議

(4) 実践事業チームミーティング（オンライン開催）

1) 公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー

- ① 5月8日（水）19:00～20:30 役割分担、スケジュール確認
- ② 6月2日（日）19:00～20:00 若手パワー登壇者打ち合わせ
- ③ 6月27日（木）19:00～20:00 各担当部分進捗状況確認、詳細協議
- ④ 7月23日（火）13:00～14:00 プログラム企画チーム打ち合わせ
- ⑤ 8月2日（金）19:00～20:00 担当者最終打ち合わせ
- ⑥ 8月7日（水）19:00～20:00 参加ファシリテーターへの事前説明会
- ⑦ 9月21日（土）17:00～18:00 PHSS2024 の振り返り、次年度に向けて

2) 公衆衛生医師 WEB 合同相談会

- ① 9月14日（土）20:00～21:00 参加ファシリテーターへの事前説明会

3) 公衆衛生ウインターセミナー

- ① 7月1日（日）13:00～14:00 日程、プログラム概要、役割分担
- ② 8月26日（月）19:00～20:00 プログラム内容、GW 運営について
- ③ 11月27日（水）18:30～19:30 担当者最終打ち合わせ
- ④ 12月6日（金）19:00～20:00 参加ファシリテーターへの事前説明会

4) 自由集会「公衆衛生医師の集い」

- ① 6月21日（金）19:30～20:30 日程確認、集会の概要について協議
- ② 9月2日（月）19:30～20:30 講師、GWの運営について役割分担

5) レジナビフェア東京・大阪での啓発活動

- ① 5月9日(木) 19:30～20:30 設営や配布物の確認、想定質問集の作成

6) YouTube「公衆衛生医師チャンネル」の企画・運営

- ① 5月10日(金) 15:00～17:00 役割分担、年間スケジュール確認
- ② 5月29日(水) 19:00～20:00 保健所の仕事動画作成について
- ③ 6月17日(日) 19:00～20:00 横山先生インタビュー撮影
- ④ 7月22日(月) 19:00～20:00 西田先生インタビュー撮影
- ⑤ 7月29日(月) 19:00～20:00 進捗状況の確認、役割分担について
- ⑥ 8月27日(火) 19:00～20:00 田中先生インタビュー撮影
- ⑦ 9月30日(土) 19:00～20:00 藤井先生インタビュー撮影
- ⑧ 12月27日(金) 18:00～19:00 チャンネルアナリティクス情報共有等

7) ブログ「保健所長のお仕事紹介」の企画・運営

- ① 5月20日(月) 18:00～19:30 今年度の事業展開について
- ② 6月12日(水) 15:00～16:00 個別相談面談①
- ③ 6月20日(火) 16:00～17:00 個別相談面談②
- ④ 7月2日(火) 19:00～20:00 個別相談対応の強化について
- ⑤ 8月28日(水) 14:00～15:00 個別相談面談③
- ⑥ 9月17日(火) 19:00～20:00 ブログ投稿状況、ポスター作成について
- ⑦ 12月19日(木) 書面開催 事業進捗確認及び事業報告書について

⑧ 1月17日（金）17:00～18:00 個別相談面談④

⑨ 2月10日（月）18:30～19:30 今年度の振り返り、次年度に向けて

※上記オンラインによるチームミーティングに加えて、チームごとに LINE

グループを作成し、日程調整や事業企画に向けての意見交換を頻回に行った。

5 考察

事業班では2本の調査事業と7本の実践事業ごとに、チームリーダーが中心となつてより効果的な取組みとなるよう企画し、班員全員で協力しながら実践することが出来た。

公衆衛生行政への入職に繋がるよう個別相談対応を強化しているが、確保に偏らず、入職した公衆衛生の育成や、離職防止の視点を押さえて事業を展開していくことが重要である。

6 今後の方向性

地域保健の充実のためには、公衆衛生医師を確保し育成することが重要である。

各事業の質を高め成果に繋げていきたい。

Ⅱ 事業報告

1 調査事業

(1) 公衆衛生医師就業実態調査

早川貴裕（栃木県保健福祉部）

高橋千香（東京都世田谷保健所）

宮園将哉（大阪府岸和田保健所）

高橋 宗康（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）

宗 陽子（長崎県県央保健所）

1) 要約

行政機関に勤務する公衆衛生医師の確保は全国的な課題であるが、自治体によりその状況は大きく異なる。公衆衛生医師の確保・定着のためにアプローチが必要な領域や離職防止に効果的な方策等を検討するため、行政機関に従事する医師の入離職動向等を分析することとした。

平成 22 年から令和 4 年までの 7 回分の医師届出情報を入手し行政機関に従事する医師の人数、基本的属性（性別、年齢）、入離職の状況を把握したところ、特に入職の動向は近年変化してきており、全体としては 30 代前半や 50 代後半以降の入職が増加していること、また、男女によってそのパターンに差異があることが明らかになり、入職のリクルートメント活動には対象となる医師にとって適切なタイミングや状況があることが伺えた。

今後も、行政機関で従事し続ける医師や入離職する医師のバックグラウンド等について詳細な分析を行い、行政機関に従事する医師の確保・定着に向けた取組の検討に活かせる基礎資料づくりを進めていく。

2) 目的

- ① 医師届出情報を用いて行政機関に勤務する公衆衛生医師の経時的な入離職動向を把握する。
- ② ①を踏まえて公衆衛生医師の確保や定着にアプローチが必要な領域や離職防止に効果的な方策等を検討する。

3) 方法

厚生労働省に医師届出票情報の提供の申出を行い、平成 22、24、26、28、30、令和 2 及び 4 年の 7 回分の全国の医師届出票情報の提供を受けた。

行政機関における勤務の有無については各年の医師届出票における「従事している施設及び業務の種別」の項目が「行政機関の従事者」であるか否かで判断した。入離職の判定に当たっては、連続する 2 回の届出票情報を比較し、行政機関以外の機関から新たに行政機関に異動した医師を「入職」、行政機関から行政機関以外の機関に異動した医師を「離職」とした。

今年度は、各届出年に行政機関に勤務している医師及び上記の判定に基づく入離職した医師について、その属性（年齢、性別）と経年変化を分析した。

4) 結果

平成 22、24、26、28、30、令和 2 及び 4 年の医師届出票のデータ件数はそれぞれ 295,049 名、303,268 名、311,205 名、319,480 名、327,210 名、339,623 名、343,275 名であり、一貫して増加していた（表 1）。各届出年における行政機関の従事者数（女性を 1 とした時の男女比）はそれぞれ 1,669 名（2.33）、1,688 名（2.17）、1,661 名（2.15）、1,740 名（2.19）、1,835 名（2.00%）、

1,805 名（1.97）、1,856 名（1.94）であり、実数は増加傾向にあり、男女比は低下傾向にあった（図 1、表 1）。

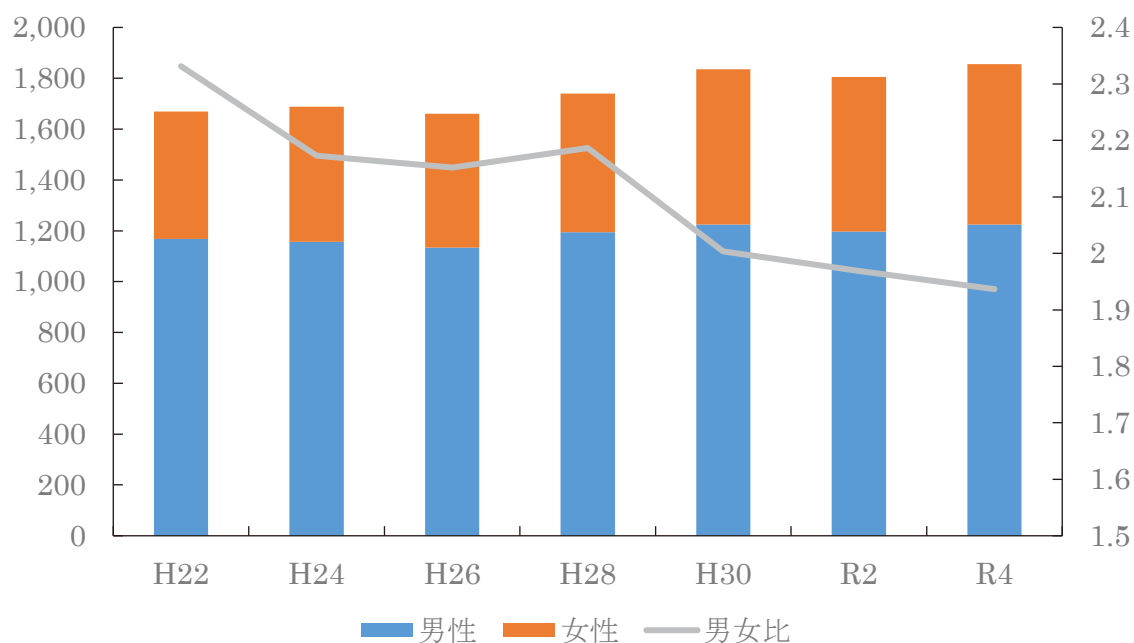


図 1 行政機関に従事する医師数（単位：名）及び女性を 1 とした場合の男女比

行政機関に従事する医師の年齢構成を見ると、平成 22 年から平成 26 年にかけては 50 代が多い年齢階級であったが、平成 28 年以降は 50 代後半や 60 代前半が増えており、60 代後半から 70 代前半の増加も目立った。また、平成 30 年以降は 30 代前半の増加が顕著であった。一方で、40 代後半から 50 代前半の医師数は概ね減少傾向にあった（図 2、表 1）。

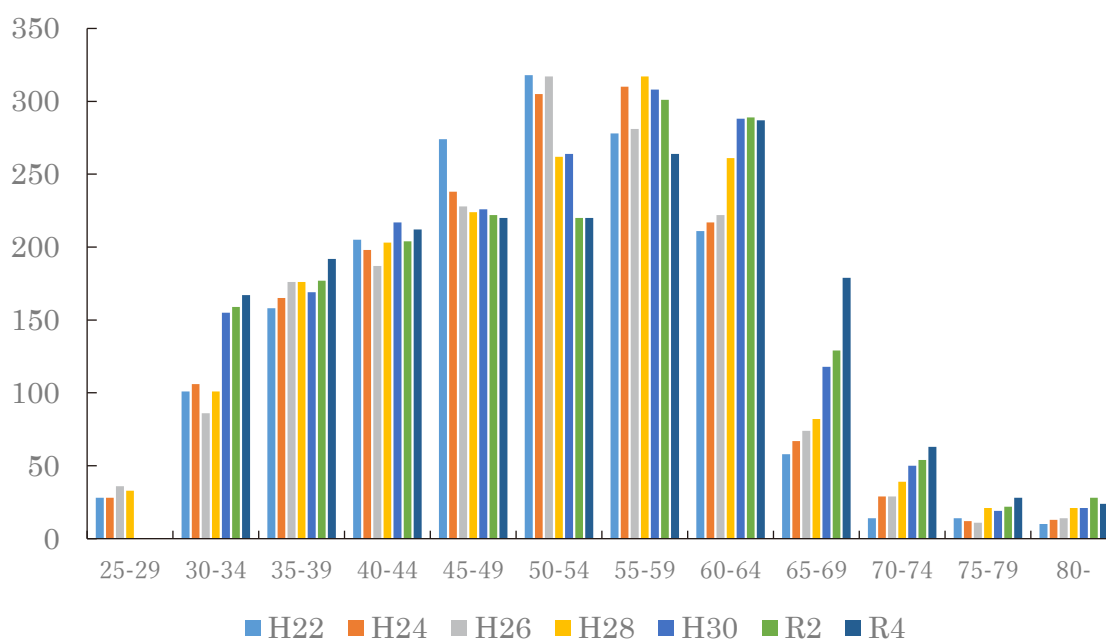


図 2 年齢階級別の行政機関に従事する医師数（単位：名）

連続する2回の医師届出情報を比較すると、H22-H24、H24-H26、H26-H28、H28-H30、H30-R2、R2-R4で行政機関以外から行政機関に異動（入職）した医師数はそれぞれ336名、369名、426名、525名、455名、473名、また、行政機関から行政機関以外の機関に異動（離職）した医師数はそれぞれ311名、364名、339名、397名、416名、398名であり、どの比較においても入職が離職を上回っていた（図3、表2）。

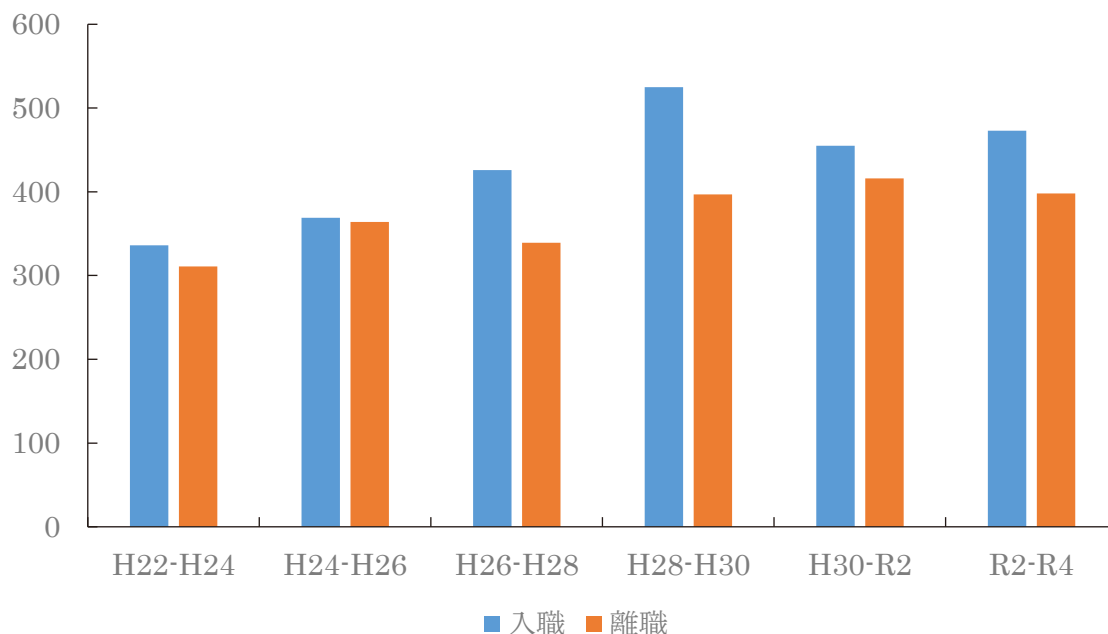


図3 連続する2回の医師届出情報における入離職数（単位：名）

入職した医師の年齢分布は、H26-H28までは30代後半をピークとするなだらかな単峰性に近い形であったが、以降は30代前半及び50代にピークのある二峰性を示していた（図4、表3）。

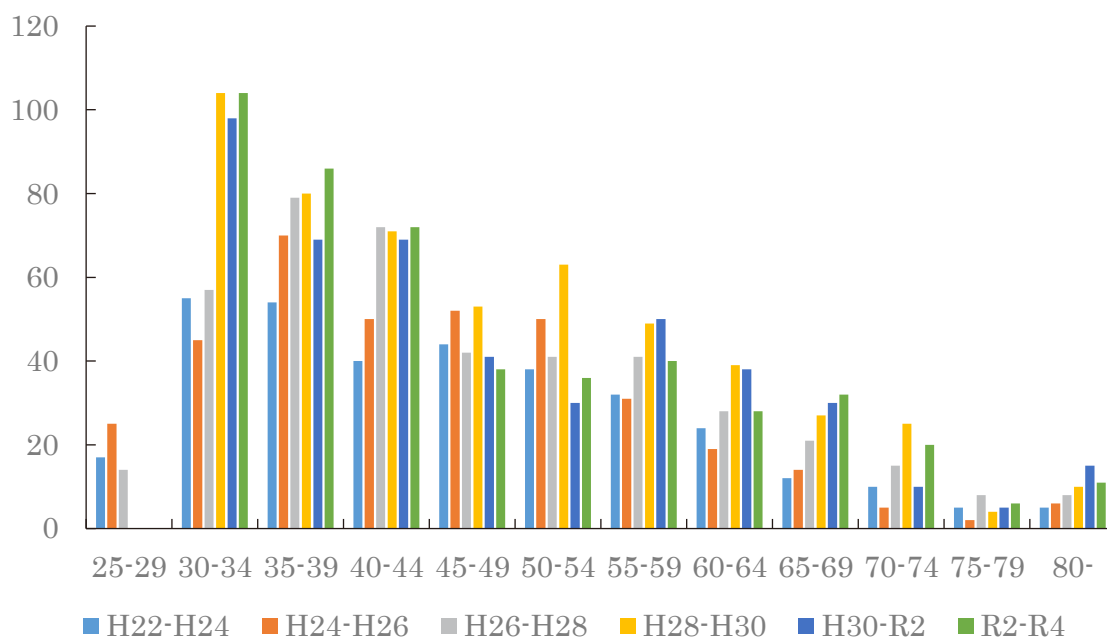


図4 各比較年における年齢階級別に入職した医師数（単位：名）

平成 22 年から令和 4 年までの全期間における入職した医師の年齢分布を男女別で比較すると、男性では 30 代に大きなピークと 50 代に小さなピークがあるのに対し、女性では 30 代から 40 代前半にかけてやや幅の広いピークがあり、また、50 代後半に小さなピークが見られた（図 5）。

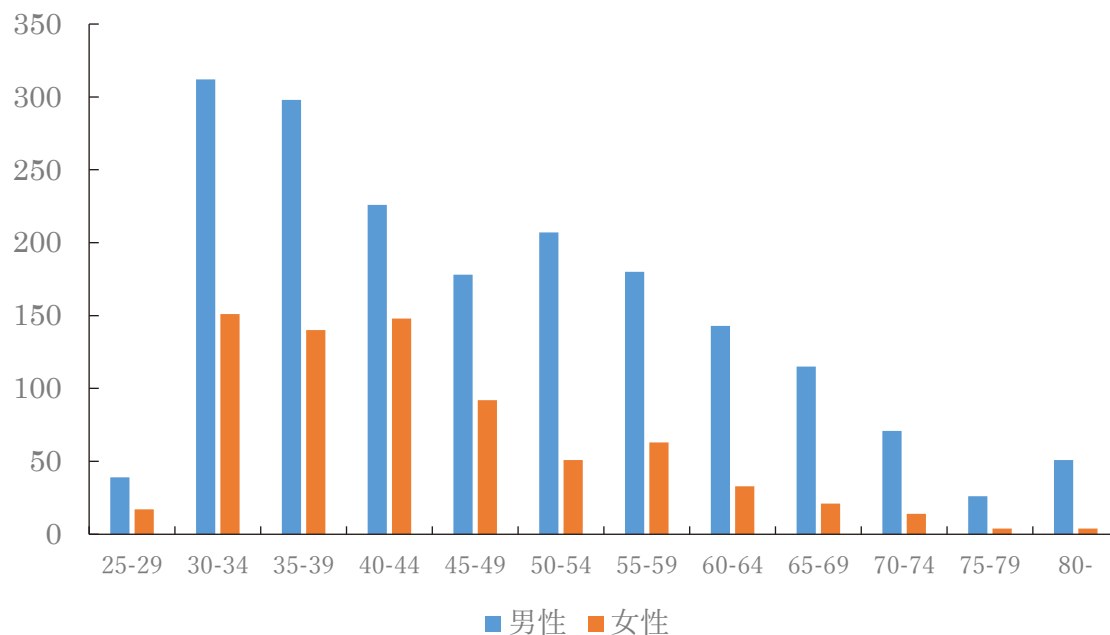


図 5 平成 22 年から令和 4 年までの全期間における男女別・年齢階級別の入職した医師数（単位：名）

行政機関から行政機関以外に異動（離職）した医師の年齢分布を見ると、30 代後半と 60 代後半にピークのある M 字型を示していた。また、経年で比較すると、40 代後半及び 50 代後半における離職が増加していた（図 6、表 4）。

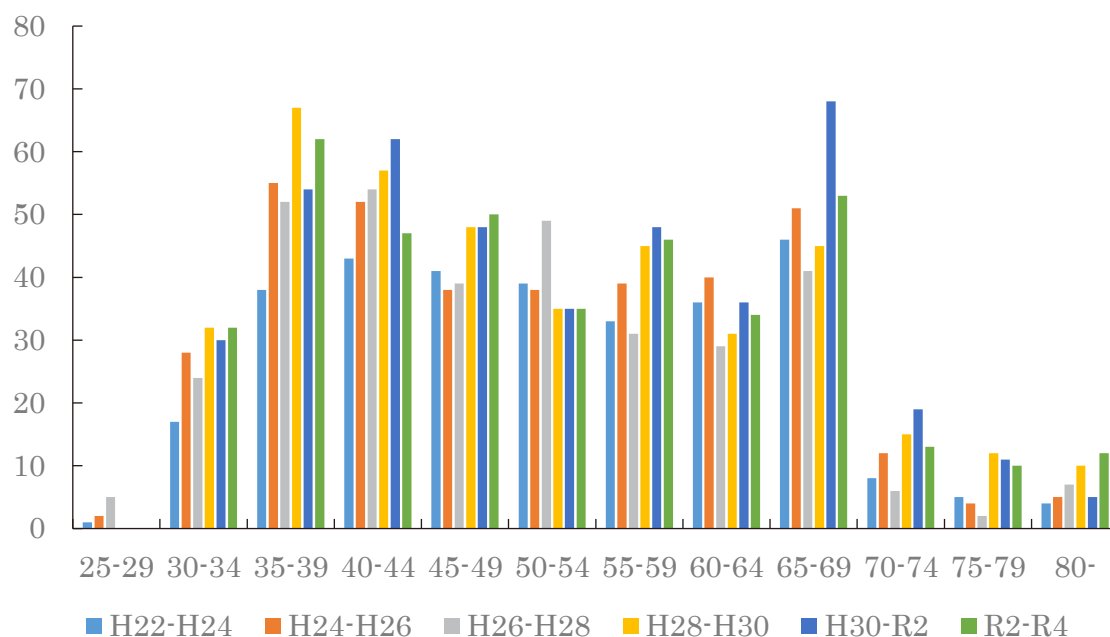


図 6 各比較年における年齢階級別の離職した医師数（単位：名）

平成 22 年から令和 4 年までの全期間における離職した医師の年齢分布を男女別で比較すると、男性では 30 代後半から 40 代前半が多く、40 代後半から 60 代前半までは概ね横ばいから緩やかに減少していたのに対して、女性では 30 代後半から 40 代後半にかけてなだらかなピークを形成し、50 代以降は概ね横ばいであった（図 7）。

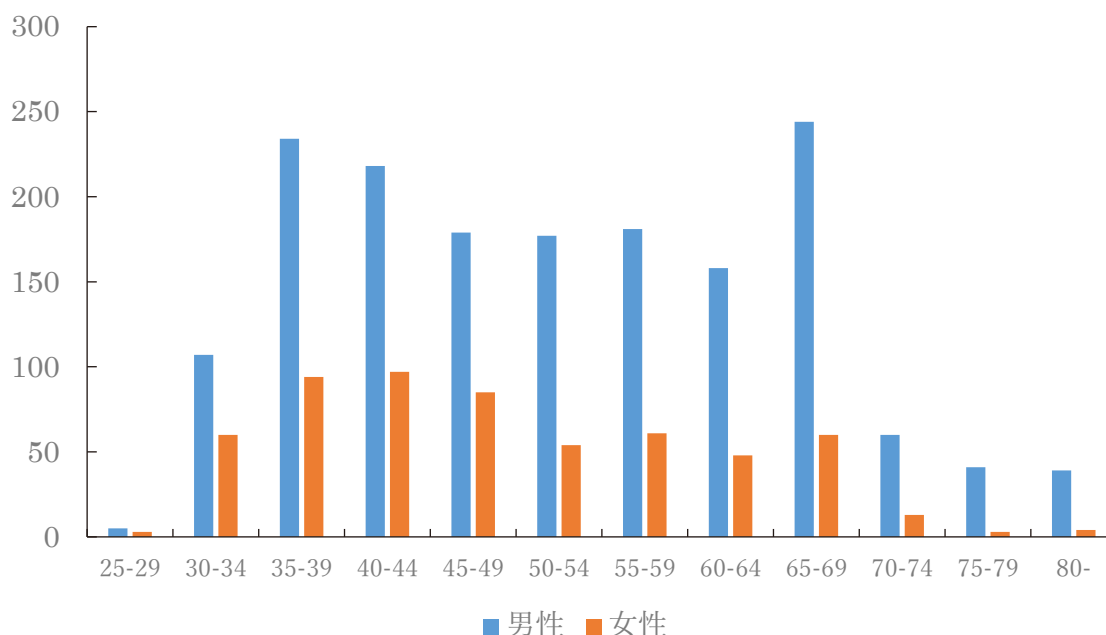


図 7 平成 22 年から令和 4 年までの全期間における男女別・年齢階級別の離職した医師数（単位：名）

5) 考察

平成 22 年から令和 4 年までの医師届出情報によると行政機関に従事する医師数は増加傾向にあり、また、女性医師の割合が増えていることが確認できた。一方で、表 1 のとおり届出を行った医師全体に占める行政機関に従事する医師の割合は 0.53-0.57%とほぼ横ばいか若干低下傾向にあり、医師全体の増加を超えて行政機関に従事する医師が増えている状況までには至っていないことも明らかとなった。

今回利用した届出情報の期間においては、30 代の若い医師及び 60 代の医師が特に増加していた。入職時期のパターンを概ね平成 20 年代の前半と後半以降で比べると、後者では①30 代前半からの入職が増えていること、②40 代後半から 50 代前半の入職が減少傾向にあること、③50 代後半から 60 代にかけての入職が増えていることが観察された。より若い年代で入職することは、様々な行政経験を積む機会を得ることにつながり、好ましい傾向と考える。また、比較的年齢の高い医師が入職することは、事業等に臨床等での経験が活かされることが期待される一方で、行政に必要な知識や経験を踏まえた判断や決定に不慣れとなる可能性があり、特に一定の立場や役職に就くことが想定される場合には、入職後の研修の充実やサポート体制の整備が必要である。

また、入職時期を男女で比較すると、男性では 30 代前半にピークがあり、その後一旦減少し、50 代で再度増加するが、女性では 30 代から 40 代前半にかけて緩やかなピークを形成しており、その差異の理由としてキャリア、ポストやワーク・ライフ・バランス等が影響しているものと推察する。行政機関に従事する医師の確保に当たっては、男女で入職のタイミングや理由が異なる

ことを踏まえたリクルートメント活動を展開することが重要であると考え。

離職時期も入職時期と概ね似たパターンを示すが、入職に比べると離職の方が男女ともに年代による差（変化）が小さかった。行政機関に入職したものの、様々な理由により一定の期間のうちに離職する医師がいる一方で、定着している医師もいることが示唆される。

今回の分析では、連続する 2 回の医師届出情報を比較することにより入職、離職を判断し、その医師の数や性別、年齢による特徴等を調べるに止まった。連続する 2 回の届出情報のうち、1 回しか従事先の種別が分からない医師（表 2 中の NA→行政機関、行政機関→NA）が比較の回ごとに 300・400 名程度いるので、入離職の正確な状況把握には限界があることに留意する必要があるが、大まかな傾向を捉えることはできたと考える。また、行政機関に従事する医師の確保や定着に向けた取組を検討するためには、入離職する医師だけでなく、行政機関で従事し続ける医師も含めたバックグラウンド（出身地、出身大学、診療科等）や入職から離職までの期間を把握することが必要であり、これらの点については、次年度の課題として取り組みたい。

6) まとめ

平成 22 年から令和 4 年までの 7 回分の医師届出情報を用いて行政機関に従事する医師の人数、基本的属性（性別、年齢）、入離職の状況を把握した。特に入職の動向は近年変化してきていること、また、男女によってもそのパターンが異なることが明らかになり、リクルートメント活動に有用な知見が得られた。今後は、行政機関で従事し続ける医師や入離職する医師のバックグラウンド等について詳細な分析を行い、行政機関に従事する医師の確保・定着に向けた取組の検討に活かせる基礎資料づくりを進めていく。

表 1 行政機関に従事する医師数（単位：名）

	H22	H24	H26	H28	H30	R02	R4
データ件数	295,049	303,268	311,205	319,480	327,210	339,623	343,275
行政機関に従事する医師数	1,669	1,688	1,661	1,740	1,835	1,805	1,856
(%)	(0.57)	(0.56)	(0.53)	(0.54)	(0.56)	(0.53)	(0.54)
性別							
男性	1,168	1,156	1,134	1,194	1,224	1,197	1,224
女性	501	532	527	546	611	608	632
年齢							
-29	28	28	36	33			
30-34	101	106	86	101	155	159	167
35-39	158	165	176	176	169	177	192
40-44	205	198	187	203	217	204	212
45-49	274	238	228	224	226	222	220
50-54	318	305	317	262	264	220	220
55-59	278	310	281	317	308	301	264
60-64	211	217	222	261	288	289	287
65-69	58	67	74	82	118	129	179
70-74	14	29	29	39	50	54	63
75-79	14	12	11	21	19	22	28
80-	10	13	14	21	21	28	24

表 2 連続する 2 回の医師届出情報の比較による異動状況（単位：名）

	H22-H24	H24-H26	H26-H28	H28-H30	H30-R2	R2-R4
行政機関→行政機関	1,205	1,160	1,175	1,173	1,209	1,232
行政機関以外→行政機関（入職）	336	369	426	525	455	473
行政機関→行政機関以外（離職）	311	364	339	397	416	398
NA→行政機関	147	132	139	137	141	151
行政機関→NA	153	164	147	170	210	175

※NA：届出情報なし

表 3 行政機関以外から行政機関に異動（入職）した医師数（単位：名）

	H22-H24	H24-H26	H26-H28	H28-H30	H30-R2	R2-R4
行政機関に従事する 医師数	1,688 (H24)	1,661 (H26)	1,740 (H28)	1,835 (H30)	1,805 (R2)	1,856 (R4)
行政機関以外から行政 機関に異動（入職） した医師数	336	369	426	525	455	473
(%)	(19.9)	(22.2)	(24.5)	(28.6)	(25.2)	(25.5)
性別						
男性	234	264	316	380	323	329
女性	102	105	110	145	132	144
年齢						
-29	17	24	14			
30-34	55	45	57	104	98	104
35-39	54	70	79	80	69	86
40-44	40	50	72	71	69	72
45-49	44	52	42	53	41	38
50-54	38	50	41	63	30	36
55-59	32	31	41	49	50	40
60-64	24	19	28	39	38	28
65-69	12	14	21	27	30	32
70-74	10	5	15	25	10	20
75-79	5	2	8	4	5	6
80-	5	6	8	10	15	11

表 4 行政機関から行政機関以外に異動（離職）した医師数（単位：名）

	H22-H24	H24-H26	H26-H28	H28-H30	H30-R2	R2-R4
行政機関に従事する 医師数	1,669 (H22)	1,688 (H24)	1,661 (H26)	1,740 (H28)	1,835 (H30)	1,805 (R2)
行政機関から行政機 関以外に異動（離職） した医師数	311	364	339	397	416	398
(%)	(18.6)	(21.6)	(24.5)	(20.4)	(22.7)	(22.0)
性別						
男性	237	272	247	304	313	270
女性	74	92	92	93	103	128
年齢						
-29	1	2	5			
30-34	17	28	24	32	30	36
35-39	38	55	52	67	54	62
40-44	43	52	54	57	62	47
45-49	41	38	39	48	48	50
50-54	39	38	49	35	35	35
55-59	33	39	31	45	48	46
60-64	36	40	29	31	36	34
65-69	46	51	41	45	68	53
70-74	8	12	6	15	19	13
75-79	5	4	2	12	11	10
80-	4	5	7	10	5	12

II 事業報告

1 調査事業

(2)「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」活用効果検証

事業班員

藤井 可 (熊本市総務局行政管理部)

茅野 正行 (宮崎県高鍋保健所)

堀切 将 (福島県県中保健所)

岩瀬 敏秀 (岡山県備前保健所)

山本 長史 (北海道江別・千歳保健所)

横山 勝教 (香川県東讃保健所)

宗 陽子 (長崎県県央保健所)

1) 要旨

令和4、5年度の事業班事業の一環として、「公衆衛生医師が身につけるべきコンピテンシーがどのように業務の上で使われているのかをケースを通して学ぶことのできる教材」をコンセプトに『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』を作成した。今年度は、このケーススタディ集を実際に手に取った行政医師等から、ケーススタディ集の評価や活用方法等について意見を聴取し、効果の検証をおこなった。その結果、行政医師内部では一定の認知率を得られており、過半数には何らかの形で活用されていることが確認された。また第2巻に向けての要望等も収集した。

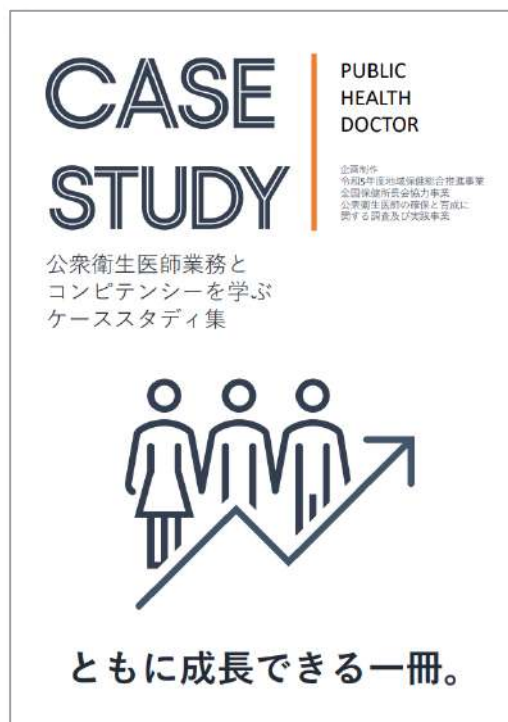
なお、第83回日本公衆衛生学会総会での自由集会「公衆衛生医師の集い 2024」では自由集会チームと合同で本ケーススタディ集の紹介およびグループワークを通じたディスカッションをおこなった。

2) 背景と目的

保健所の多くは所長一人が医師である。また、全国で一人を超える保健所長が複数保健所を兼務している状況が長年続いている。そのため、新たに医師が入職しても孤立しやすく、必ずしもすべての公衆衛生医師が他の公衆衛生医師の指導や支援を受けられるとは限らない状況がある。そこで当事業班では、行政へ入職したばかりの医師が、未経験のケースを追体験することで、公衆衛生医師の多様な業務を具体的に理解し、円滑に職場に適応・活躍できる一助となるべく、「公衆衛生医師が身につけるべきコンピテンシーがどのように業務の上で使われているのかをケースを通して学ぶことのできる教材」をコンセプトに、令和4、5年度の二年間をかけて『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』を作成した。

本ケーススタディ集は令和6年3月に発刊され、5月には全国の保健所等へ送付され、全国保健所長会ホームページ上でも公開されている。

(https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2023_file01-2.pdf)



令和 6 年度は、本ケーススタディ集をいずれかの媒体で手に取った・目に留めたであろう保健所等の行政医師への調査を通じて、ケーススタディ集の活用度等を測定することとした。

3) 方法

以下の 3 つの方法で意見を募った。

① 全国の保健所長への調査：

「公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会」の「公衆衛生医師の育成における指導医のニーズ」に関する調査と併せて実施した。アンケートフォームは日本公衆衛生協会斉藤有子氏に作成を依頼した。

② 社会医学系専門医の専攻医への調査：

事業班員の茅野先生の令和 6 年度 国立保健医療科学院長期研修専門課程同期の行政医師を中心に、それぞれのケースへの意見、感想等をエクセル調査票へ回答するよう依頼した。

③ 第 83 回日本公衆衛生学会総会での自由集会「公衆衛生医師の集い 2024」参加者アンケート：

自由集会の感想と同時にケーススタディ集そのものの評価も調査した。Microsoft Forms でアンケートを作成し、自由集会終了後に参加者へ回答を依頼した。

②、③で用いたアンケートフォームおよび調査票は、『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』活用効果検証に関わる事業班員で作成した。

4) 結果

① 全国の保健所長への調査：令和 6 年 11 月 11 日～12 月 12 日実施/回答 137 名

問：『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』をご存知でしたか？

認知率 73.7%（はい 101 名、いいえ 36 名）

問：次の対象者にケーススタディ集を使ったアプローチをしたことがありますか？

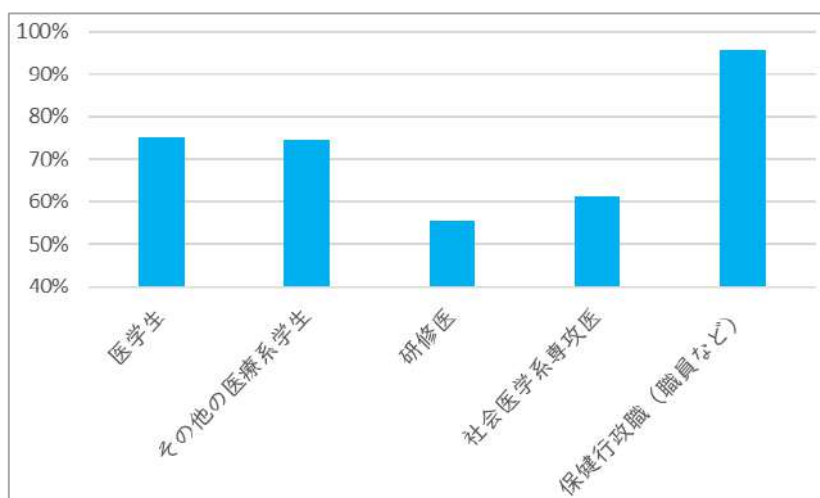
活用したことがある場合は、どのような使い方を教えてください。

	そもそも対象者と接することがない	アプローチしたことはない	話題に出した	現物を見せた (電子版も含む)	個別のケースや コラムを 紹介した	ケースを用いた ワークやディス カッションを 行った
医学生	34	77	10	7	3	6
その他の医療系学生	35	93	5	1	2	1
研修医	61	58	13	3	2	0
社会医学系 専攻医	53	48	19	8	6	3
保健行政職 (職員など)	6	89	18	19	4	1
その他		49	2	0	1	0

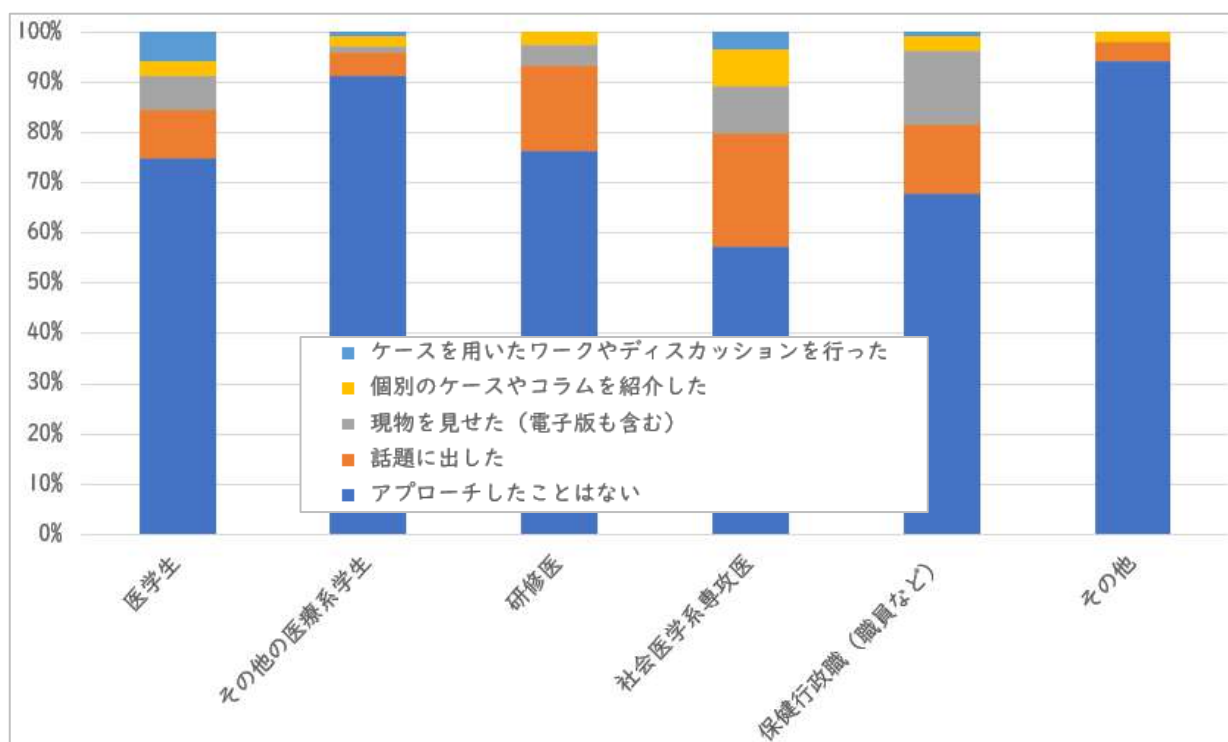
【関連意見】

- 医学生、研修医について、過去に接したことはあるが、ケーススタディ集が配布された後にたまたま機会がないため使用した経験はない。今後機会があれば使いたい。
- まだ、社会医学系専攻医とはなっていない今年度入職の行政医師に対して、ケーススタディ集を用いたディスカッションを行った。
- 保健師人材育成についても、同様に課題が大きく、業務担当制により公衆衛生のスキルが低下してきているので、同様にケースメソッド、処遇ではなく事例を検討できるよう働きかけている。
- 新人保健師の指導用に活用するよう紹介した。

【各対象者への“接触率”】



【接する機会があった対象者へのケーススタディ活用率】



調査結果より、作成当初に想定していた読者である社会医学系専攻医を対象としたケーススタディ集の活用率（43%）、および、接する機会が多い保健行政職に対する活用率（32%）が高いことが見て取れた。専攻医よりも接する機会が多い医学生（活用率 25%）・医療系学生（活用率 9%）に対するアプローチは、保健行政や公衆衛生医師の広報の手段の一つとしても、まだ開拓の余地があるかと考える。ワークやディスカッションを実施した割合は専攻医よりも医学生を対象とした場合の方が高かった。

問：ケーススタディ集へのご意見がありましたら、教えてください。特に第2巻を作成するとしたら取り上げてほしいテーマや事例があれば、具体的に教えてください。（主な意見を抜粋）

【良かった点】

- コラムや「coffee break」の内容が非常によかった
- デザインや事例の整理がしっかりとされている。
- 自分自身も、新しいアプローチについて学ぶことができた。
- 行政医師の仕事を理解するために役立つ（研修医や行政に転職を希望する医師に有用）。

全体として、今後の実践に役立てたいという前向きな意見が多かった。また、精度の高い具体的な事例の提示によって安心感を得たという旨の意見もあり、そこから本ケーススタディ集全体への信頼にもつながるのではないかと感じた。

【内容・編集に関する意見】

- ケースの行動のどの部分がどのコンピテンシーに相当しているのかを示して欲しい。
- 主人公がその時点で持っていると思われる各コンピテンシーのレベルがあまりイメージできない。具体性が不足している。
- 本文のページ番号と PDF 上でのページ番号を一致させて欲しい。
- 法律や厚労省の通達、研修会に関する情報を追加すれば、より価値のある一冊になるのではないか。
- 視認性を向上させるためにフォントサイズを改善して欲しい（中年以降の指導医にとっての読みやすさも重要）。
- 研修にそのまま使用できるパワーポイント等の資料や、改正感染症法などの動きを踏まえたトピックスなどがあれば活用しやすい。

【その他】

- 今回の調査を機に、あらためて専攻医の指導や医学部生実習に活用したいと思った。
- 十分活用できていなかった。指導医間の認識共有から始めたい。
- 活用してみようという場面がない。
- 法律や制度は変わっていくものなので、定期的にメンテナンスが必要になると思う。
- 「各地での実践を記録として残す」という点でもケーススタディ集が継続的に作成されるのは大事だと思う。

【第2巻で取り上げて欲しいテーマ】

領域	数
病院立ち入り	5
地域医療構想	4
所属長としての「保健所長」の役割	4
動物衛生	3
精神保健	3
災害対応	3
母子保健	2
環境衛生	2
医療安全	2
難病保健	2
医師会や医療機関との連携	2
障害保健福祉	2
協議会・審査会	2
HIV・肝炎の検査実施やピアサポート	1
ワクチン接種	1
市町村支援	1
食中毒疑い事例対応	1
感染症疑い事例対応	1
麻薬・抗精神病薬不正使用	1
学校保健との共同	1
地域包括ケア	1
専攻医とのオンライン面談	1

複数の保健所長から挙げられた「病院立ち入り検査」、「地域医療構想」、「動物衛生」、「精神保健」、「災害対応」等を中心に、若手行政医師の興味を惹く事例を揃えることが望まれていると解釈できる。

同時に、所属長としての保健所長の心構えや振る舞い方、内外での連携や調整の方法についても関心が高いことがうかがえた。自治体によっては保健行政の実務経験が少ない状態で所長に就くこともあり、そのような状況下での専攻医のスキルアップについても取り上げて欲しいという意見もあった。そのあたりも網羅することができれば、中堅以降の行政医師への訴求力の高い第2巻となると考えられる。

② 社会医学系専門医の専攻医への調査：令和6年12月9日～令和7年1月20日実施/回答6名

問：これまでに『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』を読んだことがありますか？

既読率 66.6%（はい4名、いいえ2名）

【各事例の評価】

表のとおり、「学びがあったか」、「業務の参考になったか」、「分かりやすかったか」という三点に関して5段階（1が低評価～5が高評価）で評価をしてもらった。表中の値はその平均点である。自由記載の意見もあわせて、感染症対応や食中毒対応に関するケースが高評価を得ていることが分かった。一方で、公務員として事業の計画から実施まで関わったというCASE2に対しては「より具合的な記載がほしかった」といった意見もあり、入職してから間もない専攻医の先生方にとって、行政の一担当職員として事業を動かすことは馴染みが薄く、イメージが得難いことが推察された。

ケースNo.	ケース概要	学びがあった	業務の参考になった	分かりやすかった
CASE1	外国人の結核患者への対応において、患者とさまざまな接触者の状況を踏まえて対応、助言した事例	4.33	4.50	3.67
CASE2	毎年行われる感染症の啓発活動の主担当となり、公務員として事業に計画から実施まで関わった事例	3.00	3.00	3.00
CASE3	医師の働き方改革の取組を進めるための実態把握、分析、検討、計画、実施までできた事例	4.00	4.00	3.40
CASE4	保健所で地域職域連携に取り組もうと一所懸命にもがいた結果、飛躍的に推進できた事例	4.00	4.20	3.20
CASE5	中学生のヘリコバクター検査を自治体検診で実施するべきか、医学的見地から判断、対案を示した事例	4.40	4.20	3.60
CASE6	新興感染症対応において、全県一括での入院調整を確立した事例	4.40	4.20	4.00
CASE7	新興感染症の急拡大に伴う保健所内の混乱に対し、所内体制の再検討を行った事例	4.60	4.60	4.00
CASE8	新米保健所長として初めて精神保健福祉法第23条に基づく通報に対する対応の検討を行った事例	4.00	4.17	3.67
CASE9	災害時難病患者避難計画を作成している患者の避難訓練に関係者と一緒に実践した事例	4.20	4.20	4.00
CASE10	幼児健診を契機に関わりが始まったマルトリートメント（不適切な養育）疑いの保護者対応事例	4.20	4.20	3.60
CASE11	公害健康被害認定審査会事務局の運営における課題の解決に取り組んだ事例	4.00	3.80	3.40
CASE12	遺体解剖時の結核感染に関する普及啓発、分析評価を実施し、発表論文化まで行うことができた事例	4.20	4.20	3.80
CASE13	小学校給食で発生した大規模食中毒に対応し、さまざまな関係部署と連携した事例	4.60	4.40	3.80
CASE14	離れた公衆衛生医師同士がともに学び交流できる新規事業の立ち上げを行った事例	4.00	4.00	3.80

ケーススタディ集全体に対しての意見としては、「内容、構成、デザインともに充実している」、「実践的な内容が具体的に提供されており、読者にとって有益な資料である」、「コラムや coffee break の部分が情報を補足しており、読みやすさを向上させている」といった肯定的意見が多くを占めた。「通読するには時間と根気が必要である」という指摘もあり、実際にケースに遭遇した際に読み込むという方法を取る人もいると思われる。

ケーススタディ集の活用方法としては、「個人で読みこむ」、「保健所長会でのグループディスカッションで使用されたものに参加した」という経験が示された。今後、専攻医自身が発信者となって「所内職員とのディスカッションの材料として活用したい」という意見もあった。

第2巻で取り上げて欲しいテーマとしては、災害対応を含む健康危機管理を希望する意見が複数挙がった。

③ 第83回日本公衆衛生学会総会での自由集会「公衆衛生医師の集い2024」参加者アンケート： 回答39名

ケーススタディ集 認知率 74.4%、既読率 56.4%

ケーススタディ集を「熟読し、今後の業務に役立てたい」という回答が多くみられた。（詳細は自由集会報告書を参照のこと。）

5) 考察

保健所長への調査および自由集会参加者アンケートを合わせて算出したケーススタディ集の認知率は約74%、専攻医調査および自由集会参加者アンケートを合わせて算出した既読率は約57.8%

であった。各自治体へ送付した冊子、あるいはインターネット上で公開している PDF も含め、行政医師の四分の三程度にはケーススタディ集を知ってもらうことに成功し、過半数には手に取って頁をめくってもらえているという状況を確認できた。認知の向上には、各媒体からの情報発信も寄与していたものと推察している。次年度以降も、新規入職者や保健所への新規異動者等に向けた活用を促すアナウンスをコンスタントに続けていきたい。

ケーススタディ集のデザイン、構成については肯定的評価が多かったが、フォントサイズ等は検討の余地があるといえる。コラムや coffee break は概ね好評であった。各ケースの内容に関してはある程度、初学者のよすがになり得るものと判断いただけたと考える。一方で、新人行政医師へフォーカスした結果、中堅以降には物足りないといった意見、ケースの具体性とリアリティが乏しいという意見もあった。また、臨床医の視点からは異なる見解が導かれ得るケースもあるという指摘もあった。

第2巻に向けては、「災害対応」、「病院立ち入り検査」、「地域医療構想」、「動物衛生」、「精神保健」等のケースの収集を望む声が多く聴かれた。加えて、「食中毒疑い」、「感染症疑い」といった基本的なケース、ラインの所属長としての保健所長の心構えや振る舞い方、内外での連携や調整の方法に関するものもニーズがあることが分かった。第2巻を作成するのであれば、これらを踏まえて、誰を対象としたケーススタディ集にするかということを明確にして、内容を選定する必要があると考える。

また、本調査を通じて、医学生・医療系学生や入職希望者等に対しても活用の路があることに気づいたという意見もあった。自由集会でのケーススタディ集を用いたグループワークの実施も合わせて、チームとして、効果の検証だけでなく、ケーススタディ集活用促進の宣伝活動もできたと考える。

本ケーススタディ集は、事業班の行政医師が実際に対応したケース等を基に執筆している。プライバシーや個人の尊厳を守る観点から、実ケースの内容を匿名化・一般化する作業は必須だが、それを凌駕するリアリティと具体性をケースに付与するためのクリエイティビティも求められていると感じた。それは一定の負荷がかかる作業ではあるが、数年に一度、このようなケーススタディ集の刊行を継続することには、公衆衛生の実践の記述を後世に遺すという意義もあろう。次年度以降にかけては、第2巻の製作に関する議論と同時に、法律や制度の変化に合わせて本ケーススタディ集自体を補強させていくことと、研修に使用できる教材の開発等も検討していきたい。

6) その他

YouTube 動画：動画作成チームに、ケーススタディ集の周知と活用に関する動画の作成を依頼した。



チーム会議：第一回チーム会議…令和6年7月2日20時10分～20時45分（ZOOM）

第二回チーム会議…令和6年9月20日19時～20時（ZOOM）

以降はLINEやメール上での情報交換をおこなった。

II 事業報告

2 実践事業

(1) 公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー(PHSS)2024 の開催

田邊裕(名古屋市保健所西保健センター)	宗陽子(長崎県県央保健所(兼)長崎県国保・健康増進課)
横山勝教(香川県中讃保健所)	松澤知(新潟県福祉保健部(兼)三条保健所)
服部早苗(茨城県筑西保健所)	兼任千恵(神奈川県平塚保健福祉事務所)
平本恵子(広島市南区厚生部／南保健センター)	
石倉凱(島根県健康福祉部医療政策課)	山本信太郎(福岡市保健所精神保健・難病対策部)
白井千香(枚方市保健所)	
山本長史(北海道江別(兼)千歳保健所)	高橋宗康(帝京大学大学院公衆衛生学)
堀切将(福島県県中保健所)	武智浩之(群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課)
早川貴裕(栃木県保健福祉部医療政策課)	向山晴子(世田谷保健所)
高橋千香(世田谷保健所)	北岡政美(金沢市保健所)
宮園将哉(大阪府岸和田保健所)	植田英也(大阪市健康局健康推進部健康づくり課)
岩瀬敏秀(岡山県備前保健所)	劔陽子(熊本県阿蘇保健所)
藤井可(熊本市総務局行政管理部労務厚生課安全衛生班)	
茅野正行(宮崎県高鍋保健所)	豊嶋典世(宮崎県日向保健所)
前田光哉(環境省大臣官房(水・大気環境局等担当))	
尾島俊之(浜松医科大学)	吉田穂波(神奈川県立保健福祉大学)
曾根智史(国立保健医療科学院)	町田宗仁(国立保健医療科学院)
宇田英典(地域医療振興協会)	内田勝彦(大分県福祉保健部)
藤田利枝(久留米市保健所)	

1) 要約

公衆衛生に関心のある医師・若手公衆衛生医師・医学生を対象として「公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー(以下 PHSS)2024」を開催した。直前の気象状況に伴い、開催時刻の直前の変更等を要したが、今年も参加者満足度の高いイベントとなった。イベント自体の成熟度は増す一方で、新たな課題も生まれている。これに対応し続けることが今後の更なる PHSS の発展のみならず、全国の公衆衛生活動の発展に寄与する。

2) 目的

- (ア) 臨床医や医学生等、現在公衆衛生医師ではない者に対して公衆衛生医師業務の実態が見える化することで、それらの者が公衆衛生医師を今後の選択肢と考えられるようになること。
- (イ) 既に公衆衛生医師になった者に対して公衆衛生医師業務を深化することで、それらの者が公衆衛生医師業務に対するモチベーションを維持し、離職予防となること

3) 対象

公衆衛生に関心のある医師・若手公衆衛生医師・医学生

4) 方法

(ア) 事前準備

① 日時・場所

1 日目:令和 6 年 8 月 17 日(土)13:30-17:30(その後有志による名刺交換会と情報交換会)

※直前に 15:30-19:30 の開催に変更し、情報交換会は中止した。

2 日目:令和 6 年 8 月 18 日(日)9:30-13:00

都市センターホテル(東京都)

② 広報と申し込み方法

キャッチコピーを「この夏、未来の仲間に会いに行こう。」とし、フライヤー(図 1)を作成した。このフライヤーを保健所・都道府県庁・大学医学部に郵送した。また、全国保健所長会ホームページ、メーリングリスト、当事業班の運営するデジタル媒体(SNS、Youtube 動画、ブログなど)、医療情報提供サイト「民間医局コネクト」などを通じて広く広報した。フライヤーやホームページ等の電子媒体に申し込みフォームの URL や二次元コードを添付し、そこへ個人がアクセスするオンライン申し込み方式とした。入力項目は氏名・所属・メールアドレス等のほか、

①知り合い・友人に、公衆衛生医師の仕事を強くお勧めしますか？(11 段階:既に公衆衛生医師として業務している方に対しての設問)

②公衆衛生医師という仕事に将来就きたいと考えていますか？(11 段階:公衆衛生医師として業務していない方に対しての設問)

③セミナーの参加理由や、セミナーで得たいものをお聞かせください
という質問項目を設け、セミナー内容の企画や定員超過時の選考の際に参考にした。

③ 選考方法と参加登録

最終的な申し込み総数は 57 名となり、今年も定員 36 名に対して大幅に上回った。定員枠を 42 名に広げるとともに、申し込みフォームの回答を総合的に選考の検討材料とし、参加者 42 名を決定した。なお、選考に漏れた 15 名に対しては「公衆衛生医師合同相談会(PHCC)」や「保健所長のお仕事紹介(ブログ)」等、我々の事業班が運営する公衆衛生医師の確保・育成に関する事業の情報を提供した。選考した 42 名に対しては昨年同様に「Peatix」を用いて参加登録を行った。なお、1 名は直前にキャンセルとなり、最終参加者は 41 名だった。

(イ) 開催直前の日向灘地震と台風 7 号に対する対応

① 日向灘地震について

令和 6 年 8 月 8 日 16 時 43 分頃に日向灘の地震があり、宮崎県を中心とした被害があった。また、この地震に伴い史上初めての「南海トラフ地震臨時情報(注意)」が発表された。

図 1. フライヤー



翌日午前に運営メンバーで緊急ミーティングを行い、一定数の直前キャンセルが発生することを見越した開催方法(プログラムは予定通り行い、直前キャンセルが効かない情報交換会を当日に企画運営する方法)に変更することを決定した。

② 台風7号について

令和6年8月10日頃に発生した台風7号が、「8月16日(金)～8月17日(土)」にかけて関東圏に上陸する見込みとなり、8月13日(火)には参加予定者からも開催の可否に関する問い合わせが複数あった。開催地である関東圏の被害や公共交通機関の運行状況が直前まで分からない中、開催の可否、開催方法変更(オンライン、ハイブリッド)を決定する必要があるが生じた。

③ 直前の開催方法の変更

1. 2時間遅れでの開催の決定

開催1日目である8月17日の公共交通機関の乱れを見越して、当初の予定より2時間遅らせて現地開催し、飲食を伴う情報交換会を行わない方針に決定した。

2. 参加者とのリアルタイム情報共有

ここ数年はPHSS開催当日に参加者と「LINEオープンチャット」を用いて資料や写真の共有を行っていた。今年は上記の気象情報に伴う開催状況の検討過程をリアルタイムに共有するために、事前にLINEオープンチャットを運用開始した。そして8月13日から15日にかけて1日2回、気象情報やそれに伴う運営側の検討内容を更新した。この対応により、直前の開催方法の変更でも大きな混乱は生じなかった。

(ウ) 当日の運営

① プログラム内容(図2)

セミナーは二日間(1日目は午後、2日目は午前)開催し、事業班員と外部講師による3つの講義とグループワーク、若手事業班員による公衆衛生医師の業務紹介(若手パワー!トーク)、全体討論および名刺交換会を行った。グループワークの方法は昨年と同様とし、1グループにつき参加者6名、ファシリテーター・記録・助言者それぞれ1名ずつの9名とした。

② 参加受付

昨年はPeatixを用いたデジタル受付を行ったが、今年は紙媒体による受付方法とした。

図2. プログラム内容

17 SAT		18 SUN	
SCHEDULE DAY 1	一般企画	SCHEDULE DAY 2	一般企画
15:30	オープニング 私営有識者 日本公衆衛生協会理事 山手千恵氏	9:30	オリエンテーション
15:40	オリエンテーション	9:35	アイスブレイク&交流タイム テーマトーク・参加者自己紹介
15:45	アイスブレイク&交流タイム テーマトーク・参加者自己紹介	9:45	セッショントピック② 国立感染症研究所FETP 研修体験記 講師：北原政史氏 全次市健課長
16:30	セッショントピック③ 保健所長の働きと可能性： 地域の気象度を高めることが 大きなやりがいの一つ 講師：内田隆宏氏 太田保健所保健課長	10:45	セッショントピック④ 認知症の症が命懸けで 教えてくれたこと 映画「ほけますから」 よろしくお願ひします。 講師：佐藤麻子氏 映画監督・ノンフィクション作家
17:00	休憩	11:00	セッショントピック⑤ 認知症の症が命懸けで 教えてくれたこと 映画「ほけますから」 よろしくお願ひします。 講師：佐藤麻子氏 映画監督・ノンフィクション作家
17:15	若手パワー!トーク 公衆衛生医師の仕事あれこれ 講師：堀田守直氏 茨城県加賀保健所 藤田千恵氏 神奈川県平塚市保健福祉事務所 石倉明子氏 北相模原保健所 松澤知氏 東京保健所保健課長	12:00	休憩
18:30	休憩	12:15	全体討論 パネリスト+参加者 フリーディスカッション
18:45	全体討論 パネリスト+参加者 フリーディスカッション	12:45	クロージング 参加者感想 全次市健課長山手千恵氏 山手千恵氏 全次市健課長山手千恵氏 山手千恵氏 全次市健課長山手千恵氏
19:35	総括・連絡 山手千恵氏 (希望者のみ) 名刺交換会(終了20時予定)		アンケート・記念撮影

台風7号の影響により、予定時間、講師・講演内容を変更する可能性があります。ご了承ください。また、情報交換会を運営側の企画は致しません。お時間や体力に余裕のある方はぜひ有志の懇話会を開催し交流を深めてください。

③ 役割分担(図 3)

今年は昨年より運営メンバーを増員した(昨年 8 名、今年 10 名)。ノウハウの引継ぎを意識し、ベテランメンバーと若手メンバーが出来る限り共同できるような組織図とした。また、グループワークには参加された全ての事業班員をグループに割り当てることでグループ内の議論の活性化を図った。

図 3-1. 役割分担
(運営メンバー)

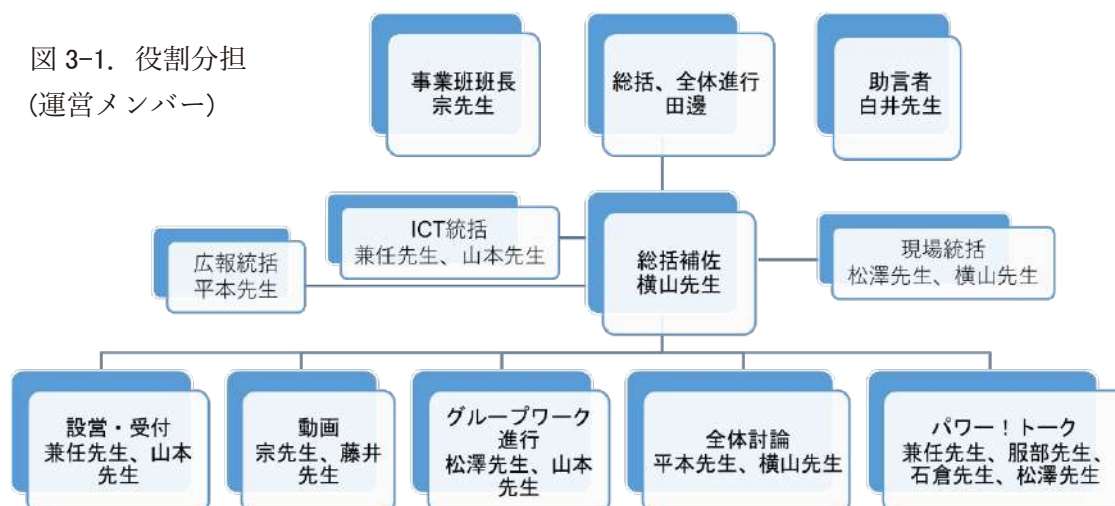


図 3-2. 役割分担(事業班員)

グループ	ファシリテーター	記録	助言者
A	山本長史	植田英也	曾根智史(Day1)→藤田利枝(Day2)
B	武智浩之	早川貴裕	宇田英典
C	宮園将哉	堀切 将	前田光哉
D	高橋千香	岩瀬敏秀	向山晴子
E	劔 陽子	高橋宗康	白井千香
F	尾島俊之	豊嶋典世	町田宗仁(Day1)→内田勝彦(Day2)
G	吉田穂波	茅野正行	北岡政美

5) 結果

(ア) 事前アンケート(申込者 57 人)

申し込み者合計 57 人の内訳を示す。

① 性別

男性 30 人(53%)、女性 26 人(46%)、回答なし 1 人(2%)

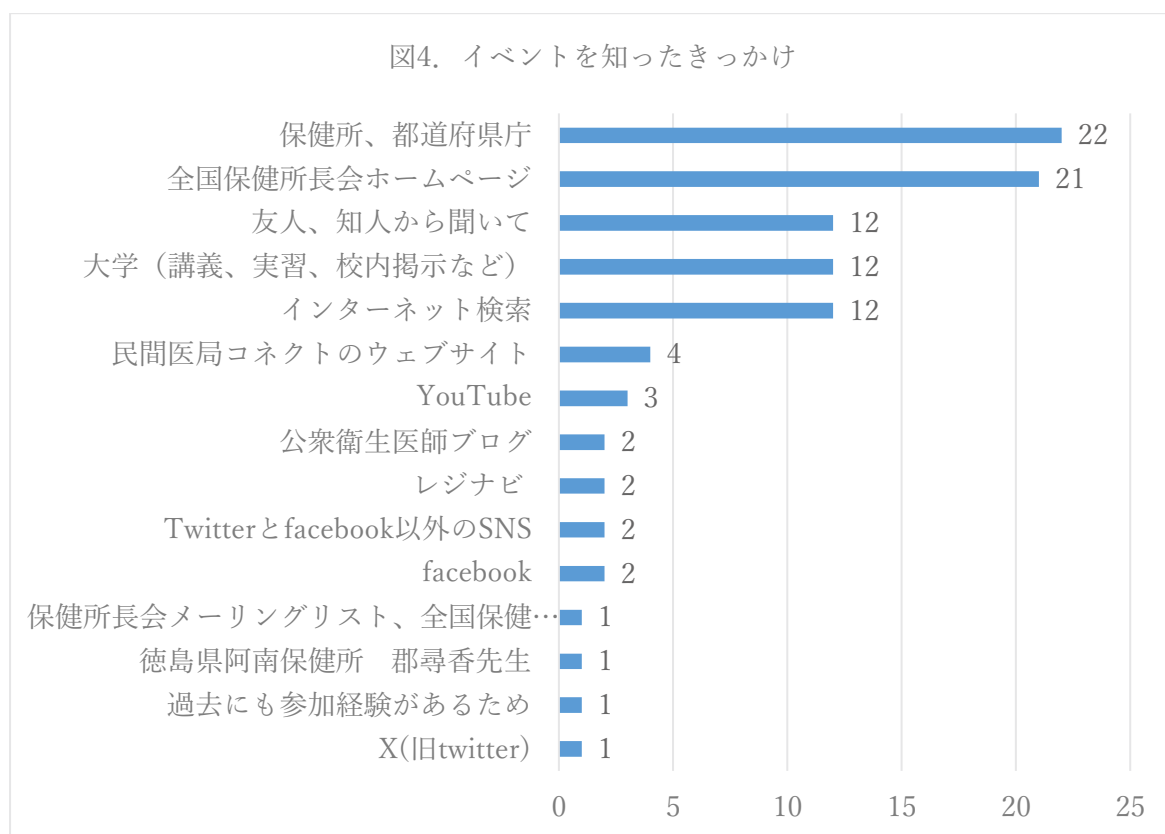
② 年齢(記載なし 1 人)

平均 30.2 歳(21-62 歳)

③ イベントを知ったきっかけ(図 4)

2023 年に初めてコラボレーションした「民間医局コネクト」のウェブサイトと、Youtube が一定数いた。また、「インターネット検索」の占める割合が例年より高くなっており、ウェブ媒体で自発的に公衆衛生医師に関する情報を得ようとする者が増えた可能性がある。

図4. イベントを知ったきっかけ

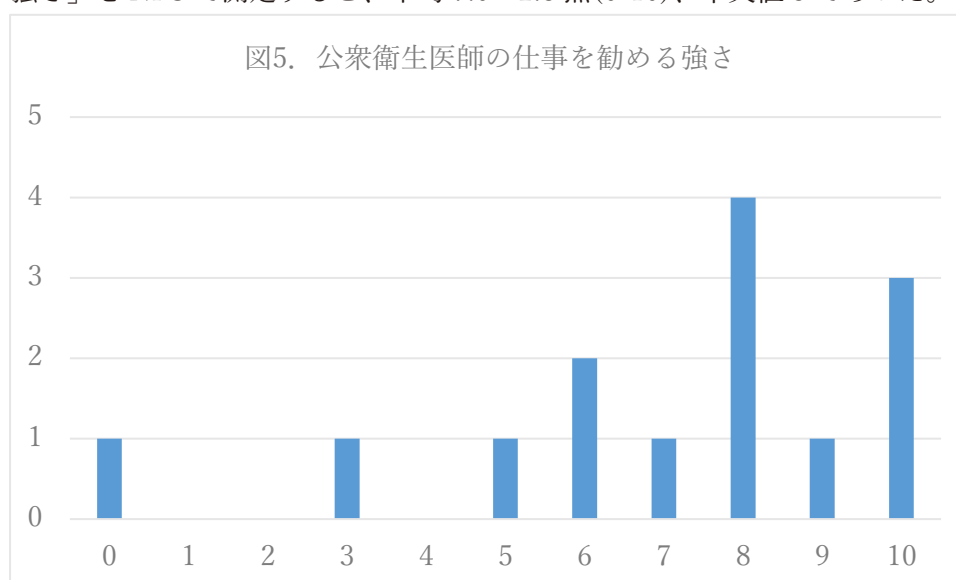


④ 職種

医学生 12 人(21%)、臨床医師 31 人(54%)、公衆衛生医師 14 人(25%)

⑤ 公衆衛生医師の仕事を勧める強さ(図 5)

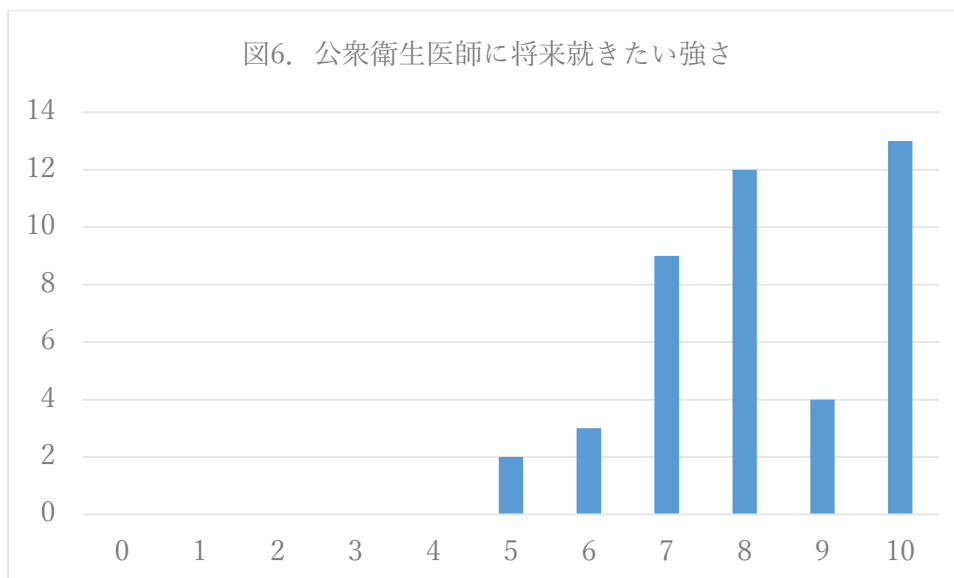
申込者のうち現在公衆衛生医師に対する質問項目「公衆衛生医師を知人や友人に勧める強さ」を NPS で測定すると、平均 7.0 ± 2.8 点(0-10)、中央値 8 であった。



⑥ 公衆衛生医師という仕事に将来就きたいと考える強さ(図 6)

申込者のうち現在学生・臨床医師に対する質問項目「公衆衛生医師に将来就きたい強さ」を NPS で測定すると平均 8.2 ± 1.5 点(5-10)、中央値 8 であった。

図6. 公衆衛生医師に将来就きたい強さ



(イ) プログラム内容

① 1日目

1. セッショントピック 1

講師:内田勝彦(大分県福祉保健部)

演題:保健所長の働きと可能性

保健所長に就任されてから現在に至るまでの経験(公害案件のリスク評価と住民健診を行い地域住民に情報提供したこと、医師会とコラボした糖尿病重症化予防対策事業、全国保健所長会会長時の新型コロナウイルス感染症対策について等)を基に、保健所や保健所長の業務とやりがいについてご講演いただいた。グループワークでは保健所がその地域の医療資源をつなぐ場であることや、そのために現場を直接見ることの重要性の気づきなどが感想として挙げられた。

2. 若手パワー！トーク

講師:松澤知(新潟県福祉保健部(兼)三条保健所)、服部早苗(茨城県筑西保健所)、兼任千恵(神奈川県平塚保健福祉事務所)、石倉凱(島根県健康福祉部医療政策課)

我々の事業班から4人の若手公衆衛生医師が登壇し、昨年度までに同様の企画を行った際に挙げられた質問を基に働き方ややりがい、ワークライフバランスや収入面に至るまで、業務の実態を伝える企画とした。当日会場参加できないメンバーが事前収録した動画で司会進行を務めるという、過去に例のない方法を取り入れ大きな反響があった。事後アンケートでは参加者満足度が最も高い企画となり、「公衆衛生医師として勤務するにあたって知っておきたい情報を具体的に知ることができた」という声が多くあった。

3. 全体討論

臨床系専門医や学位、MPHの必要性といったこれからのキャリアパスに関することから、保健所長として心がけていたこと、大変だったりうまくいかなかった思い出といった「この場でしか聞けない経験談」のようなことまで広く話題が広がった。

4. 名刺交換会

上記の一般企画終了後に希望者のみ参加としたが、ほとんどの参加者がそのまま会場に残って名刺交換会にも参加していた。

② 2日目

1. セッショントピック 2

講師:北岡政美(金沢市保健所)

演題:国立感染症研究所 FETP 研修体験記

コロナ禍で大きく注目を浴びた実地疫学の必要性といった総論から、そのトレーニングコースとしての FETP 研修についての各論までを詳しく講演いただいた。参加者からは「国を動かすようなガイドラインなどの作成現場の実態を知れたことや、平時のサーベイランスの重要性を理解した」「Event Based Surveillance(EBS)をどのレベルまで確認するのか」などの幅広い意見や質問があった。

2. セッショントピック 3

講師:信友直子(映画監督、ノンフィクション作家)

演題:認知症の母が命懸けで教えてくれたこと

認知症となった母、介護する父とご自身の経験をお話しいただいた。参加者からは「日本では、家族が介護していることが美談になってしまうことが印象深かった。」という意見や、「認知症の方も地域で受け入れられる社会にする」「薬で治すのではなく社会を変える」といった公衆衛生の視点からの提案もあった。信友先生が「この話をすると皆さんが自分や家族のことに置き換えて考えてくれる」とお話しされたことも印象的であった。

3. 全体討論

北岡先生には自治体からの FETP 派遣に関する質問が、信友先生には認知症の方や障がいを持つ方を受け入れるための地域作りについての質問などがあった。感染症対策や地域包括ケアといった保健行政の業務について、参加者のみならずスタッフにとっても考えを深める機会となった。



(ウ)事後アンケート

申込者 57 人のうち選考と当日キャンセルを除く最終参加者 41 人に対し、Google フォームを用いた無記名式の事後アンケートを実施した(回答人数 39 人、回答率 95%)

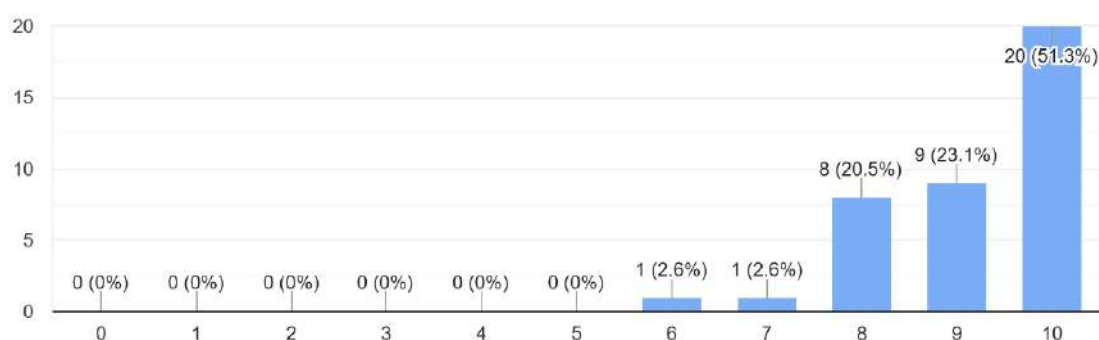
① 参加者の内訳

医学生:7 人(17%)、臨床医師:23 人(56%)、若手公衆衛生医師:11 人(27%)

② イベントに対する満足度(図 7)

NPS は全体平均 9.2 点(n=39)であった。うち、医学生・臨床医師(=未公衆衛生医師)は 9.1 点、若手公衆衛生医師は 9.5 点であり、対応のない t 検定で前者と後者の NPS に有意差は認められなかった(Excel を使用し、統計的有意水準は 5%とした)が、若手公衆衛生医師の方が医学生・臨床医師に比べて満足度が高い傾向が示された。

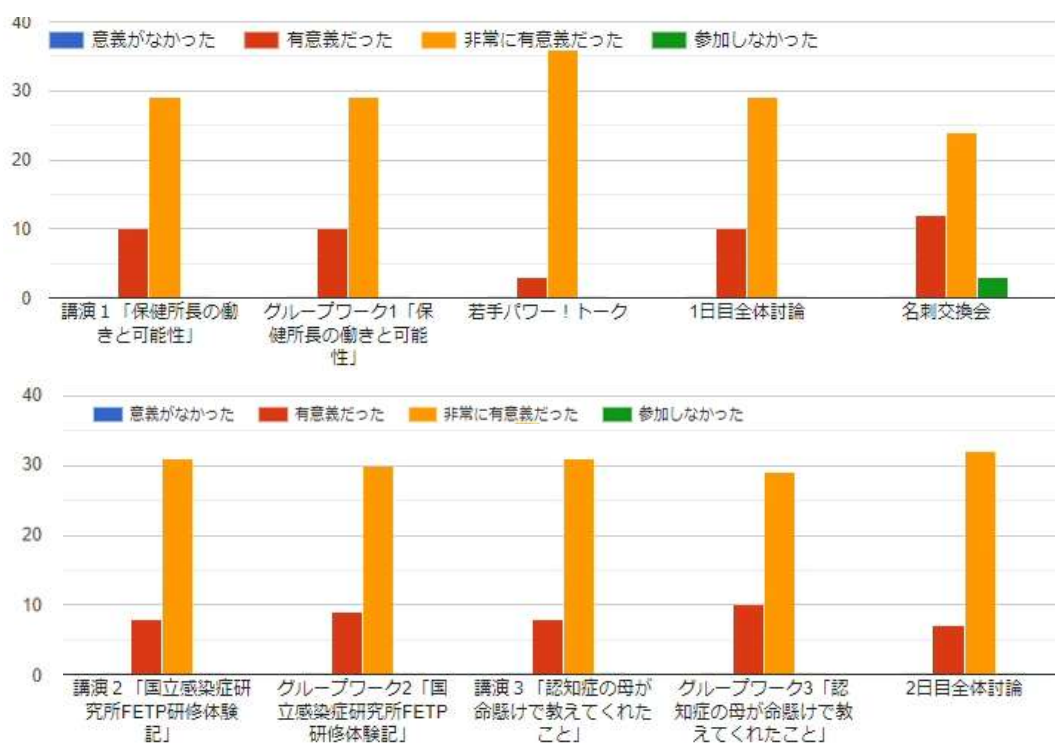
図 7. イベントに対する満足度



③ 各セッションの意義(図 8)

全てのセッションが「非常に有意義だった」もしくは「有意義だった」と回答された。

図 8. 各セッションの意義



6) 考察

今年の PHSS はテーマを「公衆衛生医師業務の見える化・深化」として開催した。直前の気象状況により現地開催が危ぶまれたが、直前に運営メンバーで臨時ミーティングや LINE での意見交換を重ねた末に「予定より開始時刻を 2 時間遅らせる」という柔軟な対応とすることで安全に現地開催することができ、キャンセル者も最小限に抑えられた。また、講師、事業班員、運営メンバー、参加者全員の熱意により参加者満足度も非常に高い結果となった。直前の開催時刻変更という柔軟な対応をしてもこのイベントが成功したのはプログラム内容、グループワークの方法などの運営ノウハウが蓄積していたことと、事業班員の自治体を越えた顔の見える関係が築かれていたことが大きい。その意味でも PHSS はイベントとしての成熟度が高まっていると言える。一方、2012 年から開催し、今回で 13 回目を迎えた PHSS の新たな課題も見えてきたためその内容を記載する。

PHSS の開催目的は「公衆衛生以外の分野で働く医師・医学生が公衆衛生分野への関心を高め、入職につなげること」と「(若手)公衆衛生医師が業務の魅力を再認識することでモチベーションの向上・離職防止につなげること」に大別される^{1),2),3),4)}。例年の事後アンケート結果で参加者満足度は高く、定量的には 2021 年度に当事業班で「公衆衛生若手医師・医学生向けサマーセミナー、公衆衛生医師合同相談会に参加後、行政に入職した公衆衛生医師に対する調査」という調査事業を行い⁵⁾、PHSS 等のイベントが入職のきっかけの一つとなっていることを示していることなどから、PHSS はこれらの目的に対して適切なイベントであると考ええる。また今年の PHSS 運営メンバー 10 名のうち 4 名は PHSS に参加者として参加経験があること、今年の PHSS に公衆衛生医師として参加した参加者が以前に研修医や医学生として参加経験があることなども、PHSS 参加者がその後、積極的に公衆衛生医師の確保・育成事業に関わることで新たなロールモデルとして PHSS の参加者に良い影響を与えるという好循環が生まれていることを示唆する。一方、PHSS の持続的な開催とさらなる発展(ひいては公衆衛生医師の確保・育成・離職防止事業の発展)には厚生労働省をはじめとした関係機関やマスメディアに対して、より明確に事業としての開催目的とその成果を説明できることが望ましい。2021 年度の調査事業ではコロナ禍の調査であり対象者数が少なかった(N=8)。現在はさらにこれらのイベントへの参加経験者数が増えているため、PHSS 等のイベントにも成果指標を設定し同様の調査事業を定期的に行い PHSS 等の重要性を見える化することが今後の公衆衛生医師の確保・育成・離職防止事業の発展にとって有効と考える。

PHSS は例年「公衆衛生以外の分野で働く医師」「(若手)公衆衛生医師」「医学生」の全てを参加対象者としている。コロナ禍の 2020 年、2021 年はオンライン開催としたものの、2022 年以降は現地開催のみとしている。そして開催目的を達成するには現地開催で行うことが非常に重要であると運営側は認識している。その結果、運営側のメンバー数や予算内で確保可能な会場規模で対応可能な人数が限られてくるが、2022 年以降は毎年定員を上回る応募のために選考漏れが生じる(選考漏れ人数:2022 年 9 名、2023 年 16 名、2024 年 15 名)。選考漏れの方に対しては例年、他の参加可能なイベントや個別の情報提供を可能な限り行っているが、そもそも選考漏れとしないことが大きな課題である。この課題について今年の PHSS 終了後に運営メンバーで検討会を行い、来年度に向けての解決策を提言した(予算に収まるもう一回り大きい会場に変更することの提案、グループワークの記録簡略化による従事スタッフ必要数の削減)。いずれは PHSS の運営経験者を中心として類似イベントを各地域で行えることが望ましい。

一方、これらの課題を解決しつつ更に PHSS をはじめとした公衆衛生医師の確保・育成事業の発展

を目指して全国の事業班員が試行錯誤する過程で、事業班員個々のスキルアップや自治体を超えた連携強化につながるといった側面がある。自治体を超えた連携強化が災害や感染症パンデミックなどの健康危機対応時に非常に重要であることは2024年の能登半島地震における被災地支援活動でも明らかであった。この意味でも、PHSSを持続的に開催し時宜に合わせて発展させていくことは公衆衛生医師の確保・育成・離職防止のみならず、全国的な公衆衛生活動の発展にも寄与するものと考えられる。

7) まとめ

2012年の開始以来、歴代の事業班長や事業班員、PHSS運営メンバーを中心とした関係者の不断努力により運営され、イベントとしては円熟期を迎えつつあるPHSSだが、解決すべき課題もある。引き続きPHSSを開催することと、課題を解決しさらに発展させていくことが必要である。

8) 参考資料

1)令和5年度 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書. p29-48

https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2023_file01.pdf(最終アクセス 2025年1月6日)

2)令和4年度 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書. P35-45

https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2022_file01.pdf?RR(最終アクセス 2025年1月6日)

3)令和3年度 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書. P36-47

https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2021_file03.pdf (最終アクセス 2025年1月6日)

4)令和2年度 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書. P20-24

https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2020_file03.pdf (最終アクセス 2025年1月6日)

5)令和3年度 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業報告書. P17-23

https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2020_file03.pdf (最終アクセス 2025年1月6日)

II 事業報告

2 実践事業

(2) 公衆衛生医師 WEB 合同相談会

(Public Health Career Counseling : PHCC) 2024 の開催

岩瀬 敏秀 (岡山県備前保健所)	宗 陽子 (長崎県県央保健所)
高橋 宗康 (岩手県奥州保健所)	堀切 将 (福島県県中保健所)
武智 浩之 (群馬県健康福祉部)	兼任 千恵 (神奈川県平塚保健福祉事務所)
高橋 千香 (世田谷保健所)	北岡 政美 (金沢市保健所)
田邊 裕 (名古屋市西区保健福祉センター)	宮園 将哉 (大阪府岸和田保健所)
植田 英也 (大阪市健康局)	平本 恵子 (広島市南区厚生部南保健センター)
横山 勝教 (香川県中讃保健所)	山本 信太郎 (福岡市保健医療局)
前田 光哉 (環境省)	曾根 智史 (国立保健医療科学院)
町田 宗仁 (厚生労働省)	原澤 朋史 (厚生労働省)

(特別援助)

松谷有希雄 (日本公衆衛生協会)

藤田 利枝 (久留米市保健所)

(1) 要約

公衆衛生医師 WEB 合同相談会 (Public Health Career Counseling : PHCC, 以下, PHCC) は令和 2 年度からオンラインでの進路相談を目的として実施されている。

プログラムとして、「保健所医師とワークライフバランス」および「厚生労働省医系技官について」と題した公衆衛生医師の実際の働き方に関する講義 (各 20 分) と、地域別相談会 (60 分) を実施した。参加申込は 40 名で、当日の参加者は 33 名であった。

昨年同様に相談会の時間を 60 分とし、全ての参加者の疑問・相談に十分な時間をとって対応した。また、会の終了後には個別相談の時間を設け、もう少し話を聞いてみたいという参加者の要望に応えた。相談会を地域別相談会のみとすることで、個別相談の時間を含めて 16 時に終了した。時間を 1 時間短縮したが、26 件の回答が得られた事後アンケートにおいて、イベントへの満足は 10 点満点中、平均 8.7 点と高評価を得ることができた。

今後も、オンライン開催という参加しやすさを活かし、全国の公衆衛生に興味を持つ学生・医師の志向性を強化する機会としていきたい。

(2) 目的

研修医を含む医師や医学生等における公衆衛生分野への関心を深め、公衆衛生医師の潜在的な人材の創出とその入職意欲を高めるという目的は PHSS と同様である。加えて、現役公衆衛生医師に対しては、悩みの緩和・モチベーションの向上を導くことを目的とした。さらに、会の時間を 4 時間から 3 時間に短縮し、時間の確保しやすさを向上させることで、全国に存在している公衆衛生に興味を持つ学生・医師の掘り起こしと実際の就職へ繋げることを目指した。

(3) 方法

①対象

公衆衛生分野に関心を持つ医学生・医師

②日時

令和6年9月21日(土) 13:00~16:00

③参加者の募集および申し込み方法

全国保健所長会ホームページ掲載、各種メーリングリスト、SNS等で開催を広報周知した。昨年度と同様、Google Formsで参加申込フォームを作成し、チラシのQRコードから参加を受け付けた。

また、申込の際、基本的な属性に加えて、本イベントを何で知ったか、公衆衛生に興味を持ったきっかけは何か、勤務を希望する自治体エリアの第一希望。第二希望、質問したいテーマ、公衆衛生医師に就きたい考えの程度、公衆衛生医師になる見込みの時期等について聴取した。

④プログラム

公衆衛生医師の実際の働き方が伝わる講演を2つ、相談会を1つ実施した。

SCHEDULE

公衆衛生医師WEB合同相談会

2024年9月21日(土)

13:00~13:10	開会挨拶 松谷有希雄 日本公衆衛生協会 理事長 藤田利枝 全国保健所長会 会長
13:10~13:30	講演1「保健所医師とワークライフバランス」 高橋千香 世田谷保健所 課長
13:30~13:50	講演2「厚生労働省 医系技官について」 原澤朋史 厚生労働省大臣官房厚生科学課 主任科学技術調整官
13:50 ~ 14:00	休憩
14:00~15:00	地域別相談会
15:00~15:15	まとめ
15:15~15:20	閉会
15:20~16:00	個別相談 (希望者のみ)

⑤WEB 会議ツール

Zoomを使用した。相談会はブレイクアウトルーム機能を活用した。

(4) 結果

①参加者数

事前連絡あり 6 件，事前連絡なし 1 件の欠席があり，参加者は 33 名であった。

②講演 1「保健所医師のワークライフバランス」

世田谷保健所の高橋千香先生から講話いただいた。ご自身のこれまでのキャリアを振り返りながら，保健所医師の業務内容やコア・プリンシプルといったワークの部分と勤務時間や福利厚生等のライフの部分語られた。

③講演 2「厚生労働省医系技官について」

厚生労働省大臣官房厚生科学課の原澤朋史先生から講話いただいた。行政医師という選択肢，医系技官の業務・キャリアパスについての解説だけでなく，ご自身のキャリアの軌跡についてもお話いただいた。

④地域別相談会

勤務を希望する自治体エリアによって，厚生労働省，国際機関，東京，神奈川，北海道・関東，中部，近畿，中国・四国・兵庫，九州の 8 グループを設定した。

その組織，自治体での実際の働き方だけでなく，キャリアパス，育児との両立，国際保健の現場への伝手，県型と市型の違い，見学・インターンの可否，出向の具体例，コミュニケーション能力，公衆衛生医師のやりがい・難しさ，研究の可能性等について活発な質疑が行われた。

⑤個別相談

もう少し話を聞いてみたいと残った参加者 12 名に対応した。誰もが自由に部屋を行き来できる設定を付与した上で，ファシリテーターと参加者を相談会と同じ部屋に戻し，相談を続けた。

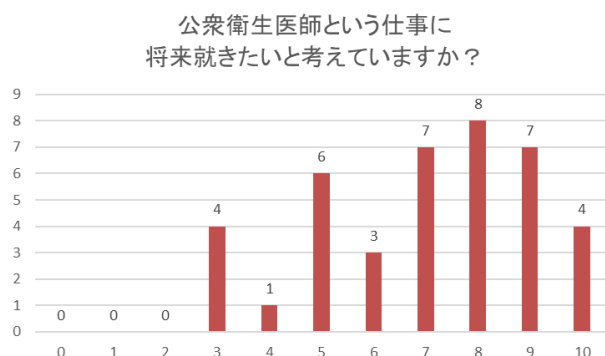
(5) アンケート結果

①申込時アンケート

有効回答数 40，男性 16 名，女性 23 名，記載なし 1 名であった。

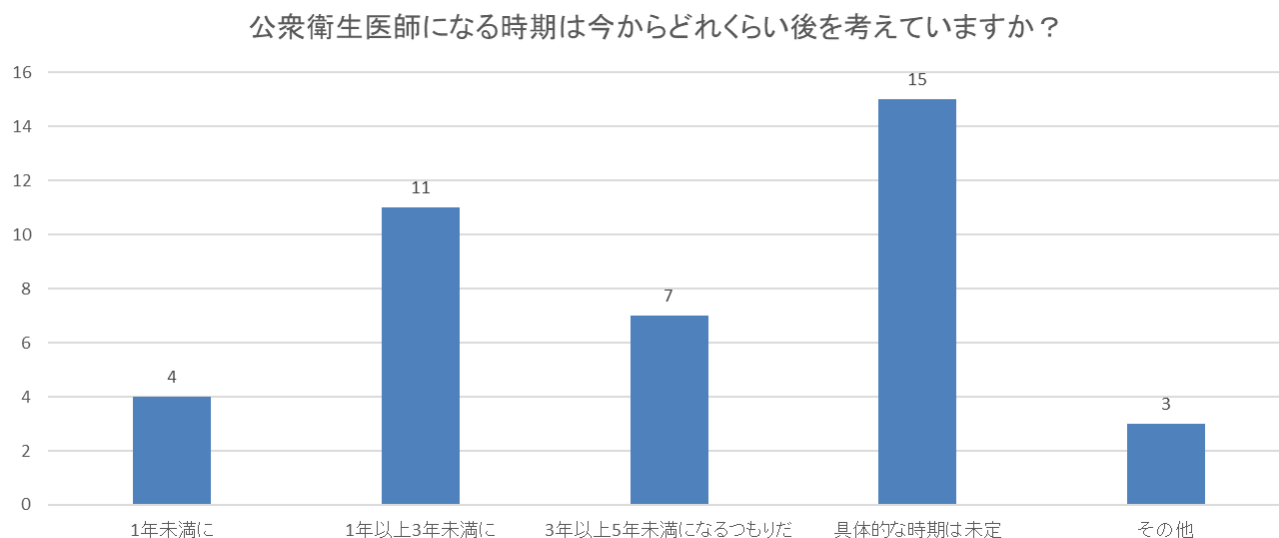
・公衆衛生医師という仕事に将来就きたいと考えていますか？

「0：就職は全く考えていない」～「10：将来，就職するつもりだ」の 11 件法で聴取した。10 点満点中，平均 7.0 点であった。



・公衆衛生医師になる時期は今からどれくらい後を考えていますか？

「1 年未満になるつもりだ」、「1 年以上 3 年未満になるつもりだ」、「3 年以上 5 年未満になるつもりだ」、「5 年以上 10 年未満になるつもりだ」、「考えてはいるが、具体的な時期は未定」、「その他自由記載」の 6 件法で聴取した。

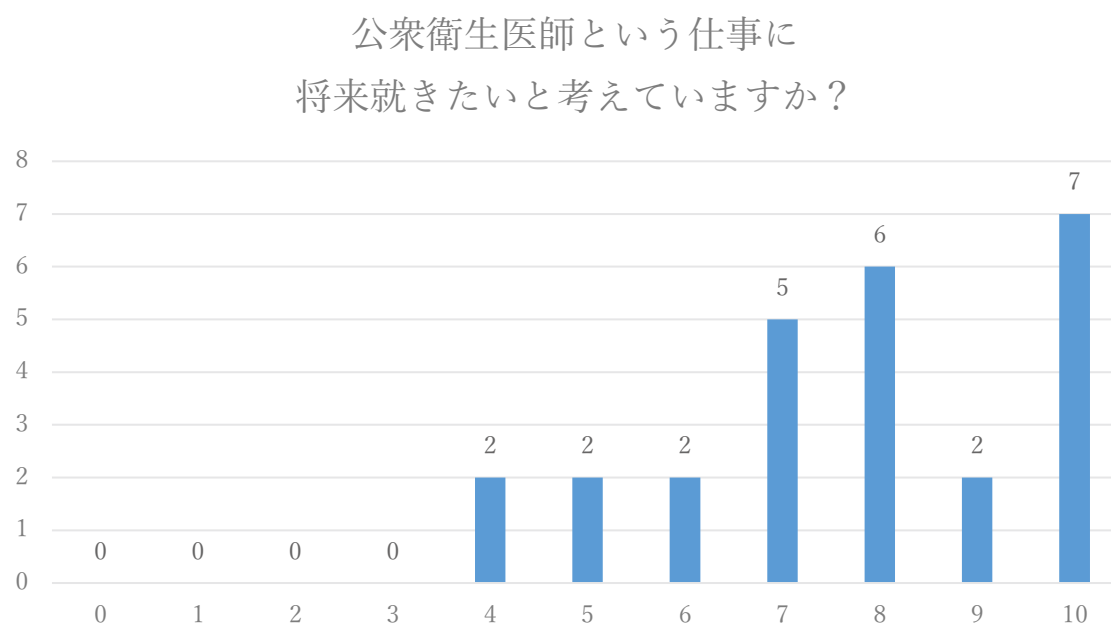


②終了後アンケート

有効回答数 26、回答割合 78%であった。

・公衆衛生医師という仕事に将来就きたいと考えていますか？

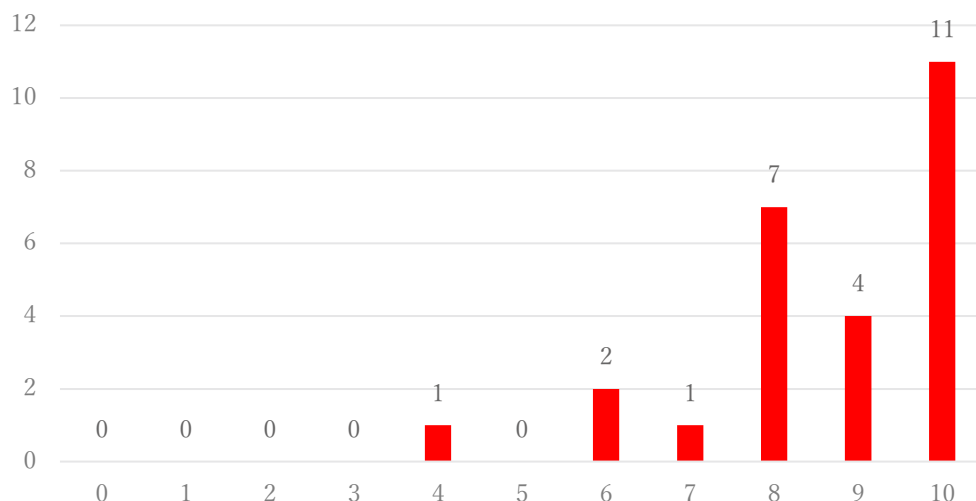
「0：就職は全く考えていない」～「10：将来、就職するつもりだ」の 11 件法で聴取した。10 点満点中、平均 7.7 点であった。



・イベントにはどのくらい満足されましたか？

「0：まったく満足しなかった」～「10：非常に満足した」の11件法で聴取した。10点満点中、平均8.7点であった。

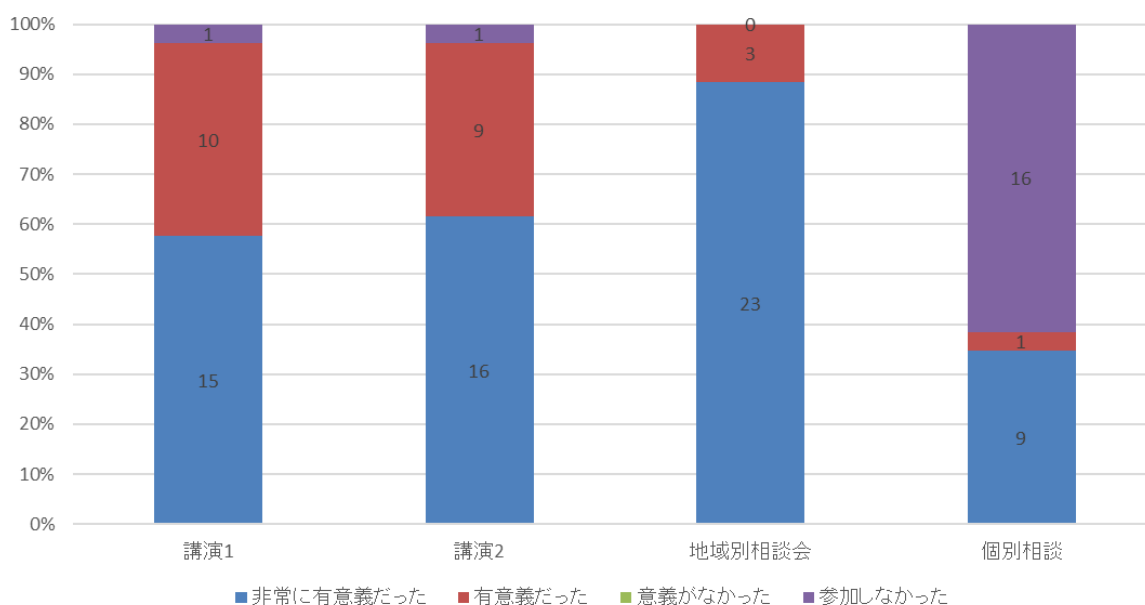
イベントにはどのくらい満足されましたか？



・各セッションをどのくらい有意義だと感じましたか？

「非常に有意義だった」、「有意義だった」、「意義がなかった」、「参加しなかった」の4件法で聴取した。

どのくらい有意義だと感じましたか？



・自由記載（抜粋）

○公衆衛生医師というキャリアパスをいち選択肢として知ることができて本当に良かった。

○実際に活躍されていらっしゃる先生方にお話を伺えてイメージが沸きました。

（６）考察

PHCC2024 の参加申込は 40 名、参加者は 33 名、事前連絡のあった欠席は 6 名、事前連絡のなかった欠席は 1 名であった。欠席の理由としては、主に勤務の都合であった。事前連絡のあった欠席が 12 名、事前連絡のなかった欠席が 7 名であった PHCC2023 と比較すると顕著な減少が認められた。会の時間の短縮化および事前連絡における呼びかけが影響した可能性が考えられた。

昨年に引き続き、事前アンケートにおける希望の自治体エリアの選択肢に「国際保健(WHO など)」を設定し、第一希望として挙げた 4 名の参加者に対応した。第一希望とする人数が少ない場合の対応は悩ましいものの、今後に対応を継続していくことが望まれる。

また、昨年同様に、事業班の班員の出身県以外での勤務を希望する参加者がいた場合、全国保健所会メーリングリストにてサポーターとしての参加を依頼した。市と県を区別して聴取できていないため、完全に希望に沿っているとは言い難いが、こうして最善を尽くし続けることが大切と考える。

新たな試みとして、テーマ別相談会を無くし、地域別相談会のみとした。相談会の時間を 1 時間とすることは継続し、参加者ひとりあたりの時間を十分に確保することとした。加えて、もう少し話を聞きたいという参加者に対しては個別相談に応じた。結果として、事後アンケートにおいて聞き足りなかったという意見はなく、参加者の満足度を下げることなく会の時間を短縮できたと言ってよいだろう。相談会の中で参加者の聞きたいテーマについて自然と聞くことが出来ていたものと推察され、ファシリテーター・サポーターが真摯に参加者と向きあっていたと考えられた。事前打ち合わせの際に「よくある質問集」を共有したこともその一助となったであろう。

そして、事後アンケートにおいて『「もっと話を聞きたい」あるいは「就職を検討している」という自治体の公衆衛生医師に連絡をとりたい場合には、お名前とメールアドレス、ご希望の自治体名をご記入ください。事務局からご希望の自治体の先生におつなぎいたします。』との質問を設定していた。より具体的な行動を希望する参加者に応えるための質問であり、今年度は 7 件の回答があった。今後、具体的な入職につながることを期待したい。

以上から、未入職の参加者の公衆衛生分野への関心を深め、入職意識を高めると同時に、現役公衆衛生医師の参加者の悩みに答え、モチベーションを向上させることが出来たと考える。未入職の参加者には学生や研修中の若手医師が多く、入職のタイミングが近日中ばかりとは限らない。しかしながら、PHSS や PHCC 等に参加経験のある若手医師の入職事例は全国で散見されており、公衆衛生の魅力を伝え続けることは公衆衛生医師の確保の重要な要素と考えられる。

（７）まとめ

今年度で 5 回目の開催となった。場所を問わず参加可能なオンライン開催は利点が大きく、対面開催の PHSS と共に公衆衛生の魅力を伝える機会となっている。

なお、今年度は事業班の協力事業者・助言者に加えて、下記の先生方にご協力いただいた。

（相談サポーター）

西垣 明子（長野県木曽保健所）

長谷川 麻衣子（長崎県保健福祉部）

長瀬 有紀（長野県松本保健所）

影山 育子（千葉県市川保健所）

田所 昌也（兵庫県保健医療部）

II 事業報告

2 実践事業

(3) 公衆衛生ウインターセミナー(PHWS)2024 の開催

成田智晴（愛知県新城保健所） 植田英也（大阪市健康局健康推進部健康づくり課）
高橋千香（世田谷保健所） 山本長史（北海道江別保健所 兼 千歳保健所）
吉田穂波（神奈川県立保健福祉大学） 尾島俊之（浜松医科大学）
宗 陽子（長崎県県央保健所）

1) 要約

公衆衛生ウインターセミナー(Public Health Winter Seminar: PHWS、以下 PHWS)は、公衆衛生医師の育成および定着を目的として、令和4年度から開催している WEB セミナーである。今年度の開催は3回目となった。今回のセミナーのタイトルは「仲間と考えるニューノーマル時代の公衆衛生」を掲げた。セミナーの対象者は社会医学系専門医プログラムの専攻医もしくは専攻予定者とし、参加者の総数は20名、行政に所属する医師や大学院生が参加者の主体であった。

セミナーの構成は4つの講義と1つのグループワークとし、まず2つの講義、次いでグループワーク、その後に2つの講義を行う形式をとった。

冒頭の2つの講義では、まず名古屋市の田邊先生から「公衆衛生「医師」って何？～専攻医を体験してアイデンティティを確立した話～」と題し、医師としてのアイデンティティと公衆衛生医師との関連に関するお話を頂いた。次いで、香川県の横山先生から「公衆衛生医師の強みと価値」に関するお話を頂き、その後に、この2つの講演に関するグループワークを行いそれぞれの講演に対する参加者の理解を深めた

その後に、枚方市の白井先生から「行政とアカデミアの連携」に関するお話を頂き、次いで国立保健医療科学院の曾根先生から「専攻医のみなさんへのメッセージ」を頂き、このお二方の先生から公衆衛生医師が心にとどめておくべき訓示を頂いた。

開催の結果を事後アンケートから読み解くと、本セミナーの存在意義を肯定・支持する声が多く、各講演についても好評な結果が得られた。しかし、グループワークについては進行の都合から十分な時間をとることができなかったため、参加者の満足度は高くなかった。

PHWS はサマーセミナーとは明確に異なる目的を持つが、本事業班の理念に照らして必要なパートを担っており、十分に存在意義はあると感じる。また、全 WEB 形式によるセミナーは現地開催形式では届かない層に確実に届いている。

2) 目的

社会医学系専門医制度は、社会医学領域の専門性を高めることを目的として2015年に確立された。しかし制度ができてからまだ日が浅いため、現時点で専門医や指導医と認定され

ている医師は、専攻医に本来課される研修や試験を経験していない者が多い。また、自治体によっては専攻医と専門医の交流が十分に行えていない状況もあり、専攻医と、専門医プログラム履修による専門医との交流が必要である。そこで、全国の専攻医が集まり、専攻医同士が交流したり、専門医から様々な情報を収集できる場を提供することを主たる目的とした。また、社会医学系専門医に必要なコンピテンシーのうち、自施設の研修では学びにくいことや業務に役立つ知見当を得る機会を設け、公衆衛生医師の育成および定着に資することを副次的な目的とした。

3) 方法

対象：

社会医学系専攻医もしくは専攻予定者

セミナー開催日時

令和6年12月14日13時から16時 WEB形式

参加者の募集および申し込み方法：

当イベントを周知するためのチラシ、プログラムを作成し、全国保健所長会ホームページや保健所長のお仕事紹介ブログ(<https://blog.canpan.info/phdr/>)への掲載、各種メーリングリスト、Line オープンチャット等で周知した。また、当事業班メンバーを経由して各地の保健所長会等での周知も行った。Youtube 班に依頼し、告知用のショート動画を作成していただき、併せて周知を行った。

申し込み方法は Google フォームを活用した。当該フォームのリンクや QR コードを各周知資料に掲載し、円滑化を図った。

開催効果測定の方法：

申し込みフォームにアンケート機能を併せ持たせた。入力項目は経時変化を可視化するために極力昨年度の内容を踏襲した。開催後の効果測定も同様に google フォームで作成したアンケートを用いた。こちらは開催後に Line オープンチャットに掲示し、そこから回答を参加者に依頼した。こちらのアンケート内容も、上記の理由によりできるだけ昨年度の内容を踏襲した。

プログラムの概要：

事業班全体の業務量が増加傾向にあることを考慮し、当日のファシリテーターの負担を軽減するために、昨年度の基本構成は引き継いだ上でやや簡素化する方針をとった。基本構成は①先輩公衆衛生医師による経験談や、目指すべき姿に関する講演、②講演内容の理解を深めるためのグループワーク、③ベテラン公衆衛生医師による講話、の3部構成とし、グループワークの回数は1回とした。

< ↓ 実際に使用したプログラム >



社会医学系専門医研修プログラム
専攻医のための



オンライン

公衆衛生 2024 ウィンターセミナー

SCHEDULE

12.14 SAT

12:30	入室開始
13:00	開会挨拶 松谷有希雄氏 日本公衆衛生協会 理事長 藤田利枝氏 全国保健所長会 会長
13:10	講演1「公衆衛生「医師」って何？」 ー専攻医を体験してアイデンティティを確立した話ー 田邊 裕氏 名古屋市保健所 西保健センター所長
13:30	講演2「公衆衛生医師の強みと価値」 横山 勝教氏 香川県中讃保健所 所長
14:10	グループワーク：ニューノーマル時代に活躍する 公衆衛生医師の強みと価値について考えよう！
15:00	休憩
15:10	講演3「行政とアカデミアの連携」 白井 千香氏 枚方市保健所 所長
15:30	専攻医のみなさんへのメッセージ 曾根 智史氏 国立保健医療科学院 院長
15:50	閉会挨拶 宗 陽子氏 地域保健総合推進事業「公衆衛生医師の確保と育成に 関する調査および実践事業」事業班 班長
16:00	オンライン懇親会（参加自由・途中退室可）
17:00	終了・解散

グループワークの概要：

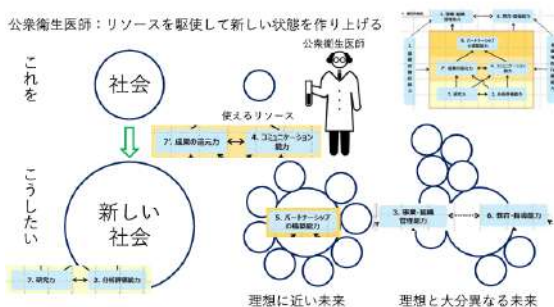
グループワークの基本構成は昨年度の方法を踏襲し、開始後に参加者自身により司会と書記兼発表役を選出していただき、続いて、参加者自身にグループワーク中にパワーポイントを作成していただき、これを基に全体発表をして頂く形式をとった。各班には等事業班メンバーからファシリテーターや助言者をあて、彼らに臨機応変なサポートを依頼した。

なお、参加者のグループワークへの割り振りについては、セミナーに先だって決定し、予め参加者に通知していたが、当日欠席者が複数発生したため、開始直前に班メンバーの組み替えを行った。これら一連の対応は、本事業班のメンバーで分担した。

講演内容（当日映写スライドより一部抜粋）：

講義 1 「公衆衛生「医師」って何？専攻医を体験してアイデンティティを確立した話」
名古屋市西保健センター 所長 田邊先生

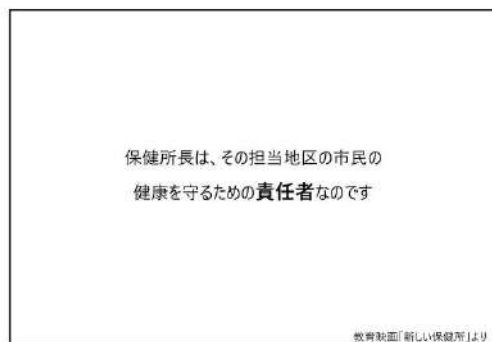
在宅酸素療法を行う。	保健所の先生の仕事って??
• 誰が？ 保健所？ コロナ患者の往診可能医療機関？ 地域のクリニック？ • どうやって？ 費用負担は？保険適応は？ 誰が機械のセッティングとか、説明とかするの？ 酸素流量誰が指示するの？ その後の管理は？	地域に同じような人が何人もいるけど、その人達にもできる？ 今回見えた課題を解決して、その人達にも在宅酸素ができるようにしよう！ ↓ 中区の中等症Ⅱ患者に対する在宅酸素療法導入



公衆衛生医師業務の特徴

- 守備範囲が超広い
- 正解が無い
- 自分が動きつつ、他人を動かすことも必要
- 理想を語る

講義2 「公衆衛生医師の強みと価値」 香川県中讃保健所長 横山先生



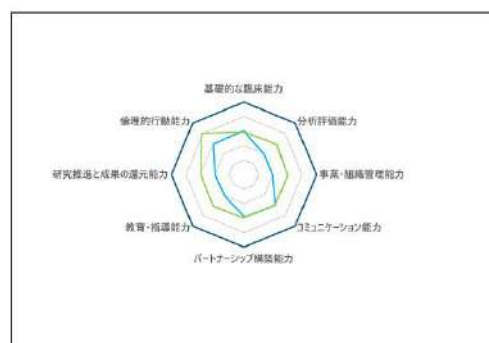
13



14



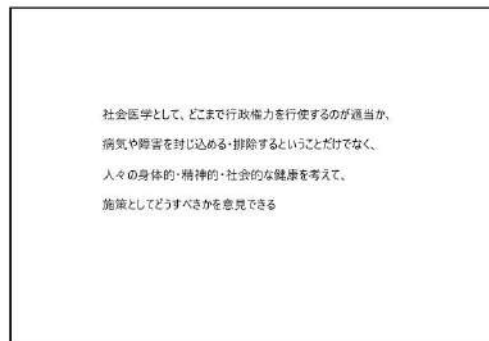
15



16



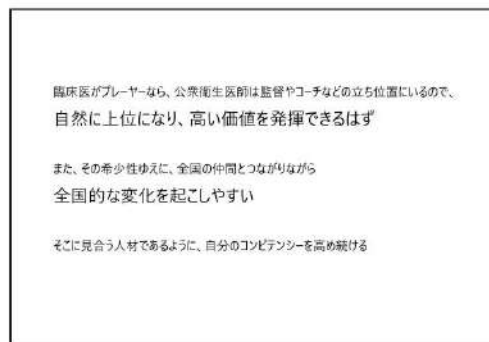
21



22



23



24

講義3 「行政とアカデミアの連携」 枚方市保健所長 白井先生

保健所等行政職員が 大学院で学び研究する現状と課題

社会人大学院生 経験談

- 働きながら学べる魅力
- 自称、公衆衛生医師を「実」にしたい！
- 行政側のハードル：所属先との調整や業務への還元
：本務と学業の両立
- 大学院側のハードル：必須の取得単位数
- 行政とアカデミアの連携
- 近未来の公衆衛生医師

月刊「公衆衛生」医学書院
Vol.88 No.7 721-727, 2024

行政（公衆衛生）と大学院（研究）の両立

	行政側	大学院側
社会人大学院 を活用すること について	【メリット】 短縮的、科学的 な思考と視野が 広がり、業務に 還元できる	【デメリット】 日常業務に、穴が 開くので、職員に 補充が必要になる 場合がある
望ましい連携	・業務負担・部分休業の制度がある ・学費の支弁や補助がある ・業務の交代が可能である	・データの利活用を行政と大学で協定を 結ぶ ・研究倫理審査等の事務を、大学院側が 受け持つ など

保健所が公衆衛生の専門的機関として期待されること

⇒ 設置自治体（本庁）と役割や方針の確認や全庁的理解が必要

- 解像付きのビッグデータの分析と提供
- 地域間比較
- 質的情報・事例の分析
- 大学等との共同研究など

課題

- 調査研究に長けた人材配置
- データ解析ツール等のインフラ整備
- 倫理問題への対応
- 大学等との連携など

保健所におけるICT化 & DX推進における現状と課題

- 業務量の増大に対する不安
- 技術的な問題（具体的な運用や専門人材等）に対する不安（必要性は認めるのに活用を躊躇）

▶ 保健所単独だけではなく、自治体の中でICTの優先順位を高くして対応していく必要がある

近未来の公衆衛生医師

行政も調査研究も公衆衛生活動のあり方として二刀流で
サクサク出来る力を持っていることを期待します

PHSS/PHWS で 手応えあり！
公衆衛生の実践の場を拡げよう！
働きながら学べる環境整備を行政側でも大学院側でも！

講義4 「専攻医のみなさんへのメッセージ」 国立保健医療科学院 院長 曾根先生

公衆衛生ウインターセミナー2024

配付版

専攻医のみなさんへのメッセージ

国立保健医療科学院
曾根智史

令和6年12月14日

本発表に関し、開示すべきCOIはありません。
また本発表は、所属組織の見解ではありません。

進路を選択する時に

- 組織に縛られたくないと言うけれど
- キャリアにおいて、本当に「一匹狼」は可能か
- 組織で働くからこそできること
- 今はいいけど、20年後、30年後は？
- 行政は組織人。研究者は？ 臨床医は？
- 「仕組み（システム）」の中で仕事ができる強み
- 人間関係、理不尽なことはどこにもある
- 好きなことより、得意なこと

公衆衛生のおもしろさ

- 患者の数を減らせる（臨床は死者を減らす）
- システム（法律・制度・リソース）を整えるという方法を用いて、社会を変えることができる
- 根本原因がわからなくても、対処することができる（対処しなければならぬ）
- より多くの人々に裨益することができる
- 医学以外の方法論や価値観を導入することができる
- 多角的・長期的な視点が身につく

キャリア形成のために

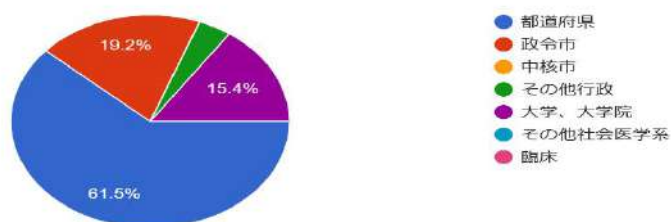
- 本人の努力
- 本人の能力・適性
- 周りの状況（支援的・非支援的）
- 家族（結婚・子育て・親介護）
- 適切な情報・伝手（**ウィーク・タイ**：weak tiesを大切に）・出会い
- 年齢と選択肢（20代、30代前半・後半、40代前半・後半、50代）
- **タイミング**（自分で決められるもの、決められないもの）
- 「偶然」、「たまたま」もOK
- 学位と留学、専門医

4) 開催の結果

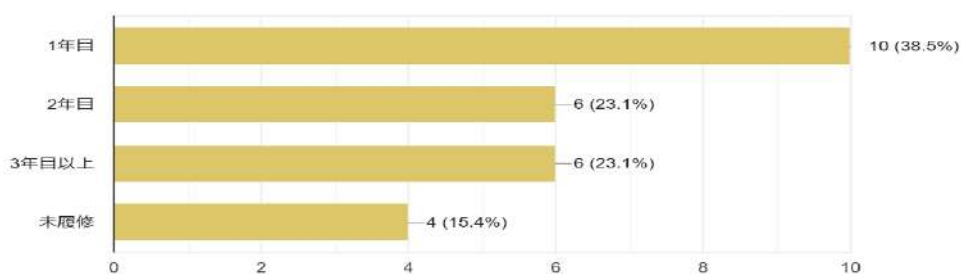
PHWS2024 には 26 人から参加申込があり、このうち 20 人が実際に参加した。
また開催後に 9 名から事後アンケートへの回答が得られた(9/20、回答率 45%)

1. まず、以下に参加申込フォームから得られた結果を掲示する。

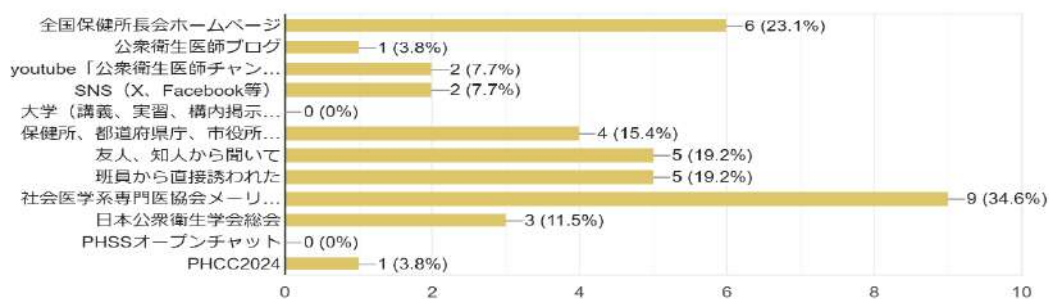
先生の所属種別を教えてください
26 件の回答



専攻医年数
26 件の回答

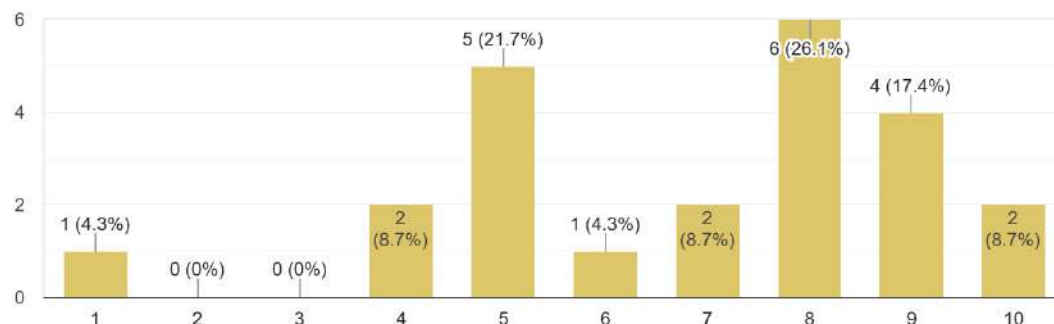


このイベントを何で知りましたか？（複数回答可）
26 件の回答



ご自身が履修している社会医学系専門医研修プログラムに満足していますか？ 1を最も不満足 10を十分満足とする10段階評価で教えてください（未履修の先生は未入力のままとしてください）。

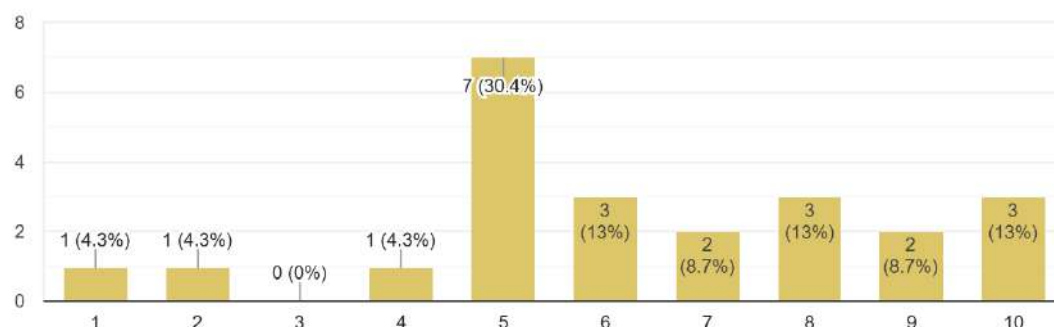
23件の回答



※ 平均値 6.86 中央値 8（この値は昨年とほぼ同様である）

知り合い・友人に、社会医学系専門医の取得を勧め...履修の先生は未入力のままとしてください）。

23件の回答



※社会医学系専門医の取得を勧めますか？専門医プログラム未履修の先生は未入力のままとしてください が全文

※平均値 6.34 中央値 6（この値は昨年とほぼ同様である）

① 参加申込者の参加理由や、セミナーで得たいもの(原文一部改変)

- ・ 同じ社会医学系専攻医の知り合いを増やしたいため。
- ・ 公衆衛生医師として働くようになって 2 年目になりますが、他の都道府県の公衆衛生医師と対話する機会がほとんどないため、今回はさまざまな地域で公衆衛生医師として働く先生方の意見や業務内容について知りたいと思い参加を希望しました。また社会医学系専門医について研修内容など共有・相談したいと思っています。
- ・ 専攻医の仲間（が欲しい）
- ・ サマーセミナーに参加させていただきとても良かったので、今回も期待以上の発見や理解が得られると思い申し込みました。
- ・ 専攻医 1 年目です。行政における業務を実践しながらも、学会での発表や研究などをどの

ように両立していくか、先人の方々の取り組みを知りたい。

- ・楽しそうだから参加してみようと思いました
- ・普段の職場に医師がいないので（、交流したい。）
- ・社会医学系専門医試験についての情報（が欲しい）
- ・他自治体の専門医プログラムについてあまり知る機会がないため若手医師の集まる機会であるセミナーに興味を持ちました。真似できるところがあれば弊社に持ち帰り改善提案したいです。
- ・社会医学系専門医についての情報（が欲しい）
- ・他の方がどのように研修を進めているか知りたい。
- ・今は公衆衛生医師として業務にどう携われば良いのかわからず、不安に思っていたため、講演内容にとっても惹かれた。
- ・公衆衛生医師としてキャリアを継続する上で、アイデンティティの確立や専門性の向上に悩むことがあります。セミナーの内容が自分の関心とマッチしていたため、申し込ませていただきました。
- ・なんとなく
- ・副分野の学習をどのように取り組めばよいかわからないので、少しでも情報が欲しい。
- ・社会医学系専門医が取れたらどんな仕事に勤めることができるかを知りたい。公衆衛生においてのトピックスについて知りたい。
- ・知り合いを作る
- ・開催趣旨に大いに賛同のため
- ・実際に研修を受けている専攻医・指導医の先生方の臨床経験など本分野に入られる前の経験をどのように役立てているかを伺いたいです。
- ・保健所など行政で働く医師がどのような職種と働くのか、実際の様子について伺いたいです。

② 参加申込者が社会医学系専門医や専門研修について知りたいこと(原文一部改変)

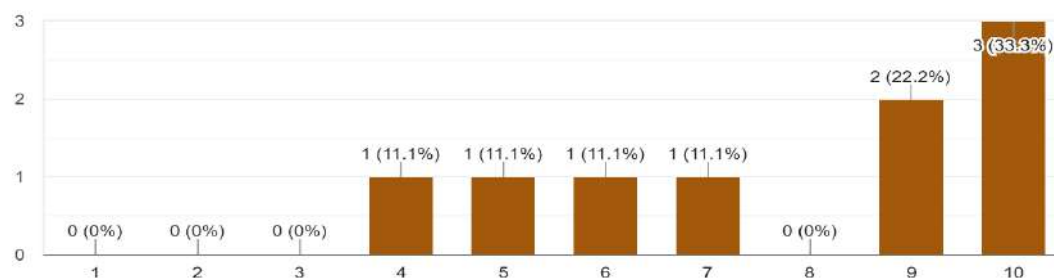
- ・専門医試験の対策が知りたいです。妊娠出産子育てと両立している先生がどのように専門医取得されたか知りたいです。
- ・レポートの書き方
- ・サマーセミナーでもお伺いしたところですが、専門医である強みについて改めて色々な方の御意見をお聞きし今後のモチベーションとしたいです。
- ・専門医取得後のサブスペシャリティをどのように決めているか。
- ・産業分野の履修が難しいと思いますが、企業等と連携している自治体はあるのでしょうか。
- ・専門医試験、レポートの書き方、試験の対策について
- ・研修計画をどのように作成しているか。

- ・ 今後はどのような就職ができるか知りたい。
- ・ 県および政令指定都市での研修について、それぞれの利点を伺いたいです。
- ・ 他の専攻医の先生方とはどのような交流する機会があるかについて教えて欲しいです。

2. 続いて、参加者の事後アンケートの結果を掲示する。

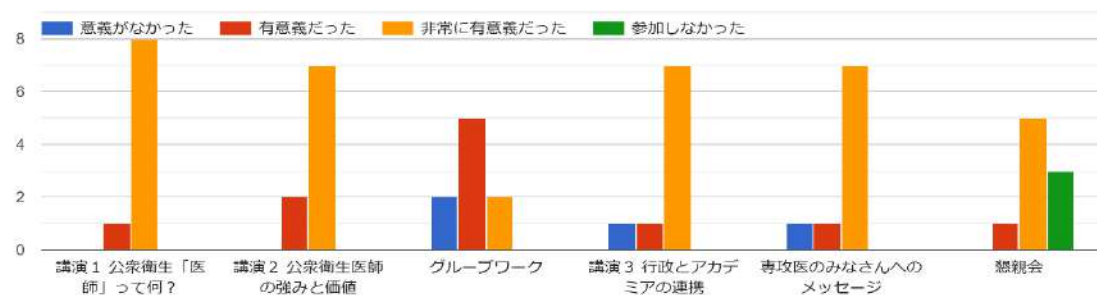
当イベントにどのくらい満足されましたか？

9件の回答



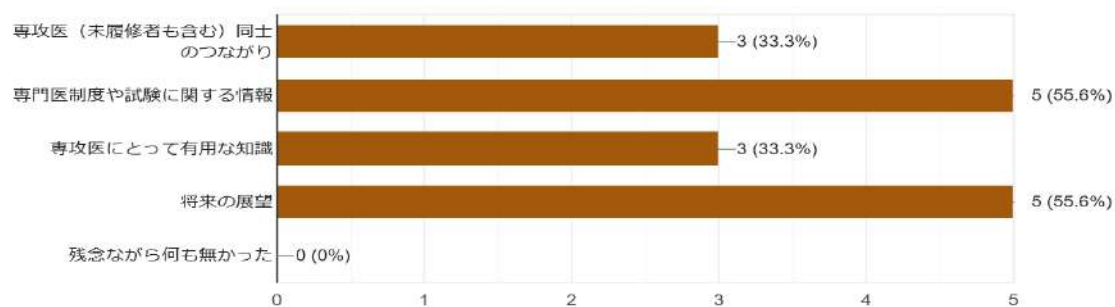
※平均値 7.77、中央値 9（昨年は平均値 8.4、中央値 9 であり、本年は少し減少した）

以下の各セッションは、どのくらい有意義だと感じましたか。 *

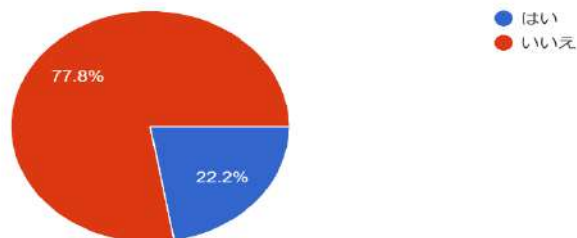


このイベントであなたが新たに得たものは何ですか。

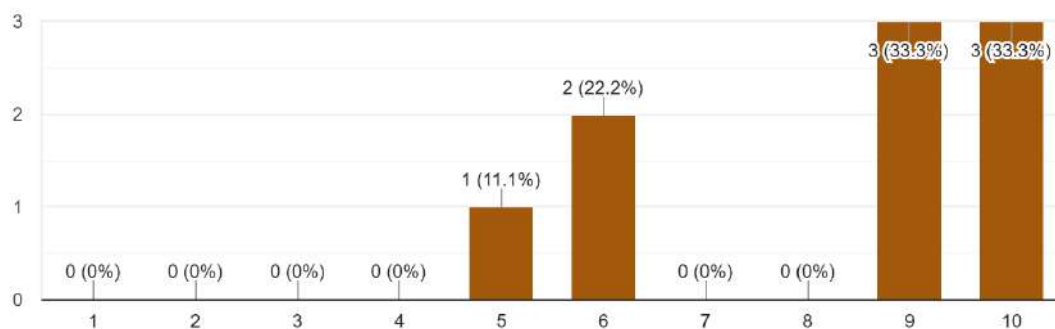
9件の回答



このイベントで久しぶりに交流することのできた専攻医はいましたか？
9件の回答



来年度以降も、社会医学系専門医研修プログラムの...医向けのイベント開催が必要と感じましたか？ *
9件の回答



※専攻医向けのイベントが必要と感じるか

※平均値 8.22 中央値 9（昨年は平均値 9、中央値 10 であり、本年は少し減少した）

参加者の意見（一部原文改変）

- ・グループワークのテーマは1つでも良いように感じました。時間が足りませんでした。
- ・今回、オンライン開催で有り難かったです。子育て中ということもあり現地開催のサマーセミナーへの参加のハードルが高く、ウインターセミナーはオンライン開催ということで参加を即決しました。
- ・自分は専攻医3年目ということで、来年度以降は参加者としての参加はしにくいように感じます。前田先生から業務外の weak tie に関するお話をいただきましたが、他所属の公衆衛生医師と関わる機会があれば積極的に関わって自身も勉強させていただきたいと強く思いました。
- ・指摘することは恐縮であるが、同様のセミナーで同様の講義内容が繰り返されている部分があり、正直、退屈に感じました。ただ、それらの講義がとても良いことを言っていることは確かであり、毎年フレッシュな面子を想定しているなら、恒例とすることは必要なのかもしれない。ただ、フレッシュな面子がそれほどいないように感じる。
- ・去年よりスタッフを除いた参加者が少ないように感じました。いても、オブザーバー参加

とかで、何も発言しない、そもそも聞いているのかもわからないような方々であった。各都道府県の保健所長会長に直接電話して、そこの若手の参加を促してもらうくらいでもいいのかな、と思いました。

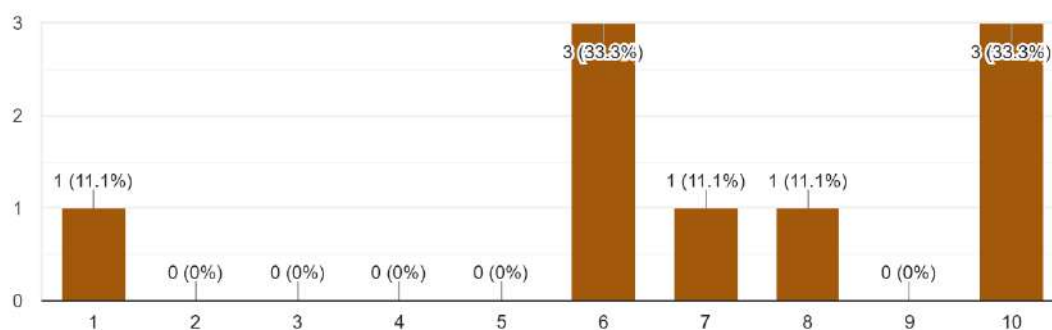
・専攻医プログラムは各自治体で異なる部分が多いと思うので、ご講演のそれぞれの先生方が属するプログラムについても話をきいてみたかった。コンピテンシーのうち達成するのが難しい項目と対策についての具体的な話を聞きたかった。グループワークはあと 15 分ほど長くて良かったかも…または、参加者には自己紹介スライド 1P の事前準備があっても良かったかも。

・グループワークの設問が、専攻医 1 年目で話し合うには高度だと思いました。

・この度は社会医学系専攻医に対しまして大変すばらしいイベントを開催していただきまして誠にありがとうございました。講義、グループワーク、懇親会と全て出席させていただきました。どれも専攻医にとってはかけがえのない情報となりました。環境省の前田先生もおっしゃっていたことですが、このように業務以外で全国のモチベーションの高い公衆衛生医の先生方と関われる機会があることは、公衆衛生を志した身としましても大変貴重な機会と感じております。このようなつながりの場があるだけでも PHSS を含め素晴らしいことである思います。改善点というほどではございませんが、グループワークの時間は専攻医同士が会話し、また先輩方から直接お話をいただける場でしたので、あと少し時間があればさらに議論が深まったかと思います。ただ、イベントとして参加者や参加する先生方の限られた時間の中で、様々なレクを考えていただいておりますので、それだけでも素晴らしく、大変有意義な時間であると感じました。このようなイベントがあれば引き続き出席させていただきたいと思います。

最後に、申し込みの事前質問にあった下記の質問に...会医学系専門医の取得を強くお勧めしますか？

9 件の回答



平均値 7.111 中央値 7（開催前と比較して、推奨度は平均・中央値ともに増加したが、昨年の開催後結果は平均値 8.4、中央値 9 であり、本年は少し減少した）

5) 考察

1. グループワークについて

今回のセミナーの開催結果をざっと見たときに、まず、グループワークへの満足度が低いことが目に付くが、これは進行の連絡調整の不手際によりグループワークの時間が短くなってしまったことが原因と考えている。

具体的には、Zoom でグループセッションを設定した際に、グループセッションを維持する時間、別の言い方をすれば全体セッションに再び回帰するまでの時間を、思いのほか短時間に設定してしまったことに起因する。これは、グループセッション開始後に修正することができず、グループセッション開始後に気がついた時には、時既に遅し、であった。また、当日は参加者+運営サイド等で 40 名以上が参加している状況であり、再度のグループセッションの組み直しには大変時間がかかる状況であったため、2 度目のグループセッションの開始は状況的に不可能であった。

この事案が発生した要因には複数が上げられるが、そもそも事前の計画段階でグループワークの時間を 25 分と設定していたが、これが非常に短かったことが最大の原因である。当日は進行するにつれ 25 分では不足することが容易に推定される状況になり、これを 30 分程度に延長しようと試みた。しかし、当日は進行、全体管理、Zoom の技術的な管理など、複数の担当者で分担して進行にあたっており、規定時刻と異なる時刻設定を行いたいとの意思疎通、情報連携が不完全となり、対応は実現しなかった。

再発防止策として、グループワークの時間は 25 分と 30 分では大きな違いがあること、参加スタッフへの事前説明等の機会に予定時刻を臨機応変に変更しようと周知すること、を挙げたいと考える。

また、別の切り口として、プログラム構成の観点に触れたい。

先述のとおり、今回は事業班メンバーの負担軽減の観点から、昨年度からグループワークの数を減らした。また、上に掲示した参加者への事前アンケートの自由記載欄への記入内容を参照すると、参加者が同職種との交流を求めていることが特に目に付く。この二つの要素を両立するためには、講義の数を 4 題から 3 題へと減らし、その分をグループワークの時間に充て、なおかつグループワークのお題を減らすのが良いかもしれない。参加者を忙しくさせることなく余裕を持った時が流れるように仕向け、自由闊達に交流が促進できるようなイベント構成としたほうがニーズに合致しているように思う。

2. 参加者の構成について

都道府県行政からの参加者が最多であり、政令市行政と大学院がこれに次いだ。これは本紙にデータは未掲載ではあるが、基本的に昨年度と同様の結果である。気がかりなのは中核市からの参加者が見られない点で、これは昨年度も同様である。一般に中核市は比較的ベテランの公衆衛生医師が多い傾向にあると思うが、3 年目以下の若手公衆衛生医師も在籍している。絶対数は少ないので、今まで本セミナーへの参加が見られなかったことは不整合では

ないと思われるが、本セミナーの趣旨に照らせば重点的に周知すべき対象であると思われるので、来年度以降の周知の際に、これらの医師に開催案内が届いているか、念のための確認は必要であろう。

3. 講義内容について

アンケートの自由記載内容等の行間から透けてみえるのは、全国の若手公衆衛生医師の孤立傾向や、公衆衛生医師の身近なロールモデルを探しているという実情であろう。今回のセミナーにおいて、田邊先生や横山先生の講演が特に参加者から高く評価されているのはこれらの実情の裏付けのように思える。昨今、一部自治体において若手公衆衛生医師の入職が少々増加しているが、これらの医師が十分に公衆衛生医師の育成のために適した環境におかれておらず、入職者数に対して自治体のフォロー体制があまり整っていないのかもしれない。

こういった若手公衆衛生医師のためにも、今回の田邊先生や横山先生のご講演内容のような、大先輩ではなく、身近な少し先輩の経験談や、公衆衛生医師として目指すべき姿、有るべき姿を照らし出すような講義は時代に求められているかもしれない。来年度以降も、同様の趣旨、グループワークを用意してもよいかもしれないと考える。

4. Google ドライブ、Google フォーム、Line オープンチャット、パワーポイント、Zoom 等の活用について

これらの活用方法については昨年度までに完成の域に達しており、本年度はこれらの活用については前例踏襲のみにとどめ、新しいサービスは採用しなかった。昨年度は、google ドライブについては自治体によっては活用できない旨の声が参加者からあったと聞いていたため、本年は申し込みの初期段階において google ドライブを活用することを明示することとした。この影響か、あるいは自治体側の DX 化の進歩か、本年についてはこれらの声は発生せず、問題なく活用することができた。

Zoom の活用については、冒頭のグループワークの項で触れたような操作上の注意点等は存在し、当日も参加者のマイクの調整等で細かい対処が必要で、Zoom 運営のために何人かスタッフを選任で貼り付けた方がよい、等の技術的なハードルは存在する。このためセミナー開催前にスタッフ同士による打ち合わせは重要な意味をもつ。

6) まとめ

社会医学系専門医を目指す専攻医を主たる対象とした第3回の PHWS を開催した。参加者は昨年度の 2/3 程度の 20 名と減少した。昨年度からプログラム内容の簡素化を試み、グループワークの運営については課題を残し、参加者から多様な意見を寄せられることにより来年度以降の当イベントの開催方針の示唆を得ることができた。満足度は昨年度より低

下したものの、参加者に参加の意義を感じて頂くことができ、社会医学系専門医プログラムへの推奨度も増やすことができた。

当セミナーの運営に当たり、数多くの事業班メンバーのご協力を頂いたほか、全国保健所長会事務局、各地の都道府県保健所長会のご協力を頂けたことに感謝申し上げます。また、下記の先生方にサポーターとしてご協力いただきましたこと、この場をお借りして改めて深謝いたします。

寺川 由美先生（大阪市保健所）

早川 明子先生（名古屋市昭和保健センター）

Ⅱ 事業報告

2 実践事業

(4) 第83回日本公衆衛生学会総会での自由集会「公衆衛生医師の集い2024」の開催

宮園将哉（大阪府岸和田保健所）

松澤 知（新潟県福祉保健部）

兼任千恵（神奈川県平塚保健福祉事務所）

田邊 裕（名古屋市西区保健福祉センター）

藤井 可（熊本市役所）

横山勝教（香川県中讃保健所）

茅野正行（宮崎県高鍋保健所）

早川貴裕（栃木県保健福祉部）

岩瀬敏秀（岡山県備前保健所）

山本長史（北海道江別・千歳保健所）

成田智晴（愛知県新城保健所）

宗 陽子（長崎県県央保健所）

平本恵子（広島市南区厚生部／南保健センター）

要約

「公衆衛生医師の集い」を初めて開催したのは第72回日本公衆衛生学会総会（2013年）であり、今回で12回目となった。参加者は原則として公衆衛生医師のみとし、医師同士の交流やモチベーションの維持向上を目的として開催している。今回は、「ケーススタディ集徹底活用術&ディスカッション」をテーマとし、令和5年度に本事業班で作成した「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」の紹介と、具体的な活用方法の提案を行った。その後、ケーススタディ集の事例を用いた参加者同士のディスカッションにより、実践的な学びと交流を深めた。

参加者へのアンケートでは、自由集会に対しても、またケーススタディ集そのものに対しても高い評価が得られており、満足度の高い自由集会であったといえる。公衆衛生医師同士の交流やモチベーションの維持向上のための場を提供するだけでなく、ケーススタディ集の内容や使い方を知ってもらうよい機会にもなったと考える。来年度以降に向けては、臨床医や医学生の積極的な受け入れを視野に入れつつ、自由集会の目的を班員で再確認していくことが重要である。

1) 目的

- ① 公衆衛生及び公衆衛生医師として勤務することの魅力について語り合い、モチベーションを高める。
- ② 公衆衛生医師の確保及び育成に関する情報を共有する。
- ③ 公衆衛生医師同士の交流を深めることにより、ネットワークを構築する。

2) 方法

① 開催日時・会場

令和6年10月30日（水）18:00～19:30

札幌コンベンションセンター第8会場（206号室）

- ② 周知方法 → 事前の広報で使用したチラシは『6) 参考』の『① チラシ』参照
 全国保健所長会のメーリングリストに投稿
 全国保健所長会のウェブサイトにブログ記事を掲載
 YouTube チャンネルで参加者募集のためのショート動画を公開
 LINE オープンチャットやFacebook などの SNS で周知
 事業班員に公衆衛生医師等への個別周知を依頼

3) 結果

① 参加者数

61 名（うち事業班員 20 名）

② 内容 → 詳細は『6) 参考』の『② スライド』参照

「ケーススタディ集徹底活用術&ディスカッション」をテーマとし、令和5年度に本事業班で作成した「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」の紹介と、具体的な活用方法の提案を行った。その後、ケーススタディ集の事例を用いた参加者同士のディスカッションにより、実践的な学びと交流を深めた。また自由集会終了後は、「北の大地で全国のつながりを開拓！」と題した情報交換会を開催した。

○ 宮崎県高鍋保健所 茅野正行先生

ケーススタディ集作成の目的や作成過程、注目ポイント、今後の展望などを紹介するとともに、具体的な活用方法の提案を行った。

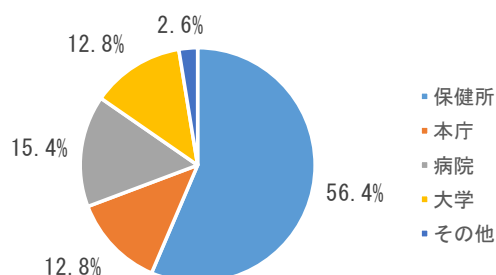
○ 岡山県備前保健所 岩瀬敏秀先生

事例を用いたグループワークの司会進行を担当した。その場で参加者を4～6名ずつのグループに分け、1～2名の事業班員がファシリテーターとして各グループに入った。ケーススタディ集より、事例1及び事例13を用いてグループワークを行った（『6) 参考』の『③ 配布資料』参照）。

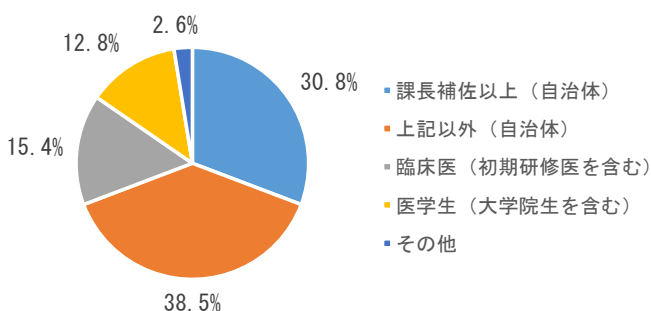
○ 参加者へのアンケートの結果

Microsoft Forms でアンケートを作成し、自由集会終了後に参加者へ回答を依頼したところ、39 名から回答を得た。集計結果を以下に示す。

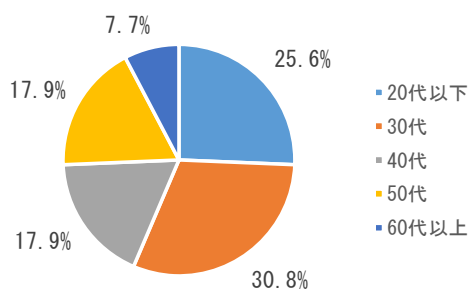
1. ご所属を教えてください (n=39)



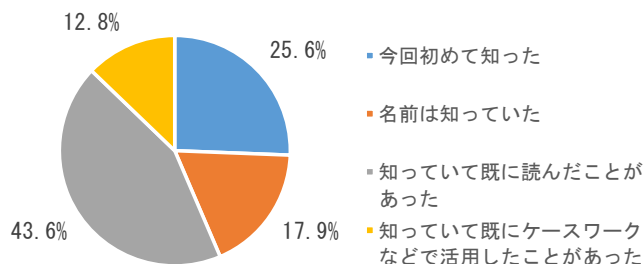
2. 職位を教えてください (n=39)



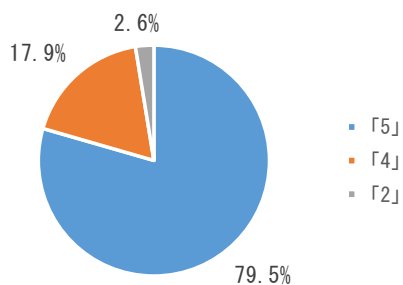
3. ご年代を教えてください (n=39)



4. 「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」を知っていましたか？ (n=39)



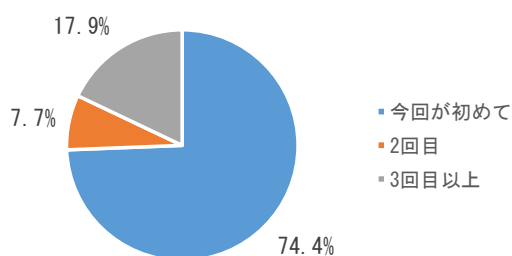
5. 「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」そのものについての評価を5段階で教えてください (5 良い～3 ふつう～1 いまいち) (n=39)



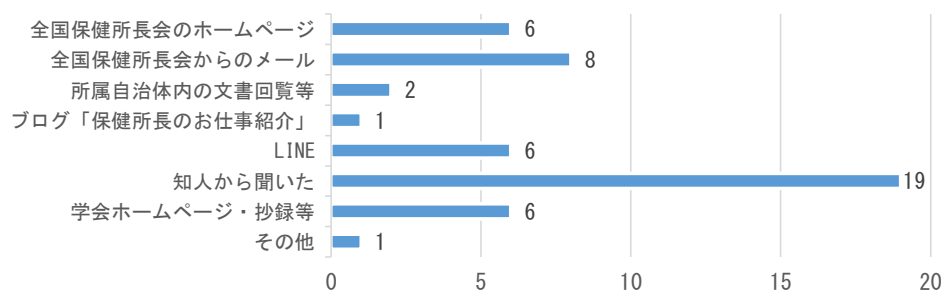
6. 今後、ケーススタディ集をどのように活用したいですか？ (自由記載、n=34)

ケーススタディ集を「熟読し、今後の業務に役立てたい」という回答が多くみられた。特に、①自分の知識習得やキャリア形成に役立てたい (自己学習)、②医学生、研修医、若手医師の教材として利用したい (教育・研修)、③周囲の同僚や関係者に紹介したい (共有) の3点が意見として挙げられた。

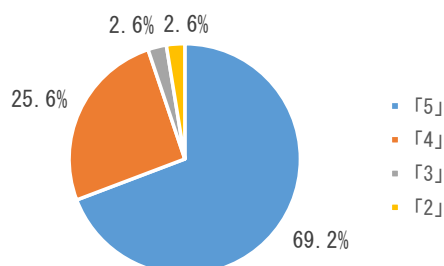
7. 公衆衛生学会総会における自由集会「公衆衛生医師の集い」への参加は今回で何回目ですか？ (n=39)



8. 今回の自由集会についてはどこで知りましたか？（複数回答可、n=39）



9. この自由集会に参加されていかがでしたか？（5良かった～3ふつう～1いまいち）（n=39）



10. 9での評価の理由をよければ教えてください（自由記載、n=28）

特にグループワークが好評で、たくさんの方と話せて楽しかった、いろいろな意見や考え方に触れることができた、といった内容が多くみられた。

11. 来年度の自由集会「公衆衛生医師の集い」で扱ってほしいテーマ・やってみたいこと等があらわれましたら教えてください（自由記載、n=11）

ケーススタディ集を再度やってほしいという声とともに、対応困難事例、困りごと相談会、若手公衆衛生医師の意識調査、公衆衛生医師のセカンドキャリア、保健所以外の都道府県庁での仕事内容、研究者と行政医師との協働がスムーズになるための tips、若手の勧誘における公衆衛生医師のキャリアパスの説明方法、などの提案があった。医学生に参加を公式に可能としてほしいという意見もみられた。

○ ファシリテーターへのアンケートの結果

グループワークのファシリテーター向けのアンケートを作成し、自由集会終了後に回答を依頼したところ、10名から回答を得た。グループワークで出た意見の詳細は割愛し、グループワークの印象等や気づいたこと・意見を以下に示す。

1. グループワーク①で出た意見（割愛）

2. グループワーク②で出た意見（割愛）

3. 今回のグループワークの印象等を教えてください。

参加者全員が積極的に意見交換を行い議論が白熱した、さまざまなバックグラウンドを持

つ参加者間の意見交換により多様な視点が得られた、グループワークを通じて参加者同士の交流が深まりネットワークが広がった、といったポジティブな印象を挙げたファシリテーターが多かった。また、ケーススタディ集を有効に利用することで議論が深まった、ファシリテーターの役割がスムーズな進行に重要であった、という意見もみられた。

4. その他、お気づきのことやご意見がありましたらお書きください。

自由集会の企画・運営や、ケーススタディ集の作成過程・内容を評価する声が聞かれた。グループワークの時間配分や、交流を深めるための自由時間の設定などについては、改善点や今後の課題が示された。

③ 紹介動画の作成（図1）

本事業班にて運営しているYouTube「公衆衛生医師チャンネル」にて、当日の自由集会の様子を動画で撮影し、ケーススタディ集の活用方法の一例として示す形で編集した。動画は「1. 役割分担」「2. 簡単な流れ」「3. 実践編」に分け、具体的な活用方法と得られる成果について説明しつつ、自由集会の動画内で合致するシーンをはじめ込み編集した（『6』参考）の『4』YouTube「公衆衛生医師チャンネル」参照）。



図1. YouTube内のサムネイル

4) 考察

「公衆衛生医師の集い」を初めて開催したのは第72回日本公衆衛生学会総会（2013年）であり、今回で12回目となった。参加者は原則として公衆衛生医師のみとし、医師同士の交流やモチベーションの維持向上を目的として開催している。近年の自由集会は、新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり1時間での開催が多かったが、今回は1時間30分であったため、比較的余裕を持って進行することができた。今回の自由集会は、「ケーススタディ集徹底活用術&ディスカッション」をテーマとし、令和5年度に本事業班で作成した「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」の紹介と、具体的な活用方法の提案を行った。その後、ケーススタディ集の事例を用いた参加者同士のディスカッションにより、実践的な学びと交流を深めた。

自由集会終了後、参加者に対してアンケートを実施したところ、39名から回答が得られた。自由集会に対する評価（5良かった～3ふつう～1いまいち）としては、「5」が69.2%（27名）、「4」が25.6%（10名）で合わせて9割以上となり、満足度の高い自由集会であったことがうかがえた。高評価の理由としては、グループワークでたくさんの方と話せて楽しかった、いろいろな意見や考え方に触れることができてよかった、といった内容が多かった。

回答者の年齢は、20代以下が25.6%（10名）、30代が30.8%（12名）で合わせて半数以上を占め、自治体からの参加も課長補佐以上と比較してそれ以外が多かった。また、30代以下の22名のうち、20名が今回初めて「公衆衛生医師の集い」に参加したと回答していた。「今回の自由集会についてはどこで知りましたか？」という設問（複数回答可）に対しては、22名中15名が「知人から聞いた」、4名が「LINE」、3名が「全国保健所長会のホームページ」、2名が「全国保

健所長会からのメール」と回答しており、若手の勧誘には特に「ロコミ」が有効である可能性が示唆された。キャリアの浅い若手医師がつながりを作る場として活用してもらえよう、積極的に声かけをしていくとともに、その他の媒体でも広報を展開していくことが重要である。

回答者のうち 69.2% (27 名) が自治体の所属であったが、臨床医（初期研修医を含む）や医学生（大学院生を含む）の参加もあった。原則として公衆衛生医師のみを対象とした自由集会という位置づけではあるが、公衆衛生に興味のある臨床医や医学生の参加希望があることは大変喜ばしいことである。今回参加してくれた臨床医や医学生からは、ケーススタディ集を研修会や勉強会で活用したいという声が聞かれており、自由集会が公衆衛生医師という働き方を浸透させるきっかけとなる可能性もある。また、来年度の自由集会に向けて「医学生の参加を公式に可能としてほしい」という意見もみられており、今後は臨床医や医学生の積極的な受け入れを検討していくべきだろう。これまでは、公衆衛生医師だけで集まって本音で語り合う、という点に重きを置いていたが、本音で語り合う公衆衛生医師の姿を見てもらうことで、新たにこの分野に飛び込んでくれる仲間を増やす効果も期待される。過去の報告書をひも解くと、第 1 回の自由集会は「若手公衆衛生医師と公衆衛生医師を目指す臨床医・医学生の集い」であったようで（第 2 回より「公衆衛生医師の集い」に名称変更）、原点へ立ち返ってみてもよいのではないかな。

ケーススタディ集に関しては、「今回初めて知った」と回答した者が 25.6% (10 名)、「名前は知っていた」と回答した者が 17.9% (7 名) であったことから、内容や使い方を知ってもらうよい機会になったと考えられる。今後の活用方法としては、ケーススタディ集を「熟読し、今後の業務に役立てたい」という回答が多くみられ、自己学習及び教育・研修の教材としての利用や、同僚・関係者との共有などが意見として挙がった。ケーススタディ集そのものに対する評価（5 良い～3 ふつう～1 いまいち）は、「5」が 79.5% (31 名)、「4」が 17.9% (7 名) と高い評価が得られた。

ファシリテーターに対するアンケートの結果からも、参加者が積極的にグループワークに取り組んでいた様子が見え、有意義な自由集会であったと考えられる。過去の自由集会は、自治体での取り組み事例（新型コロナウイルス感染症対応を含む）などの報告のあと全体でディスカッションを行うという形式が多く、グループワークが実施されたのは第 1 回と今回のみ（昨年度もグループワークの企画はあったが時間切れで未実施）であった。事例報告後の全体討論の場合、報告についての質問や感想といった内容が多くなることが予想され、参加者同士の交流にはつながりにくいかもしれない。一方、今回は、ケーススタディ集の事例を用いたグループワークを自由集会のメインに据えており、参加者が主体的に考えて意見交換を行うことで交流が深まったのではないかと考える。また、さまざまな立場や経験を持つ参加者の意見を聞き、自らの業務の参考として活かすことができるというのも、参加者にとってメリットのひとつだろう。「公衆衛生医師同士の交流」という目的を達成するためには、今後の自由集会においても、①参加者が主体的に考えて意見交換できるテーマを設定し、②全体討論よりもグループワークを行うことが有効である可能性が考えられる。

自由集会終了後の情報交換会では、参加者とともにジンギスカンを囲み、さらに親睦を深めることができた。医師同士の交流やモチベーションの維持向上という目的を掲げる自由集会において、普段はなかなか会えない仲間とリラックスした雰囲気ですり合える情報交換会が果たす役割は大きいと考える。今回も、情報交換会に参加したメンバーそれぞれが、今後の公衆衛生医師としてのキャリアを後押しする「全国のつながり」を開拓できたのではないだろうか。

5) まとめ

今回の自由集会は、「ケーススタディ集徹底活用術&ディスカッション」をテーマとし、令和5年度に本事業班で作成した「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」の紹介と、具体的な活用方法の提案を行った。その後、ケーススタディ集の事例を用いた参加者同士のディスカッションにより、実践的な学びと交流を深めた。参加者へのアンケートでは、自由集会に対しても、またケーススタディ集そのものに対しても高い評価が得られており、満足度の高い自由集会であったといえる。公衆衛生医師同士の交流やモチベーションの維持向上のための場を提供するだけでなく、ケーススタディ集の内容や使い方を知ってもらうよい機会にもなったと考える。来年度以降に向けては、臨床医や医学生の積極的な受け入れを視野に入れつつ、自由集会の目的を班員で再確認していくことが重要である。

6) 参考

① チラシ（事前の広報で使用）

第83回
日本公衆衛生学会
自由集会

公衆衛生医師の集い

ケーススタディ集 徹底活用術 & ディスカッション

保健所等に入職して間もない人、
サポートがなくて困っている人、
ここで全国の仲間とつながろう！

2024 **10/30 (水)**
18:00 - 19:30

札幌コンベンションセンター
第8会場 (206号室)

対象 すべての公衆衛生医師

CASE STUDY

PUBLIC HEALTH DOCTOR

公衆衛生医師業務と
コンピテンシーを学ぶ
ケーススタディ集

ともに成長できる一冊。

第1部

説明+ディスカッション

ケーススタディ集の活用術を仲間と学ぶ！

内容 ケーススタディ集の紹介
具体的な活用方法の提案
参加者同士のディスカッション

準備 ケーススタディ集
無料ダウンロードはこちら

第2部

情報交換会

北の大地で 全国のつながりを開拓！

日時 10/30 20:30~ (集合後)
場所 北海道ジンギスカン「鮎美屋」
費用 5,000円

締切 10/27 (定員25人)
事前予約はこちら

問合せ
運営委員会 (大原君 榎和田保雄氏)
tshikakuko_shukai@outlook.jp

事務局
令和6年度 地域保健総合推進事業 公衆衛生医師の確保と育成に
関する調査および実証事業 (分科事業者：宗岡子)

② スライド（当日プロジェクターで映写）

ケーススタディ集徹底活用術&ディスカッション

令和6年度地域保健総合推進事業
公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業班

目的

特に行政へ入職間もない医師が、公衆衛生医師の業務を具体的に思い描くことができ、未経験事例の追体験ができるような事例集を作成することにより、公衆衛生医師が円滑に職場に適応し、活躍する一助となることを目的として、社会医学系専門医が持つべき8つのコア・コンピテンシー（基礎的能力）を具体化した事例集の作成

ケーススタディ集



ともに成長できる一冊。

2

作成

期間：令和4、5年度

作成・編集：地域保健総合推進事業
公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業班

[illegible]

発行：日本公衆衛生協会
令和6年5月頃全国の自治体（保健所等）へ配布
全国保健所長会HPに掲載

掲載内容：事例

事例数：14事例

分野： 1 1 分野

- ・感染症対策
- ・結核対策
- ・母子保健対策
- ・精神保健対策
- ・難病対策
- ・健康づくり対策
- ・地域医療対策
- ・食中毒防止対策
- ・生活環境衛生対策
- ・健康危機管理（災害対策）
- ・国際保健（グローバルヘルス）

設定： 都道府県 9事例
 (保健所・担当者 4事例、本庁・担当者 2事例、保健所長、3事例)
 政令市等 5事例
 (担当者 3事例、所属長 2事例)

構成

- ・表題
- ・はじめに
- ・目次
- ・各事例の構成・読み進め方
- ・各事例・コラム

各事例の構成・読み進め方

事例背景・問い

対応例・コラム



注目ポイント1：コラム

全国で活躍されている公衆衛生医師
の熱い思いが詰まっています！



The diagram illustrates a book cover redesign. On the left, under the heading 'Before', is a book cover for 'CASE STUDY' by 公費衛生学研究所 (Public Health Research Institute). The cover is yellow and orange with a small image of an open book. On the right, under the heading 'After', is the redesigned cover. It features a large title 'CASE STUDY' in black, a large image of three stylized figures walking up a staircase, and a block of Japanese text. A large blue arrow points from the 'Before' side to the 'After' side.

作成過程

全国の先生方とオンライン上で協議、連携を行いながら・・・

令和４年度	令和５年度
- 事例集のコンセプトの決定 (入職後間もない 公衆衛生医師向け) - 事業班所属の先生方より事例・ アイデアの収集 - 事例様式を設定	- 事例の作成 - 様式に合わせた事例の編集 - デザインの検討 - 全体構成の決定 - 校正

[illegible]

活用方法：具体例

- ・入職後間もない公衆衛生医師が自身で読み進めていく
- ・社会医学系専攻医の指導の一助として
- ・公衆衛生医師の業務内容の紹介・勧誘の際に使用
- ・公衆衛生医師が集まる場（研修会等）での活用
→本日この後実際にケーススタディ集を用いた検討を行います！

12

今後の展望

全国保健所長会会員、社会医学系専攻医・若手医師等にアンケート調査を実施

【調査内容】

- ・ ケーススタディ集の評価
活用の有無、活用しやすさ、活用の実際など
- ・ 新たなケーススタディ集に望むこと
ターゲット層（指導医向け、中堅医師向けなど）
構成（同一主人公の設定など）
取り扱って扱ってほしい分野、内容

13

本日の進め方

- 自己紹介・役割決定
- ケース提示
- 対応検討
- 共有（ペア）
- 共有（グループ）
- 発表（3グループ程度）
- まとめ

14

自己紹介・役割決定

- 自己紹介をお願いします。
- 「発表役」を決めて下さい。

15

ケース1

- 皆さんは入職半年の保健所医師です。
- 20代女性の結核発生届を受理。塗抹陽性。
- 外国人留学生、日本語可能、寮暮らし。
- 小学生向け英語学童で週3アルバイト。
- 1ヶ月前から咳。入院に納得済。
- どう対応する？

16

解説1

- ・「治療方針の確認・療養支援」
本人の病状
経過、病型、菌検査結果、治療方針
保険・経済的事情
出身国の耐性菌検出状況・治療体制
母国語通訳・資料の検討

17

解説1

- ・「感染源探索と接触者健診」
調査結果に基づいて判断
大学・寮関係者
アルバイト先関係者
説明会の開催を検討することも
- ・丁寧な説明が求められる

18

解説1

- ・「接触者健診の結果を踏まえた対応」
健診の終了時期
今後の経過観察の必要性
対象者の拡大の要否
- ・「本人への対応」
喀痰塗抹の3連続陰性を確認後に退院
退院後の服薬管理体制を調整

19

ケース13

- ・皆さんは保健所長です。
- ・複数の食中毒疑い症例（小学生）の報告
- ・全校の健康調査・給食施設拭き取り調査
- ・検食・参考品の収去
- ・献立表・作業工程等の関連記録の確認
- ・当該校は児童数720名・喫食数800以上
- ・体調不良で数十名の欠席者

20

ケース13

- ・保健所長は教育委員会と方針を協議
- ・調査結果に基づいて原因を判断
- ・発症者計110名の共通食は給食のみ
- ・参考品の鶏肉からカンピロバクター検出
- ・全校同一メニュー、発症者は高学年に多い
- ・現任食材・メニューは全員が全量摂取
- ・暴露推定日のメニューは複雑な工程
- ・クラス別に調理されたメニューが原因の食中毒と判断し営業停止処分を実施

21

ケース13

- ・保健所として対応終了としてよいのか？
- ・今後行うべき対応はどんなものか？

22

解説13

- ・「再発防止」
- ・教育長・区長に経過報告
再発防止に向けた協働を要請
- ・その後の指導の中で、昨年も同様の事例があったとの情報を入手

23

解説13

- ・有症苦情処理記録には記録なし
- ・教育委員会は保健所感染症担当職員に地域で流行中の病気を尋ねていた
- ・保健所感染症担当職員は漠然とした質問に対して感染症の流行具合を回答していた
- ・教育委員会には食中毒を疑う発想が欠如
→ 情報連携体制の点検・整備が必要

24

解説13

- ・「保護者対応・マスコミ対応・議会対応」
- ・原因のさらなる究明
- ・再発防止に向けた研修
- ・調理工程・メニュー選択の指導
- ・改善指導状況の報告・公表
- ・保護者説明会に同席、補足的に質疑対応

25

まとめ

- ・保健所の仕事は「健康危機管理」
- ・関係機関との連携・協力が不可欠
- ・いざという時に連携できるように
平時からの関係づくりが大切

26

アンケート



27

懇親会

事前登録者のみ

自由集会×札幌×ジンギスカン
「北の大地で全国の繋がりを開拓」

① 時間
・受付 : 20:00~20:30
・開始 : 20:30~ (2時間程度)

② 場所
・会場名 : 北海道ジンギスカン 蝦夷屋
・住所 : 〒064-0805 札幌市中央区南5西3丁目
北郷プラザビル1F
・アクセス : すずきの駅から徒歩3分 ※自由集會会場から約3km
・WEB : <https://g.co/kg/mxeiq9V>



懇親会

③ 会費・人数等
・会費 : 5,000円/人 (現地にて現金で支払い)
・コース : 食べ飲み放題コース
・人数 : 35名 (事前登録者のみ)
・座席 : 現地にてくじびきで決定

④ 注意事項
・懇親会会場は自由集會会場から約3kmと距離があります。時間に余裕を持ち移動してください。
・会費は当日現地で現金(5,000円)でお支払いいただきます。
・アレルギー対応は困難ですので、予めご了承ください。

緊急連絡先 : 松澤 知 (まつざわ とも)
電話 : [REDACTED]



③ 配布資料 (ケーススタディ集より抜粋して印刷したものを当日配布)

令和5年度地域保健総合推進事業 全国保健所長会協力事業 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査及び実践事業. 公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集. 2024; 表紙, 4-7, 35-37. https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chikihihoken/pdf/2023_file01-2.pdf (2025年1月31日アクセス可能).

④ YouTube「公衆衛生医師チャンネル」

“大公開！公衆衛生医師業務ケーススタディ集の使い方”(2024年12月13日公開). <https://www.youtube.com/watch?v=6bUg3uUo0X8> (2025年1月31日アクセス可能).



⑤ 写真（会場の様子）



Ⅱ 事業報告

2 実践事業

(5) レジナビフェア東京・大阪での啓発活動

宮園将哉（大阪府岸和田保健所）

高橋千香（世田谷保健所）

松澤 知（新潟県福祉保健部（兼）三条保健所）

早川貴裕（栃木県保健福祉部医療政策課）

平本恵子（広島市南区厚生部／南保健センター）

兼任千恵（神奈川県平塚保健福祉事務所）

植田英也（大阪市健康局健康推進部健康づくり課）

岩瀬敏秀（岡山県備前保健所）

宗 陽子（長崎県県央保健所）

(1) 要旨

近年、公衆衛生医師の確保が課題となる中、医学生や研修医を対象とした就職活動イベントへの参加など、様々な広報活動を行ってきたが、今年度も大阪と東京で開催された「レジナビフェア」にブースを出展し、医学生や臨床医に対して公衆衛生医師の仕事について、パンフレットやリーフレットの配布、紹介動画の上映、情報サイトの案内など、多様な方法で情報提供を行った。

特に今回は、対応する公衆衛生医師がブース来場者からの質問に丁寧に回答できるように想定質問集を事前に作成して準備するとともに、スマートフォンで簡単にアクセスできる「公衆衛生医師情報サイト」のチラシを作成して配布するなどの新たな工夫を行った。

来場者からは、公衆衛生医師の仕事について具体的なイメージが湧いたなど、前向きな感想が多く聞かれるとともに、その後に開催されたサマーセミナー（PHSS）やオンライン合同相談会（PHCC）の参加につながることができ、このような対面イベントへの参加は、公衆衛生医師の仕事への理解を深める上で非常に有効な手段であることが改めて示された。

今後も、より効果的な啓発手法の研究を進め、必要なノウハウを蓄積するとともに、レジナビフェアなどを含めた様々な広報活動を通じて、公衆衛生医師の確保に努めることが重要であると考えられた。

(2) 目的

近年、医学生や医師を対象とした研修病院が参加する就職活動イベントや、医療機関のウェブによる求人広告等が普及・充実してきており、公衆衛生医師の確保についてもこのような状況を鑑みて広報活動に取り組むことが求められている。

しかし、コロナ禍によって多くの集合・対面型のイベントが中止され、オンラインのみの開催となったことから、本事業班では従来からの全国保健所長会のウェブサイトでの情報発信に加え、動画などの新たなメディアも加えたオンラインでの情報発信の充実強化を図ってきた一方で、直接対面による広報啓発の重要性やその意義について再認識されるようになった。

令和5年度からは新型コロナウイルス感染症の5類化に伴い対面型のイベントの開催も再開されてきたため、本事業班では、昨年度はコロナ禍前の実施体制を参考に大阪で開催された医学生や研修医を対象とした就職活動イベントに厚生労働省の協力により参加したが、今年度についても同様に大阪と東京で開催された2回のイベントに参加して、公衆衛生医師に関する広報活動を行った。

(3) 方法

1) 民間医局 レジナビフェア 2024 大阪（主催者：株式会社メディカルプリンシプル）

- ・日 時：令和 6 年 5 月 26 日（日）11:00～17:00
- ・場 所：インテックス大阪（大阪市住之江区）
- ・対応者：平本恵子（広島市南区厚生部／南保健センター）、岩瀬敏秀（岡山県備前保健所）
植田英也（大阪市健康局健康推進部健康づくり課）、宮園将哉（大阪府岸和田保健所）
松澤知（新潟県福祉保健部（兼）三条保健所）、
*厚生労働省から健康・生活衛生局健康課地域保健室から松下詢氏が参加。
- ・参加者：合計 1,676 名（医学生 1,575 名・医師 101 名），うちブース来訪者 30 名
- ・活動概要：ブース来場者に対して、保健所や都道府県庁等で働く地方の行政医師、および厚生労働省等で働く医系技官等、公衆衛生医師に関する情報を提供した。

2) 民間医局 レジナビフェア 2024 東京（主催者：株式会社メディカルプリンシプル）

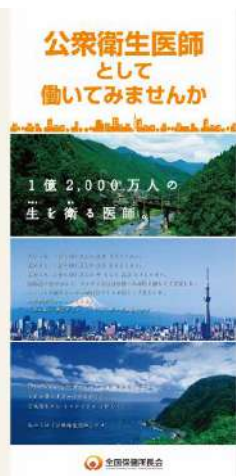
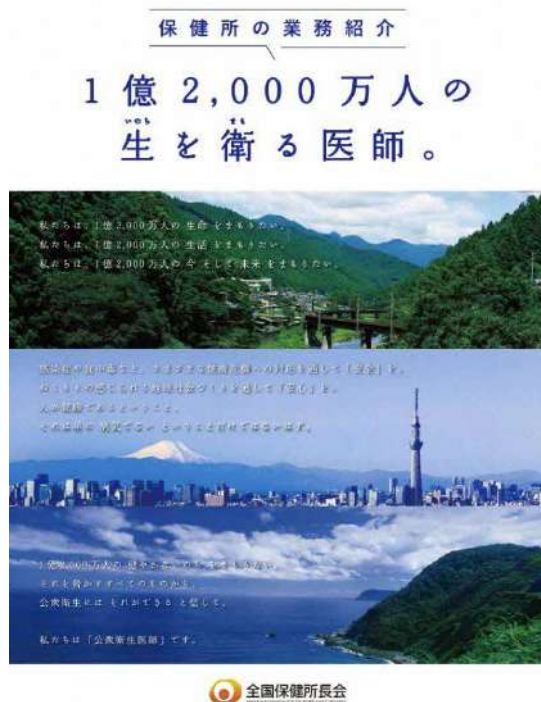
- ・日 時：令和 6 年 6 月 16 日（日）11:00～17:00
- ・場 所：東京ビッグサイト（東京都江東区）
- ・対応者：高橋千香（世田谷保健所）、兼任千恵（神奈川県平塚保健福祉事務所）
宇田英典（地域医療振興協会）、松澤知（新潟県福祉保健部（兼）三条保健所）
早川貴裕（栃木県保健福祉部医療政策課）、
*厚生労働省から健康・生活衛生局健康課地域保健室から森幸野氏、林山昇平氏が参加。
- ・参加者：合計 2,486 名（医学生 2,199 名・医師 287 名），うちブース来訪者 30 名
- ・活動概要：ブース来場者に対して、保健所や都道府県庁等で働く地方の行政医師、および厚生労働省等で働く医系技官等、公衆衛生医師に関する情報を提供した。

(4) 会場設営

レジナビフェアの会場内において、公衆衛生医師に関する情報提供が行われるブースであることが来場者から一目でわかるよう、本事業班が平成 30 年度に作成したのぼり旗と布ポスターをブースに設置するとともに、今年度はブース横に設置した大型モニターで本事業班が作成した公衆衛生医師の紹介動画を連続放映した。また、ブース前には棚を設置し、直接相談せずとも事業班のチラシを受け取れるよう棚のラック内に各チラシを配置した。



公衆衛生医師紹介ブース（左：インテックス大阪／右：東京ビッグサイト）



パンフレット「公衆衛生医師募集 1億2,000万人の生を衛る。」(令和2年度作成) (左)
リーフレット「公衆衛生医師として働いてみませんか」(平成29年度作成) (右)



チラシ「公衆衛生医師サマーセミナーPHSS2024」(左)

チラシ「公衆衛生医師 WEB 合同相談会 PHCC2024」(右)

（５）結果

１）ブースにおける全般的な流れ

ブース来場者に対しては、本事業班が作成したリーフレット「公衆衛生医師として働いてみませんか」（平成 29 年度作成）及びパンフレット「公衆衛生医師募集 １億 2,000 万人の生を衛る。」（令和 2 年度作成）を活用して、保健所の役割や行政に勤務する公衆衛生医師の業務等について説明するとともに、様々な質問に対応した。

また、８月に開催予定の「公衆衛生医師サマーセミナーPHSS2024」や９月に開催予定の「公衆衛生医師 WEB 合同相談会 PHCC2024」のチラシを配布して参加を促すとともに、今回のイベントのために作成した「公衆衛生医師情報サイト」のチラシを配布して、来場者が帰宅後にも詳しい情報に簡単にアクセスできるよう工夫した。

ブースで説明を受けた来場者からは「保健所や都道府県庁で働くことについて具体的なイメージが湧いた」、「将来の進路として公衆衛生医師という選択肢についても考えてみたい」など、ほぼ全員から前向きな感想を聞くことができた。



医学生や若手医師の相談に応じる様子（左：インテックス大阪／右：東京ビッグサイト）

２）来場者への質問対応 ～想定質問集の作成

コロナ禍前から厚生労働省がレジナビフェアに公衆衛生医師と医系技官を募集するブースを出展する際には、本事業班の班員が説明者として出展に協力してきたが、参加する班員の知識と経験に基づいて来場者に対応してきたことから、そのノウハウが十分に共有されてこなかった。

今年度のレジナビフェアにおける説明者には行政経験の短い若手医師も含まれていたことから、来場者から受けることが多い質問を想定質問集としてとりまとめておくことで、他の公衆衛生医師などの意見も聞きながら事前に回答を準備できるようにした。

具体的な質問としては、

- ・具体的な業務内容（保健所、保健所医師の役割、保健所医師としての業務、都道府県庁における公衆衛生医師の役割・業務）
- ・公衆衛生医師としての採用の流れ（試験日程や試験の内容等）、受験のタイミング（卒後何年目から受験可能か、臨床研修を受けずに就職可能か等）
- ・公衆衛生医師になるために必要な条件等（臨床経験、診療科目、資格、その他の経験）
- ・都道府県と国（厚生労働省等）で働く公衆衛生医師の違い（採用条件、業務内容、役割、待遇等）

- ・勤務条件（給料，都道府県に公衆衛生医師として勤務しながら留学，研究，診療等に従事できる可能性等）
- ・社会医学系専門医制度
- ・その他（都道府県と厚生労働省との人事交流の可能性等）

などを挙げた。

なお，この想定質問集については，今回のレジナビフェアのような医学生や医師向けの就活イベントだけではなく，実習や研修などの機会に医学生や臨床医から受ける質問に対する回答を準備する資料や，公衆衛生医師を募集する際のFAQの作成など，公衆衛生医師を確保するための様々な活動にも活用できると考えられた。

3) 来場者への効率的な情報提供

～「公衆衛生医師情報サイト」のチラシの作成

本事業班では，コロナ禍前から公衆衛生医師の仕事を紹介するためのポスターやチラシ，パンフレットやリーフレットなどの紙媒体資料を作成してきた。

一方で，従来からの全国保健所長会のウェブサイトでの情報発信に加え，ブログや動画などの新たなメディアも加えたオンラインでの情報発信の充実強化を図ってきたことから，今年度は今回のような対面イベントにおいてもこれらのメディアを簡単に紹介できる資料として「公衆衛生医師情報サイト」のチラシを作成した。

チラシでは，紹介する情報サイトを，

- ・全国保健所長会ウェブサイト
- ・保健所長のお仕事紹介ブログ
- ・LINE 公衆衛生医師オープンチャット（※注）
- ・YouTube 公衆衛生医師チャンネル



の4つに絞り込み，それぞれの簡単な紹介文と二次元バーコードを掲載して，ネット検索からだけではなくスマートフォンやタブレットから簡単にアクセスできるようにすることで，来場者が帰宅後にもそれぞれの情報サイトにアクセスして情報を容易に見直すことができるようにした。

なお，このチラシについては，今回のレジナビフェアのような医学生や医師向けの就活イベントだけではなく，実習や研修などの機会に医学生や臨床医に配布することで，公衆衛生医師の仕事を知って興味を持ってもらえるようにするなど，公衆衛生医師を確保するための様々な活動にも活用できると考えられる。

※注：LINE オープンチャット：LINE 上で「友だち」になっていなくても，匿名で（自身が LINE 上で設定した名前を表示せず，ニックネームなどを設定できる）トークや情報交換ができる機能。

(6) 考察

近年では，医学生や初期臨床研修医が初期研修や後期研修の研修先病院を探す際には，主にインターネットで情報収集をしていると考えられるが，より具体的な情報収集を行うためにレジナビフェア等の対面イベントにおける面談やオンラインによる面談などが盛んに行われている。

公衆衛生医師の募集については，レジナビフェアのような研修先を紹介するイベントに出展するこ

とが直接の入職につながる可能性は低いと考えられるが、研修先病院の情報収集をする「合間に」公衆衛生医師募集ブースに立ち寄り、将来の就職先の候補として情報収集している医学生や研修医が多いと考えられる。

そのため、ウェブページやブログ、動画等インターネットを用いた情報発信に加え、このような対面イベントなどの機会を活用して公衆衛生医師の仕事やその具体的な内容について情報発信を進めることは、大変重要と考えられた。

今回は、イベント参加者 26 名に加え、他ブースの出展関係者 4～5 名の計 30 名程度の来場があり、来場者 1 組当たり、短い人で 10～15 分、長い人で 30 分程度相談に応じていた。研修病院を紹介する他のブースに比べると、公衆衛生分野に全く興味のなさそうな医学生や研修医にこちらから声をかけるより、自分から公衆衛生に対する興味を示してブースに来てくれる医学生や研修医に対して丁寧に説明するよう心掛けた。最初に何が聞きたいかニーズを確認しつつ、概要を一通り説明してから気になったことや疑問点を尋ねてみると、必要な情報を伝えつつ相手のニーズに沿った相談を受けることができたと考えられた。

説明に際しては、パンフレットやチラシ等の資材は説明のための重要なアイテムであるため、必要部数準備しておくことはとても重要と考えられた。また、今回は公衆衛生医師の仕事やその具体的な内容について紹介した「公衆衛生医師情報サイト」のチラシを配布したが、それぞれにどのような情報が掲載されているかをタブレット等で見せながら説明することも効果的だったように思われた。

また、今回のイベントは 6、7 月に開催されたことから、8 月に開催予定の「公衆衛生医師サマーセミナー PHSS2024」や 9 月に開催予定の「公衆衛生医師 WEB 合同相談会 PHCC2024」のチラシを配布して参加を促すこともできた（今回のレジナビフェアでの紹介をきっかけに参加した者は PHSS 4 名、PHCC 1 名）。

今後は、今年度のレジナビフェアの出展経験を参考に、より効果的な啓発手法を研究するとともに、公衆衛生医師であれば誰でも対応者になれるよう、必要なノウハウをさらに蓄積していくことが必要と考えられる。

（7）資料

1）イベント当日に配布した資料

- ・リーフレット「公衆衛生医師として働いてみませんか」（平成 29 年度作成）
- ・パンフレット「公衆衛生医師募集 1 億 2,000 万人の生を衛る。」（令和 2 年度作成）
- ・チラシ「公衆衛生医師サマーセミナー PHSS2024」
- ・チラシ「公衆衛生医師 WEB 合同相談会 PHCC2024」
- ・チラシ「公衆衛生医師情報サイト」

【添付 1】

2）手持ち資料

- ・公衆衛生医師募集ブース用想定質問集

【添付 2】

3）その他資材

- ・ポスター「1 億 2000 万人の生を衛る医師」
- ・のぼり旗セット「公衆衛生医師」
- ・大型モニター・P C（YouTube 動画放映用）



site 1



全国保健所長会
ホームページ



公衆衛生に関心のある医学生や若手医師向けのセミナー、全国の公衆衛生医師の募集情報など、様々な公衆衛生情報が集約されている。

site 2



公衆衛生医師
オープンチャット



全国保健所長会の医師確保育成事業班のオープンチャット。現役の公衆衛生医師による最新のイベント情報やキャリア情報を提供。

site 3



保健所長のお仕事紹介blog



全国保健所長会の医師確保育成事業班のブログ。保健所長や若手公衆衛生医師のリアルな日常を垣間見ることができる。個別相談も随時受付。

site 4



公衆衛生医師
チャンネル



全国保健所長会の医師確保育成事業班のYouTubeチャンネル。公衆衛生医師におすすめの研修や公衆衛生医師の紹介動画など随時掲載。

制作 令和6年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)
公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業班

公衆衛生医師の
相談フォームは
こちら→



<業務内容>

- ・公衆衛生医師はどのような場所で働いていますか
- ・公衆衛生医師はどのような仕事をしていますか
- ・就職先はどのように選べばいいですか

<キャリア>

- ・初期研修後すぐに公衆衛生医師になる人はいますか
- ・公衆衛生医師になるのは何年目ぐらいからがおすすめですか
- ・公衆衛生医師のキャリアパスを教えてください
- ・社会医学系専門医の資格は公衆衛生医師に必須な資格ですか
- ・自治体に就職してから、国の機関や海外などで働くことはありますか

<臨床経験>

- ・公衆衛生分野で数年間経験を積んで再び臨床に戻ることはできますか
- ・公衆衛生分野で働いていて臨床経験が少ないために困ったことはありますか
- ・公衆衛生分野で働いていて臨床経験がどのように役立っていますか
- ・臨床分野の専門医資格を維持することは可能ですか
- ・臨床分野の勤務を続けながら公衆衛生分野で働くことはできますか
- ・公衆衛生分野で働きながら臨床分野でアルバイト（兼業）はできますか

<知識・スキル>

- ・公衆衛生分野を目指すために学生時代や研修医時代、入職前にやっておくべきことはありますか
- ・公衆衛生分野を目指すために大学院に行ったり、MPHや学位を取得するメリットはありますか
- ・公衆衛生医師に必要なスキルはどんなものがありますか
- ・公衆衛生医師として就職先に採用されるにあたって注意することはありますか
- ・公衆衛生医師の適性とはどんなものですか

<やりがい>

- ・臨床分野を離れて公衆衛生分野の仕事を選んだことに後悔はありませんか
- ・公衆衛生医師のやりがいや醍醐味を教えてください
- ・公衆衛生分野の仕事の中で腹が立ったことやストレスに感じることはありましたか

<働き方>

- ・公衆衛生分野は女性医師でも働きやすい職場環境ですか
- ・公衆衛生分野の仕事と育児を両立させることは可能ですか
- ・公衆衛生医師の給与や処遇はどのようなものですか

<将来・定年後>

- ・ベテランの先生は将来をどのように考えていますか

II 事業報告

2 実践事業

(6) YouTube「公衆衛生医師チャンネル」の企画・運営

平本恵子（広島市南保健センター） 石倉 凱（島根県健康福祉部）
藤井 可（熊本市総務局行政管理部） 横山勝教（香川県中讃保健所）
藤田利枝（久留米市保健所） 宗 陽子（長崎県県南保健所）

ア. 要約

「公衆衛生医師チャンネル」は、公衆衛生医師に関する様々な情報を、動画・音声を通じて伝えることで理解が深まり、親近感や魅力を感じられるように開設された YouTube プラットフォームで、本事業班が主催する各種セミナーのアナウンスや、講義の編集動画の掲載など、様々な用途に応じてコンテンツを制作し管理運営している。

今年度は、3つの目的に区分し、①学生・臨床医・若手公衆衛生医師を対象とした人材確保動画（本事業班が運営するセミナー等のコマーシャル動画）②主に公衆衛生医師を対象とした人材育成動画（講義・セミナー・インタビューの編集動画）③医学部学生・教員や一般社会を対象とした教育・広報動画（保健所の紹介動画）、と、目的ごとにコンセプトを決めて制作した。その中で、今年度はさらなる企画として、ラジオ風インタビュー動画「ガイ灯 RADIO」、教育用紹介動画「保健所の仕事シリーズ」を新設し、動画制作した。

また、YouTube のアナリティクス結果をもとに、同チャンネルの視聴者の特性を分析し、制作側と視聴者側の意識の整合性を検討した。

来年度以降も、目的やコンセプトを明確にし、公衆衛生医師の仕事内容や魅力について分かりやすく伝え、期待される人材確保・育成に繋げる。また、事業班が運営する各種イベント参加者等との直接的な意見交換や、視聴者からのウェブリクエストを活用し、ターゲット層の顕在・潜在ニーズに具体的に対応できる、インタラクティブなチャンネル運営を目指す。

イ. はじめに

YouTube は、Google 社が運営する世界最大の動画共有サービスで、国内月間アクティブユーザー数 7,120 万人¹⁾、認知率 96.8%²⁾という、最も強大な SNS メディアの一つである。6 年前に始動した本事業班の YouTube プラットフォーム「公衆衛生医師チャンネル」は、認知度が低く医師に占める割合が極めて少ないという公衆衛生医師の痛点を逆手に取り、役割や価値を広く周知し、人材確保・育成に資するための積極的な広報戦略の一環として立ち上げられ、現在まで運営を続けている。令和 7 年 1 月 23 日現在、チャンネル総視聴回数 85,352 回、コンテンツ総数 68（うち公開 51、限定 17）、660 人の利用者がチャンネル登録し、それぞれの動機によって、日々閲覧数が伸びている。

これまでに本チャンネルは、外部委託による本格的な公衆衛生医師インタビュー動画や講義動画編集、寸劇タッチのショート動画など様々な企画に挑戦することで、運営方法や技術

は徐々に定着し、今や本事業班の主力の情報発信として機能し始めている。一方で、本来の目的である公衆衛生医師の人材確保・育成のためにチャンネルがどの程度役立っているか、視聴者の活用状況を評価分析し、動画の内容や方向性を調整・変更する必要がある。

本事業では、昨年度に続き、事業班のイベント告知やセミナー講義の編集動画を制作・公開するとともに、個々の持つ能力と柔軟なアイデアを活かした新企画を立ち上げ、人材確保・育成に結びつく戦略的な企画を運営しつつ、YouTube アナリティクスデータを活用し次年度以降の効果的な広報活動に繋げることを目指す。

ウ. 目的

本事業班の活動主旨である、公衆衛生医師の人材確保、人材育成に加え、従前からの課題である「病院や大学の外で働く“見えない”公衆衛生医師」の“見える化”を促す教育的役割を含む3項目について、視覚・聴覚的な理解を通じて公衆衛生医師に関する体験価値と魅力の可視化を目的とした（表1）。

- (ア) 学生・臨床医・若手公衆衛生医師を対象とした「人材確保」
→セミナー・イベントで得られる価値を理解し魅力を感じて参加したくなる
- (イ) 主に公衆衛生医師を対象とした「人材育成」
→公衆衛生や公衆衛生医師の業務に対する理解を促進し魅力を感じられる
- (ウ) 医学部学生・教員や一般社会を対象とした「教育・広報」
→大学教育や一般社会において“見えない”公衆衛生医師の現場の活動内容を“見える化”し認知度や理解度を高め内容に共感できる

エ. 方法

3つの目的に応じた以下のプロモーション動画の制作を企画し、順次公開（表1・表2）。

- (ア) 学生・臨床医・若手公衆衛生医師を対象とした「人材確保」動画（ショート動画）
 - a. イベントコマーシャル
 - ・公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー
 - ・公衆衛生医師 WEB 合同相談会
 - ・公衆衛生ウィンターセミナー
 - ・日本公衆衛生学会総会自由集会「公衆衛生医師の集い」【新規】
 - b. コンテツコマーシャル
 - ・公衆衛生医師インタビュー「ガイ灯 RADIO」【新規】（「オ.内容」参照）
- (イ) 主に公衆衛生医師を対象とした「人材育成」動画（動画）
 - a. 各セミナー講師の編集動画
 - b. 「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」³⁾（令和5年度本事業班作成）の使い方動画（2024年日本公衆衛生学会自由集会「公衆衛生医師の集い」を編集活用）【新規】

c. 公衆衛生医師インタビュー「ガイ灯 RADIO」【新規】

ラジオパーソナリティ

島根県健康福祉部 石倉凱先生

ゲスト

- ・香川県中讃保健所長 横山勝教先生
- ・宮崎県延岡保健所長兼高千穂保健所長 西田敏秀先生
- ・大阪府寝屋川市保健所長 田中英夫先生
- ・熊本市総務局行政管理部 藤井可先生

(ウ) 医学部学生・教員や一般社会を対象とした「教育・広報」

a. 保健所の仕事シリーズ【新規】

「地域保健法に基づく保健所の業務について（地域保健法第6条）」14項目⁴⁾に沿った保健所の活動紹介動画

b. 行政医師の1日（仕事紹介）

表1：令和6年度YouTube「公衆衛生医師チャンネル」活動内容

概要	視覚・聴覚的な理解を通じて公衆衛生医師に関する体験価値の可視化を目指す			
目的	(ア) 人材確保	(イ) 人材育成	(ウ) 大学・社会との連動	
対象	学生・臨床医・若手公衆衛生医師	公衆衛生医師	医学部学生・教員	一般社会や他職種
内容	セミナー・イベントで得られる価値を理解し、魅力を感じて参加したくなるコマーシャル動画	公衆衛生や公衆衛生医師の業務に対する理解を促進し魅力を感じる動画	“見えない”公衆衛生医師の現場の活動内容を“見える化”し、認知度や理解度を高め魅力を体感できる動画	
種類	【ショート動画】 ・サマーセミナー ・合同相談会 ・ウインターセミナー ・自由集会「公衆衛生医師の集い」 ・インタビュー動画「ガイ灯 RADIO」	【動画】 ・セミナー講義動画 ・サマーセミナー ・ウインターセミナー ・インタビュー動画「ガイ灯 RADIO」 ・ケーススタディ集紹介・活用動画	【動画】 ・保健所の仕事シリーズ ・地域保健法に基づく保健所の業務について（地域保健法第6条）14項目に沿った保健所の活動紹介動画 ・行政医師の1日 ・本庁（県庁・市役所）、保健所、保健センター等における1日の活動内容	

オ. 内容

(ア) 人材確保動画（主にショート動画）＝9本

a. イベントコマーシャル（主にショート動画）8本

本事業班が行っている各種セミナー・相談会・自由集会を紹介し参加を促すため、申込締め切りから数週間前に1分以内のショート動画を作成し掲載した。また、

動画の説明欄には申込用のグーグルフォームを掲載し、閲覧と同時に申し込めるようにした（現在は申込フォームを削除し限定公開中）。

- ・公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー（図1a）2本
- ・公衆衛生医師 WEB 合同相談会（図1b①②③）3本
- ・日本公衆衛生学会総会自由集会「公衆衛生医師の集い」（図1c①②）2本
- ・公衆衛生ウィンターセミナー（図1d）1本

b. コンテンツコマーシャル（ショート動画）1本

- ・インタビュー動画「ガイ灯 RADIO」（図1e）1本



図1a



図1b①



図1b②



図1b③



図1c①



図1c②



図1d



図1e

図1：人材確保ショート動画一覧

(イ) 人材育成動画（主に 10-20 分程度の動画）11 本（うち公開 5 本）

a. 事業班主催の各セミナー講師の講義動画（図2）

各セミナーで行われた講義のうち、以下の講義を順次編集・公開（作成中含む）。

- ・サマーセミナー：3本
内田勝彦先生、北岡政美先生、信友直子監督
- ・ウィンターセミナー：3本
田邊裕先生、横山勝教先生、白井千香先生
（曾根智史先生の動画は同名講義を公開済）



図2：信友直子監督

- b. 公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集（令和5年度本事業班作成）」³⁾の使い方動画（図3 a/b）：1本

本事業班が企画制作した「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」の実践的な活用方法をわかりやすく伝えるため、第83回日本公衆衛生学会総会自由集会「公衆衛生医師の集い“ケーススタディ集徹底活用術&ディスカッション”」（2024年10月30日）で行われた約60人の参加者によるグループワークの様子を、ケーススタディ集の使い方の一例として編集した。動画は「1.役割分担」「2.簡単な流れ」「3.実践編」に分け、具体的な活用方法と



図3 a：使い方動画のサムネ



図3 b：動画の一場面

得られる成果について説明しているが、それを現役の公衆衛生医師等が行うグループワーク動画に準えることによって、公衆衛生医師のリアルな姿とケーススタディ集の使い方、両者の特徴が視覚的に理解できるようになっている。

- c. インタビュー動画「ガイ灯 RADIO」（図4 a/b/c）4本（制作中も含む）

「あなたの将来をそっと照らすラジオ風動画」をモットーに、全国で活躍する公衆衛生医師をゲストに迎え、島根県庁の公衆衛生医師、石倉凱（がい）先生がラジオパーソナリティとなってインタビューを行う、新感覚のラジオ風動画「ガイ灯 RADIO」を企画した。



図4 a 横山勝教先生

ゲストは、本事業班の先生方および令和6年度地域保健総合推進事業の分担事業者の先生方から選定し、2024年は6月～9月にかけて4人の先生（香川県中讃保健所横山勝教先生、宮崎県高鍋保健所長西田敏秀先生、大阪府寝屋川保健所田中英夫先生、熊本市役所藤井可先生）のインタビュー動画を撮影し、現在制作中。



図4 b 田中英夫先生

制作方法は、まずゲストの公衆衛生医師と石倉凱先生とのインタビューをzoom上で行い、背景にスタジオ画像をはめ込んだ状態で約1時間撮影する。それを20分程度（前半はゲストのエピソードトーク、後半は



図4 c 藤井 可先生

視聴者からの質問コーナー）の収録動画に編集し、公開した。

企画名は、ラジオパーソナリティの石倉先生の名「凱（がい）」と「街（がい）灯」を掛け合わせ、将来の生き方を考える際に役に立つ・視聴者にそっと寄り添うラジオ風動画として役目を果たすことを願い「ガイ灯 RADIO」と命名した。

本企画は主に公衆衛生医師をターゲットにしているが、中高生や臨床医師、一般の方も理解できるよう、わかりやすく親しめるように心がけた。また視聴者からリ

クエストを募集するため、それぞれの動画説明欄や本事業班が運営するブログ「保健所長のお仕事紹介」⁵⁾ にアンケート URL を添付し、インタビューの希望や当コンテンツへの意見など、視聴者と共に作るインタラクティブな仕組みを構築した。

(ウ) 大学・社会との連動

a. 保健所の仕事シリーズ（図 5 a/b/c、表 3）

医学生や大学教員らにとって、見たことや経験したこともない公衆衛生行政について学びを深めることは容易ではない。また、教科書やインターネット上の文字情報だけを理解していても、その現場の様子がわからなければ、誰かにその内容を説明することは困難である。そこで、地域保健法第 6 条基づく、保健所が実施する 14 項目⁴⁾の業務内容に沿って、職場や地域での保健所活動の紹介動画の制作を企画した。令和 7 年 1 月 23 日現在、このうち 3 項目を公開（いずれも香川県中讃保健所：横山勝教先生による撮影）。

- 1 地域保健に関する思想の普及及び向上に関する事項（図 5a）
- 2 人口動態統計その他地域保健に係る統計に関する事項（図 5b）
- 3 栄養の改善及び食品衛生に関する事項（図 5c）

なお、表 3 のごとく、これら 14 項目は内容が幅広く、それらの活動を実際



図 5 a 思想の普及及び向上



図 5 b 地域保健に係る統計



図 5 c 栄養の改善及び食品衛生

表 2：令和 6 年度 YouTube「公衆衛生医師チャンネル」活動スケジュール

目的	コンテンツ		令和 6 年												令和 7 年		
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
人材確保	公衆衛生サマーセミナー告知動画			公開													
	公衆衛生医師合同相談会告知動画			公開	公開	公開											
	公衆衛生ウインターセミナー告知動画																
	自由集会「公衆衛生医師の集い」告知動画								公開	公開							
	インタビュー「ガイ灯RADIO」告知動画										公開						
人材育成	セミナー講義	公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー															
		内田勝彦先生														制作中	
		北岡政美先生														制作中	
		信友高子監督															
	公衆衛生ウインターセミナー	田邊裕先生														制作中	
		横山勝教先生														制作中	
		白井千香先生														制作中	
		曾根智史先生														制作中	
	インタビュー	ガイ灯RADIO															
		横山勝教先生														制作中	
		西田敏秀先生															
		田中英夫先生														公開	
教育	ケーススタディ集の紹介・活用動画																
	事業班員・参加者																
	保健所の仕事シリーズ（地域保健法に基づく保健所の業務について）															公開	
	公衆衛生医師の1日シリーズ（公衆衛生医師の活動内容）															制作中	

に行っている様々な自治体・職場の公衆衛生医師や職員等と工夫しながら撮りためてゆく必要があるため、来年度以降も継続し、班員で手分けして制作する計画とした。

表 3：地域保健法に基づく保健所の業務について 4)

	地域保健法に基づく保健所の業務
一	地域保健に関する思想の普及及び向上に関する事項
二	人口動態統計その他地域保健に係る統計に関する事項
三	栄養の改善及び食品衛生に関する事項
四	住宅、水道、下水道、廃棄物の処理、清掃その他の環境の衛生に関する事項
五	医事及び薬事に関する事項
六	保健師に関する事項
七	公共医療事業の向上及び増進に関する事項
八	母性及び乳幼児並びに老人の保健に関する事項
九	歯科保健に関する事項
十	精神保健に関する事項
十一	治療方針が確立していない疾病その他の特殊の疾病により長期に療養を必要とする者の保護に関する事項
十二	エイズ、結核、性病、伝染病その他の疾病の予防に関する事項
十三	衛生上の試験及び検査に関する事項
十四	その他地域住民の健康の保持及び増進に関する事項

カ. 結果

YouTube アナリティクスから得られた閲覧情報は以下のとおり。

(ア) チャンネル視聴回数 (2024 年 1 月～12 月)

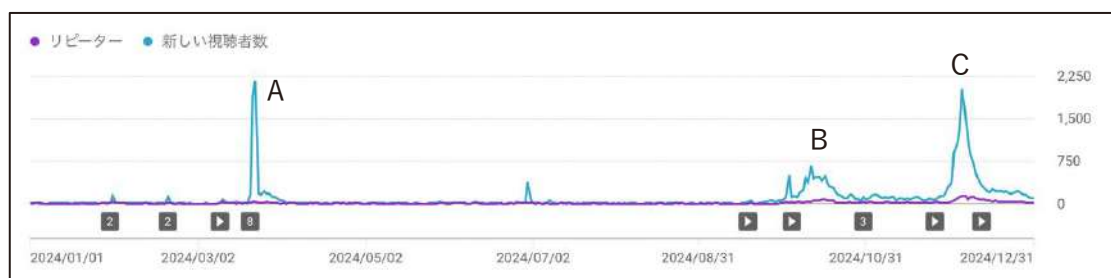


図 6：2024 年のチャンネル視聴回数

2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの 1 年間 (366 日) の視聴回数は 56,494 回 (2025 年 1 月 23 日現在 85,352 回)、チャンネル登録者数は 1 年間で 398 人増え、659 人となった。1 日あたりの視聴回数が最も多かったのは、3 月 21 日にショート動画シリーズ「公衆衛生医師あるある」8 本が同時公開された 2 日後の 3 月 23 日 (=A:2,160 回)、続いてガイ灯 RADIO 第 2 回田中英夫先生の動画公開後 10 日目の 12 月 5 日 (=C:2,020 回)、そして保健所の仕事シリーズ① (10 月 4 日) 公開 7 日後の 10 月 11 日 (=

B：679回）であった。さらに 2024 サマーセミナー講師：信友直子監督の講演動画（9 月 18 日）以降、これまで 30-70 回／日程度であったチャンネル閲覧数が、継続して 100-300 回／日となっている。またこれらの閲覧数の上昇および波 B、波 C のほとんどは、信友直子監督の講演動画の視聴回数である。

コンテンツ別の視聴者の閲覧条件を見てみると（表 4）、最も視聴回数が多かったのは信友監督の動画、続いてショート動画「公衆衛生医師あるある：電気が一斉に消えることにびっくり」、そして 2023 サマーセミナー講師：守上佳樹先生の講演動画「熱血講演！KISA2 隊が生んだ超連携体制」と続く。いずれの動画も、視聴回数は信友監督の講義動画の公開後から急激に伸びており、特に図 6 の波 C 以降はコンスタントにその他のセミナー講義の動画閲覧数も上昇している。

表 4：2024 年上位 5 コンテンツ

順位	動画タイトル	動画の種類	平均 視聴時間	平均 視聴率%	視聴回数
1	認知症の母が命懸けで教えてくれたこと	講義	8:38	30.4	29,713
2	公衆衛生医師あるある「電気が一斉に消えることにびっくり」	ショート	0:17	71.0	3,893
3	熱血講演！「KISA 2 隊が生んだ超連携体制」	講義	8:03	27.8	2,068
4	8 分でわかる 保健所医師の一日	紹介	2:48	35.5	1,565
5	公衆衛生医師あるある「一般行政職と思いきや医者」	ショート	0:13	95.8	1,261

（イ）年代別・性別・動画種別の視聴回数（図 7 a/b/c/d）



図 7a：2024 年年代・性別チャンネル視聴回数

視聴者の年齢	視聴回数	
	女性	男性
合計	79.0%	21.0%
13~17歳	0.5%	0.8%
18~24歳	1.0%	2.0%
25~34歳	1.5%	2.9%
35~44歳	1.3%	2.3%
45~54歳	6.0%	2.9%
55~64歳	18.4%	2.8%
65歳以上	50.5%	7.3%

図 7b：年代別・性別視聴回数



図 7c：動画に限定した場合



図 7d：ショートに限定した場合

所要時間が約 20 分ある講演動画の視聴回数(図 7c)は、その大半が 65 歳以上(68.6%)の女性(86.8%)であり、ほぼ信友監督の動画の閲覧回数が占有していた。一方で、30 秒前後のショート動画(図 7d)は、主に 18 歳～54 歳の年代がメインで閲覧し(74.0%)、男性がやや多い(56.3%)傾向にあった。

(ウ) トラフィックソース (図 8)

2024 年の 1 年間のトラフィックソースは、1 位が関連動画(36.2%)、2 位がブラウジング機能(25.9%)、3 位がショートフィード(12.5%)となっており、閲覧者の多くが、各々の興味や関心に応じて、別の YouTube 動画を閲覧中、関連動画やブラウジング機能を通じて誘導され、閲覧したことがわかった。

一方で、その動画の内容や名前を求めて検索し、クリックした「外部」「YouTube 検索」も、それぞれ全体の 7%程度見られた。

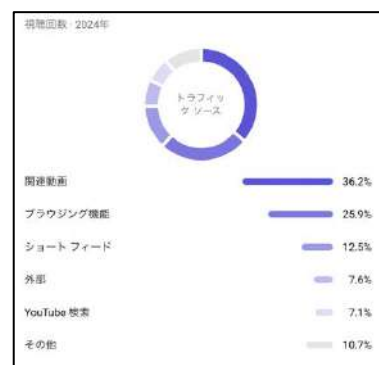


図 8: 2024 年トラフィックソース

キ. 考察

(ア) 社会の中で広く機能し始めた YouTube「公衆衛生医師チャンネル」

本 YouTube チャンネルの本来の運営目的は、公衆衛生医師の魅力をわかりやすく発信し、公衆衛生医師の人材確保育成のためであり、公衆衛生医師の人物像や日常をわかりやすく伝えるインタビューやセミナー動画、活動の取材動画といったリアルなコンテンツを軸として現在まで企画運営を続けてきた。

これらは全て、ターゲット層である医学生・臨床医師・若手公衆衛生医師を主な視聴者に想定して制作したが、2024 年の視聴者データからは、その多くが認知症介護をテーマにした講義動画を閲覧した 65 歳以上の女性であり、コメント欄には、視聴者等の日々の認知症患者の介護体験やその辛さ、それを読んだ視聴者の返信が綴られていた。このことから、本チャンネルが、本来のターゲット層を超えて、全国の全ての年代・職業において常時閲覧されていることがわかった。さらに、この動画をきっかけに、チャンネル内で 1 年前に掲載されていた別の動画も閲覧数が急激に伸び、現在もその効果が継続していることから、公開直後には閲覧されなくとも、とあるきっかけで一気に認知される、という YouTube 特有の現象も明らかとなった。

これは、本チャンネルのトラフィックソースの多くを占める、関連動画やブラウジング機能・ショートフィード機能によるもので、本チャンネルのコンテンツが、チャンネル登録をしていないユーザーにも興味や関心に応じて自動的におすすめされる YouTube の動画配信サービス機能配信システムであり、改めて、我々事業班が YouTube を活用するメリットが示された。

また、自動的におすすめされたコンテンツをターゲット層以外のユーザーがクリック

する、ということは、公衆衛生医師が日々向かい合っている「答えのない課題」がターゲット層のみならず、社会の全ての年代・職業において同じように存在し、同じように解決したいと願っていることが明らかとなった。

以上より、「公衆衛生医師チャンネル」の本来の目的が、公衆衛生医師の人材確保・育成を狙うための企画であったものが、結果として公衆衛生医師の担う業務内容や対応する課題を社会の中で広報することとなり、コメント欄でもターゲット層以外の視聴者同士が互いに情報共有するという、文字通り「公衆」の「生」を「衛（まも）る」ために機能する、インタラクティブな情報共有・発信ツールに進化している。

（イ）ターゲット層のニーズに応じたコンテンツの工夫

a) コンテンツのデザイン

YouTube アナリティクスの分析結果から、ターゲット層の年代はショート動画を主に閲覧していることから、事業班が運営する各種セミナー・自由集会等のイベント紹介は、今後もショート動画を作成し、全国保健所長会ホームページ上やメーリングリスト・全国の大学・自治体等の担当部署に向けてタイムリーに発信することが望ましい。

また、アナリティクス結果から、ショート動画でさえも、最初の数秒で一気に50%以下まで閲覧数が落ちてゆくことから、動画のインパクトを最初の数秒やサムネイルのデザインに持たせることが重要である。

一方で、農林水産省の公式YouTubeチャンネル「BUZZMAFF ばずまふ」⁶⁾は、日本で最初の官僚系YouTubeプラットフォームであり、今やフォロワー数が17万人を超えている。動画の多くは10-20分程度の長尺動画でありながら、日本の農林水産物の良さや農林水産業、農産漁村の魅力を伝えることを目的に、職員のスキルや個性を活かして運営されている。内容の多くは、わかりやすさだけでなく、個々の職員の強い個性や、思わずクスッと笑える言動、画面表示の面白さをふんだんに取り入れている。

「VIDEO WORKS」⁷⁾によると、動画制作の上で最も重要なことは、視聴者にとって有益な情報やコンテンツかどうかであり、再生回数を増やすポイントとして

①視聴したくなるタイトルやサムネイルを作成する

- ・タイトルは視聴者の興味をひきつつ動画の内容がわかるようにし、キーワードを適切に含める
- ・サムネイルは視聴者の好奇心を刺激する画像やテキストを使用する
- ・サムネイルの色数は抑え、タイトルと異なるワードやテキストを用いる

②冒頭で視聴者を一気に引き込む仕掛けを作る

- ・衝撃的な事実、面白いエピソードの紹介、質問を投げかけることで、視聴者の好奇心を刺激する

③視聴維持率を意識した構成にする

- ・内容が途中で薄れることなく、常に次に何が起こるのかを予測させる

- ・視聴者に有益な情報を提供する
- ・エンターテインメント性を高める
- ・無駄を作りすぎず、打ち出したい内容に対して適切な動画の長さで制作する

④終了画面を活用する

⑤話題性や情報の鮮度で急上昇ページへの表示を狙う

さらに、公衆衛生医師の魅力が正確に伝わるためには、公衆衛生医師の活動内容や果たす役割にやりがいを感じている人物によって、魅力的に伝えられることが必要である。過度に情報が溢れ続ける現代社会において、もとより認知度の低い公衆衛生医師について、その存在を抽出・注視させるためには、視聴者を惹きつけるキャラクター性や説得力、そしてオリジナリティ溢れるデザインの工夫は、ますます求められる要素となっている。今年度の新企画「ガイ灯 RADIO」は、その効果を期待して始めたシリーズであり、今後の公衆衛生医師の魅力づくりに大いに貢献することを願っている。

以上のビジュアルリテラシーを理解した上で、広報媒体の制作を戦略的に行うことが、今後の公衆衛生医師を周知するために必要と思われる。

b) コンテンツの新たな役割「教育」

今年度の3つの目的のうち、新たに設けた目標、すなわち医学部学生・教員や一般社会を対象とした「教育・広報」の新企画「保健所の仕事シリーズ」は、大学教育や一般社会において“見えない”公衆衛生医師の現場の活動内容を“見える化”し、認知度や理解度を高め、内容に共感できることを目的としている。

これは、現在の医学部の公衆衛生学の授業で最も必要とされるコンテンツと思われる。なぜなら、医学部や病院の外の様子は、教科書やネット情報だけでは現状を知ることとはできず、さらに、行政の内部の様子を動画で説明したコンテンツは非常に限られており、読んだことはあっても見たこともない場所で働くことは、当事者であっても勧めることは憚られる。さらに、公衆衛生医師が少なく、広報活動が盛んでない自治体ほど、インターンシップや大学実習が充実していない状況にある。

それらをバーチャルな媒体で補填し、公衆衛生医師の活動風景を3次元で体感できる公衆衛生医師チャンネルの動画コンテンツは、さまざまな地域事情を抱えた全国の自治体の公衆衛生医師確保事業に、大きなインパクトをもたらすものと考えられる。

さらに、大学の授業で説明のための参考動画として用いることで、日々授業の準備に多忙な大学教員の先生方の力強いサポート教材として機能を発揮すると思われる。

ク. 結語

人材確保・育成を目的として、企画・運営が始まった YouTube「公衆衛生医師チャンネル」は、6年の時を経て、本来のターゲット層である若手医師・医学生を超えて、全国の公衆衛生課題を抱える人々のライトハウスの一つとして浸透し始めている。この流れ

の勢いを俯瞰すると、社会の中で「公衆衛生」「公衆衛生医師」という言葉が、日常の中でよく聞かれるキーワードとして漂い始める日もそう遠くないと思われる。

自然環境や世界の情勢が目まぐるしく変転する、この予測不可能な VUCA 時代に、医学的知識・技術と、つながり作りという見えない力を携えて「答えのない課題」に果敢に取り組む「公衆衛生医師」。その唯一無二の魅力を伝えるべく、私たち事業班の様々なリアル＋バーチャルな活動結果により、この職業に憧れて入学する若者や、入庁する医師たちの増える未来が、少しずつ形を見せ始めている。来年度以降も、個々のアイデアやスキルを持ち寄り、オリジナルの YouTube デザインを実装し続けることで、ターゲット層の集客と定着、公衆衛生医師自身の育成と生き甲斐の創出、そして社会の公衆衛生課題と双方向性に向き合う公衆衛生医師としての存在を明確に確立できるよう、活動を継続する。

参考文献

- 1) 日本経済新聞, "YouTube、国内の月間視聴者 7120 万人 年齢層拡大"18 10 2023
[オンライン] Available:
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC189LI0Y3A011C2000000/> [アクセス日: 13 1 2025]
- 2) NTT ドコモモバイル社会研究所, "年代別 YouTube 利用率調査"13 05 2024 [オンライン] Available: <https://www.moba-ken.jp/project/service/20240513.html> [アクセス日: 13 1 2025]
- 3) 令和 5 年度地域保健総合推進事業 全国保健所長会協力事業 公衆衛生医師の確保と育成に 関する調査及び実践事業"公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集" [オンライン] Available:
http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_2/menu04_2_r05_02-2.pdf [アクセス日: 13 1 2025]
- 4) 地域保健法に基づく保健所の業務について (地域保健法第 6 条)」 1 4 項目 [オンライン] Available: <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000028u9a-att/2r98520000028udt.pdf> [アクセス日: 13 1 2025]
- 5) 保健所長のお仕事紹介～現役公衆衛生医師のホンネに迫る～ [オンライン]
Available: <https://blog.canpan.info/phdr/> [アクセス日: 13 1 2025]
- 6) 農林水産省ソーシャルメディア"BUZZMAFF (ばずまふ)" [オンライン]
Available: <https://www.maff.go.jp/j/pr/buzzmaff/> [アクセス日: 13 1 2025]
- 7) VIDEO WORKS"YouTube の再生回数を増やすコツ 12 選! カウント方法や仕組みから徹底開設"13 10 2024 [オンライン] Available:
<https://videoworks.com/column/youtube-get-more-views/> [アクセス日: 13 1 2025]

II 事業報告

2 実践事業

(7) ブログ「保健所長のお仕事紹介」の企画・運営

松澤知（新潟県福祉保健部・三条保健所）

武智浩之（群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課）

北岡政美（金沢市保健所）

豊嶋典世（宮崎県日向保健所）

服部早苗（茨城県筑西保健所）

成田智晴（愛知県新城保健所）

宗陽子（長崎県県央保健所（兼）長崎県国保・健康増進課）

内田勝彦（大分県福祉保健部）

1) 概要

本事業は、保健所長のお仕事紹介ブログの記事の更新と個別相談の効果的な活用方法を人材確保・育成プロセスを参考に、「ブログや個別相談を通じて、①公衆衛生医師に関する認知を促進させるとともに、他の認知を促進する媒体（HP や SNS、YouTube）へ導く、②サマーセミナー等のイベントや見学・インターンシップ※に繋げる」ことを活動目的とし、明確化することで、学生及び医師の次のプロセスへ進む手助けを実現するものである。

※インターンシップ：社会に出る前の学生が実際に仕事を体験するプログラムのこと

2) 目的

事業班における活動目的は公衆衛生医師の確保であり、ブログの活用・展開は公衆衛生医師業務に関する広報啓発活動の強化に該当する。事業班ミーティングにおいて班長より共有された採用×マーケティングの人材確保・育成プロセスは、①Lead Generation= 認知、②Lead Nurturing= 興味・検討、③Recruiting= 応募・採用、④Employee Success= 定着・活躍の4つで説明され、このプロセスにおいて、ブログや個別相談は①Lead Generation= 認知に位置付けられていたことより、活動目的を「ブログや個別相談を通じて、①公衆衛生医師に関する認知を促進させるとともに、他の認知を促進する媒体（HP や SNS、YouTube）へ導く、②サマーセミナー等のイベントや見学・インターンシップに繋げる」とし、ブログと個別相談それぞれに対し、以下の目指すべきことを定めた。

ア. ブログが目指すべきことは、

公衆衛生医師に関する認知を促進させるとともに、

（ア）他の①Lead Generation= 認知を促進する媒体（HP や SNS、YouTube）へ導く

（イ）②Lead Nurturing= 興味、検討へ誘導する（サマーセミナー等イベントや見学・インターンシップに繋げる）

イ. 個別相談が目指すべきことは、

（ア）更に②Lead Nurturing= 興味、検討を深める手助けをする（サマーセミナー等のイベントや見学・インターンシップに繋げる）

（イ）「③Recruiting= 応募、採用」フェイズにおける支援は見学・インターンシップ先の先生方が（直接）行うように円滑に繋げる

3) 方法・結果

上記の目的を達成するため、以下のア.からエ.の活動を行った。

ア. お仕事紹介ブログの投稿（表1）

保健所長等医師の日常に触れてもらうため、「ブログ・相談」チームメンバーにおいて、令和6年度は5本のお仕事紹介ブログの投稿を行った。（※令和7年1月末時点）

表1 お仕事紹介ブログの投稿一覧

No	投稿者	時期	タイトル
1	豊嶋	5月	全国いきいき公衆衛生の会サマーセミナーIN くまもと「考えてみよう！公衆衛生～今こそ原点回帰」
2	武智	6月	議会との関わりを紹介します(群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課 武智浩之)
3	松澤	10月	【全国】現役公衆衛生医師による Web 個別相談を随時受付中！
4	服部	10月	新興感染症患者の移送訓練を行いました
5	北岡	11月	保健所の広報活動（ポスター作成）

ブログタイトル：「保健所長のお仕事紹介～現役公衆衛生医師のホンネに迫る～」

ブログ URL： <https://blog.canpan.info/phdr/>

イ. イベント告知ブログの投稿（表2）

サマーセミナー等のイベント告知依頼があれば都度ブログ投稿を輪番制で担当し、令和6年度は12本の記事を投稿した。（※令和7年1月末時点）

表2 イベント告知ブログの投稿一覧

No	投稿者	時期	タイトル
1	服部	6月	民間医局 レジナビフェア 2024 大阪 に出展しました！
2	北岡	6月	毎年8月に開催している公衆衛生医師サマーセミナー。今年度のポスターが完成しました！
3	武智	7月	オンライン開催の公衆衛生医師 WEB 合同相談会。参加申込開始です！
4	服部	7月	民間医局 レジナビフェア 2024 東京に出展しました！
5	宮園	8月	【大阪府】行政医師業務説明会を開催します！【イベント終了】
6	豊嶋	8月	【宮崎県】8/31 公衆衛生医師 説明会を開催します★(イベント終了)
7	北岡	9月	公衆衛生 若手医師・医学生サマーセミナーPHSS2024 を開催しました！
8	服部	9月	第83回 日本公衆衛生学会総会・自由集会「公衆衛生医師の集い」を開催します！
9	松澤	9月	【島根県】社会医学系専門医プログラム説明会を開催します
10	武智	10月	公衆衛生医師 WEB 合同相談会 2024 を開催しました♪
11	成田	10月	PHWS 2024 を開催します！
12	服部	11月	【茨城県】保健所で働く現役医師と話せるオンラインカフェを開催します
13	成田	1月	PHWS 2024 を開催しました

ブログタイトル：「保健所長のお仕事紹介～現役公衆衛生医師のホンネに迫る～」

ブログ URL： <https://blog.canpan.info/phdr/>

ウ. 個別相談の対応（表3）

ブログ等から個別相談依頼があった場合には、まず「ブログ&個別」チームメンバーが初期対応を行い、ニーズや居住地等の聴取を実施した。その後、居住地域毎（既に見学・インターンシップ希望地がある場合には当該地域）の事業班メンバーなどに対応への協力を依頼した。対応協力者は、事業班メンバーとも相談しながら、相談者のニーズに合わせ ZOOM 等の面談や見学、インターンシップの企画・調整を行った。令和6年度の個別相談実績は以下の11件であり、令和5年度の3件と比較し8件増加した。（※令和7年1月末時点）

表3 個別相談に至った経緯等や対応

対象者	個別相談に至った経緯等や対応
A 氏	・ 外科約3年目 ・ 大学在学時に県庁医師が大学へ話に来たことをきっかけに以前から興味があった ・ 臨床以外にも興味があり、医療政策等を県の単位で考えたい ・ 県庁や保健所を見学したい、若手医師の働き方についても気になる ⇒ZOOMにより個別面談を実施。今後も当チームの行政医がフォローする。
B 氏	・ 放射線科約20年目 ・ 行政医師になることに前向きであるが、臨床キャリアが長いため、病院との業務内容や仕事の進め方の違い等について不安がある ・ また、住居地である政令指定都市への入職を考えているが、県と市の違いはなにかを説明してほしい ⇒ZOOMにより個別面談を実施。今年度のPHSSにも参加いただいた。
C 氏	・ 内科約20年目 ・ 行政医師になることに前向きであるが、臨床キャリアが長いため、就職の可否についての不安や業務内容・進め方等について質問がある ・ また、行政医師には国や県、政令市等の就職先があると思うが、それぞれどのように政策に携わるのか（違い）を教えてほしい ⇒ZOOMにより個別面談を実施。今後も当チームの行政医がフォローする。
D 氏	・ 精神科約3年目 ・ 臨床の仕事よりも公衆衛生に興味があると感じており、臨床と行政の最大の違いは何か知りたい ・ 公衆衛生医師は辞める方も多いと聞くがその理由も教えてほしい ⇒ZOOMにより個別面談を実施。PHCC等のイベントを紹介、今後もフォローする。
E 氏	・ 外科約3年目 ・ 保健所を見学したことがあり臨床以外の仕事に興味を持っているが、県庁と保健所の医師の働き方等の違いや医師何年目くらいで入るのが良いか等について知りたい ・ 入庁後の庁内医師関係や全国の行政医師との繋がりについても教えてほしい ⇒ZOOMにより個別相談を実施。現在の教授も理解があり短期の公衆衛生(行政)留学等も相談できると思われる。今後も当チームの行政医がフォローする。

F 氏	・ 行政医師約 1 年目 ・ 給料体系についての質問 ⇒ZOOM による個別相談を打診するもメールへの返信なし。対応を終了した。
G 氏	・ 医師（非臨床）約 19 年目 ・ 公衆衛生の仕事に興味があり、居住地の都道府県行政医師への転職希望あり ・ 居住地の都道府県医師の行政医師を紹介してほしい ⇒明確に居住地の都道府県行政医師を紹介してほしいとの要望であったため、当チームとして ZOOM 等は実施せず、当該都道府県の行政医師へ紹介した。
H 氏	・ 行政医師約 1 年目 ・ 臨床から行政に移ったが、公衆衛生医師としての自己研鑽の方法について質問あり ⇒ ZOOM による個別相談を打診するも現時点ではメールへの返信なし。
I 氏	・ 小児科約 1 年目 ・ 公衆衛生、母子保健に興味があり、将来のキャリアの選択肢として公衆衛生医師も考えたい ・ 初期研修で 1 週間保健所研修をしたが、短期間のローテーションだったため公衆衛生医師の仕事内容やなるための要件などまだわからないことが多い ⇒ZOOM により個別面談を実施。今後も当チームの行政医がフォローする。
J 氏	・ 産婦人科約 3 年目 ・ 公衆衛生医師の養成環境や公衆衛生医師に求められる素質、仕事で楽しいと思うことや大変だと思うこと、ワークライフバランス、給与等について多彩な質問あり。 ⇒ZOOM により個別面談を実施。今後も当チームの行政医がフォローする。
K 氏	・ 小児科約 15 年目 ・ Z 自治体への面談調整依頼 ⇒Z 自治体との連絡手段を既に持っていたため、直接連絡するよう助言した。

エ. 個別相談対応の周知強化（図 1）

これまで個別相談対応については、主にブログ等による限定的な周知であったため、更なる個別相談件数の増加を狙い、今年度より相談対応の周知の強化に着手した。

まずは、個別相談対応の周知を行うための基本的なツールとなるフライヤーの作成（図 1）を行うこととした。作成にあたっては、フライヤーで用いられる単語 1 つ 1 つに議論を重ねるとともに、配色を含めたデザインにもこだわりをもった。

例えば、これまで個別相談は、個別相談や 1 ON 1、Web 相談というような多様な言葉で宣伝されてきたが、ZOOM 等の電子会議システムを用いて個別相談を行うことが対象者にイメージされやすいように「Web 相談」と記載するとともに、配色については現役公衆衛生医師が相談を受けるということをもっと目立つ配色である黄色にし、他色は青色一色としてフライヤー全体としての統一感を出した。



図1 個別相談対応の周知強化(フライヤー)

4) 考察

今年度は、昨年度に引き続きチームの活動目的を定義し、4つの活動を行った。

次年度は、現行の活動を継続するとともに、今年度新たに作成したフライヤー等を用いて更に個別相談対応の周知強化を行うことで、個別相談件数を増加させるとともに、サマーセミナーや見学・インターンシップといった次のプロセスへ学生及び医師が進む手助けを行っていきたい。

5) ミーティング

- | | |
|-------------------|-------|
| 第1回：令和6年5月20日（月） | @ZOOM |
| 第2回：令和6年7月2日（火） | @ZOOM |
| 第3回：令和6年9月17日（火） | @ZOOM |
| 第4回：令和6年12月19日（木） | @書面会議 |
| 第5回：令和7年2月10日（月） | @ZOOM |

Ⅲ 参考資料

<URL および QR コード>

- 1 PHSS, PHCC, PHWS の講演資料, 講演動画, チラシ, プログラム

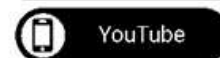
募集や終了報告等

http://www.phcd.jp/02/j_seminar/html/JN_PHSS_2024.html



- 2 YouTube 「公衆衛生医師チャンネル」

<https://www.youtube.com/channel/UCWNJrwh5wPvgwVGFeMb-JNA>



- 3 ブログ「保健所長のお仕事紹介」

<https://blog.canpan.info/phdr/>



4 調査事業（２）資料編

① 調査協力依頼文

令和6年11月吉日

全国保健所長 各位

全国保健所長会 会長 藤田 利枝
令和6年度地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業）
「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」
分担事業者 長崎県県央保健所 所長 宗 陽子

「公衆衛生医師育成における指導医のニーズおよびケーススタディ集の活用状況に係る調査」へのご協力について（依頼）

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から全国保健所長会協力事業にご理解とご支援をいただいておりますことに対しまして、心より感謝申し上げます。

今年度、「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業班」と「公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会」におきましては、「公衆衛生医師の育成における指導医のニーズおよびケーススタディ集の活用状況に係る調査」を実施することといたしました。

ご多忙所、大変申し訳ありませんが、ご協力のほど宜しくお願い致します。

記

1. 調査対象

全国の保健所長ご自身でご回答ください。

指導医のニーズについては、指導医では無い方も可能な範囲でご回答ください。

2. 回答方法

下記のフォームメーカーURLからの回答をお願いします。

<https://business.form-mailer.jp/fms/1eb4caf2260677>

3. 回答期限

令和6年12月12日（木）

※「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」は、専攻医等の育成の場面でご活用頂けるように「公衆衛生医師が身につけるべきコンピテンシーがどのように業務の上で使われているのかをケースを通して学ぶことのできる教材」をコンセプトとして作成したものです。

(参照： 全国保健所長会ホームページ

https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikioken/pdf/2023_file01-2.pdf)

【調査内容に関するお問い合わせ先】

- ・指導医のニーズについて

横山 勝教（香川県 中讃保健所）

E-mail fz2117@pref.kagawa.lg.jp

- ・ケーススタディ集について

宗 陽子（長崎県 県央保健所）

E-mail sou-youko@pref.nagasaki.lg.jp

② 全国保健所長対象アンケートフォーム

社会医学系指導医のニーズおよびケーススタディ集の活用状況に係る調査

令和6年度地域保健総合推進事業 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業班アンケート

A 回答者について

問1 回答者名 **必須**

姓 名

問2 問い合わせメールアドレス **必須**

問3 保健所名 **必須**

記入例
香川県中讃保健所

問4～問7は指導医ニーズについて調査（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会）

E 令和4年度、5年度の地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業）「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」にて作成した『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』について

問8 『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』をご存知でしたか？（単回答） **必須**

☐ はい

☐ いいえ

問9 次の対象者にケーススタディ集を使ったアプローチをしたことがありますか？活用したことがある場合は、どのような使い方を教えてください。（単回答）

医学生 **必須**

- ☐ そもそも対象者と接することがない
- ☐ アプローチしたことはない
- ☐ 話題に出した
- ☐ 現物を見せた（電子版も含む）
- ☐ 個別のケースやコラムを紹介した
- ☐ ケースを用いたワークやディスカッションを行った

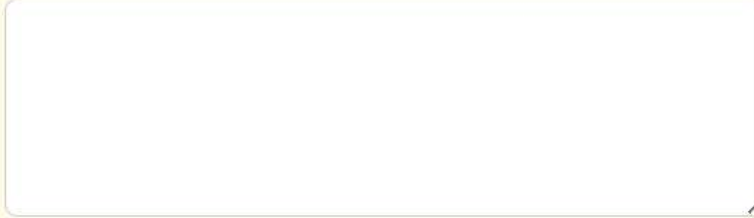
続けて、「その他の医療系学生」「研修医」「社会医学系専攻医」「保健行政職（職員など）」を対象としたアプローチの有無について、それぞれ質問

その他 **任意**

- ☐ アプローチしたことはない
- ☐ 話題に出した
- ☐ 現物を見せた（電子版も含む）
- ☐ 個別のケースやコラムを紹介した
- ☐ ケースを用いたワークやディスカッションを行った

その他と答えた方に質問です。それはどのような方々を対象に、どのようなアプローチをしましたか。具体的に教えてください。（自由記載） **任意**

問10 ケーススタディ集へのご意見がありましたら、教えてください。特に第2巻を作成するとして、取り上げてほしいテーマや事例があれば、具体的に教えてください。(自由記載) 任意



ご回答ありがとうございました

③ 全国保健所長対象アンケート回答の詳細

「公衆衛生医師育成における指導医のニーズおよびケーススタディ集の活用状況に係る調査」

回答：137 名

E

令和4年度、5年度の地域保健総合推進事業（全国保健所長会協力事業）「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」にて作成した『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』について

問8 『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』をご存知でしたか？

認知度 73.7%（はい:101、いいえ:36）

問9

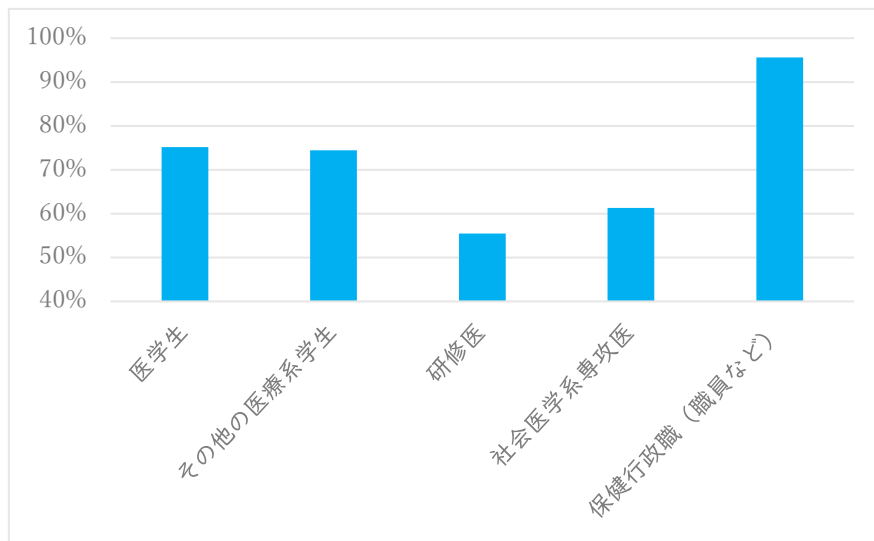
次の対象者にケーススタディ集を使ったアプローチをしたことがありますか？活用したことがある場合は、どのような使い方を教えてください。

	そもそも対象者と接することがない	アプローチしたことはない	話題に出した	現物を見せた (電子版も含む)	個別のケースや コラムを 紹介した	ケースを用いた ワークやディス カッションを 行った
医学生	34	77	10	7	3	6
その他の医療系学生	35	93	5	1	2	1
研修医	61	58	13	3	2	0
社会医学系専攻医	53	48	19	8	6	3
保健行政職 (職員など)	6	89	18	19	4	1
その他		49	2	0	1	0

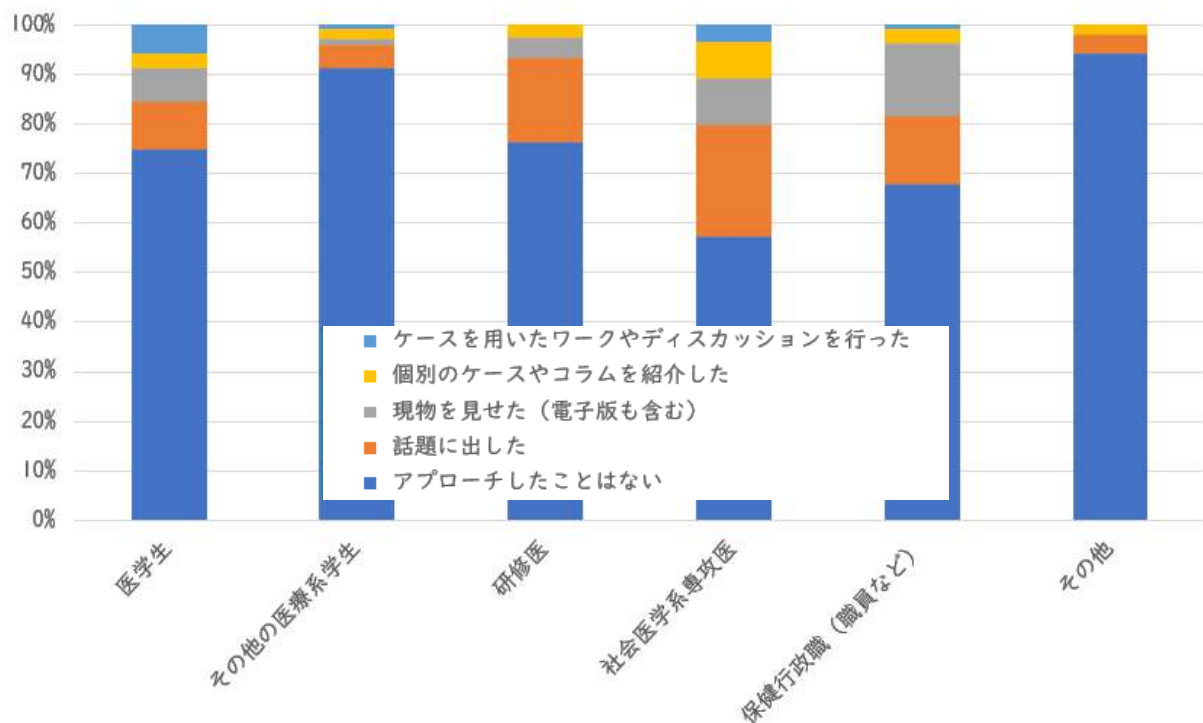
【関連意見】

- 医学生、研修医について、過去に接したことはあるが、ケーススタディ集が配布された後にたまたま機会がないため使用した経験はありません。今後機会があれば使いたいと思います。
- まだ、社会医学系専攻医とはなっていない今年度入職の行政医師に対して、ケーススタディ集を用いたディスカッションを行った。
- 保健師人材育成についても、同様に課題が大きく、業務担当制により公衆衛生のスキルが低下してきているので、同様にケースメソッド、処遇ではなく事例を検討できるよう働きかけている。
- 新人保健師の指導用に活用するよう紹介した。

【各対象者への“接触率”】



【接する機会があった対象者へのケーススタディ活用率】



作成当初想定していた読者である社会医学系専攻医に対する活用率（43%）、および、接する機会が多い保健行政職への活用率（32%）が高いことが見て取れた。専攻医よりも接する機会が多い医学生（活用率 25%）・医療系学生（活用率 9%）に対するアプローチは、保健行政や公衆衛生医師を紹介する意味合いでもまだ開拓の余地があるかと考える。ワークやディスカッションを実施したケースは専攻医よりも医学生を対象とした場合の方が多かった。

問 10

ケーススタディ集へのご意見がありましたら、教えてください。特に第2巻を作成するとしたら、取り上げてほしいテーマや事例があれば、具体的に教えてください。（自由記載）

【第二巻で取り上げて欲しいテーマ】

- 地域医療関係
- 母子保健、狂犬病予防と動物愛護、環境衛生
- HIV や肝炎検査に関すること
- ワクチン接種に関すること
- 病院立ち入り検査に関すること
- 医療安全対策に関すること
- 動物愛護法に関すること”
- 母子保健事業、精神保健事業、難病保健事業への取組事例について
- 難病患者、精神障害者、HIV 陽性者へのピアサポートを含む地域支援体制作り
- 医療監視、精神科病院実地指導を活用した不適切医療危難の指導や廃院
- 医療計画や地域医療構想を活用した地域医療体制作り
- 介護保険、障害福祉における市町村支援
- DHEAT として活動する際に必要なコンピテンシーについて
- 食中毒疑い事例、感染症疑い対応事例
- 都道府県庁における医療計画・地域医療構想に関する取り組み
- 大規模災害時における被災地自治体での災害対策や支援活動
- 精神科病院や地域に対する精神科患者の地域移行の取り組み
- 医療機関の立入検査における医療安全・院内感染対策に関する取り組み”
- 糖尿病性腎症重症化予防における地域医師会との協働
- 医療機関立入検査における保健所長の役割
- 所属長としての振る舞い、心構え、留意点。
- 知事等との関係性、接点。
- 保健福祉事務所の場合の福祉との関わり方
- 状況として、「指導医と専攻医が定期的に対面での面談ができないケース（オンラインツールや電話等を活用した面談・指導をせざるを得ないケース）」があるとよいと考えます。

※ 異動や行政医師不足等の事情により、上記のような状況に陥っている専攻医が一定数いるものと推察されるため。”

- 都では、係長級・課長級医師が感染症中心となっているため、
にも包括に代表される障害保健医療福祉の事例
- 災害医療を含む医療連携施策等についての事例
- 医療機関への立ち入り検査について
- 麻薬や抗精神病薬等の不正使用について
- 学校保健との共同事業について

- 地域医療構想の病床調整に関することや救急医療にかかわる部分など、本庁と共に、データを示しながら調整する業務に関すること
- 在宅医療（看取り）など医療機関や自治体と地域包括ケアを展開する中での保健所の役割について
- 各種協議会をマンネリ化させず、委員からの発言を増やし保健所や地域の取組みにつなげるための工夫
- 病院立ち入り検査での行政医師の効果的な役回り
- 感染症診査協議会（結核診査会）を形骸化したものでなく、“診査”として機能する工夫
- 食中毒対応も面白いですが、それ以外の衛生課関係の保健所関連業務（環境衛生・動物衛生など）や災害対応訓練なども、他部署との連携事例としても興味関心がそそられると思いますので、いかがでしょうか？

領域	数
病院立ち入り	5
地域医療構想	4
所属長としての「保健所長」の役割	4
動物衛生	3
精神保健	3
災害対応	3
母子保健	2
環境衛生	2
医療安全	2
難病保健	2
医師会や医療機関との連携	2
障害保健福祉	2
協議会・審査会	2
HIV・肝炎の検査実施やピアサポート	1
ワクチン接種	1
市町村支援	1
食中毒疑い事例対応	1
感染症疑い事例対応	1
麻薬・抗精神病薬不正使用	1
学校保健との共同	1
地域包括ケア	1
専攻医とのオンライン面談	1

複数の保健所長から挙げられた「病院立ち入り」「地域医療構想」「動物衛生」「精神保健」「災害対応」を中心に、若手行政医師の興味をひく事例を揃えることができたかと考える。同時に、所属長としての保健所長の心構えや振る舞い方、内外での連携や調整の方法についても関心が高いことがうかがえた。そのあたりも網羅することができれば、中堅以降の行政医師への訴求力もより高いケーススタディ集になるかもしれない。

【良かった点】

- 「コラム」や「coffee break」がとてもよかった。
- デザインもよく、事例もとても良くまとまっていると思います。
- テーマに関する事例ではなく、感想です。このアンケートが行われるまで、ケーススタディ集を医学部生実習に使う発想がありませんでした。次回から使用します。
- 要素指導医として専攻医に関わる程度であり直接指導者ではないため、参考になる意見を出せずにすみませんでした。
- 公衆衛生初学者ながら 10 月から保健所長となった者です。「こういうアプローチをすれば良いのか」と大変勉強になりました。
- このケーススタディ集は、「行政医師の仕事はどんなものか？」を臨床研修医や勤務医で行政に転職を考えている医師が、ざっくりと理解するのにはとても分かりやすくできていると思います。
- 内容的には、限られたスペースで、ここまで Case を収集いただいて、ありがとうございます。
- やはり社会医学系専攻医への指導教材として使いたいです。保健所の門を叩く専攻医を待ち続けています。
- 私自身が公衆衛生行政医 1 年目で、すべて役に立つ情報でした。ありがとうございました。
- ケーススタディ集の存在を知りませんでした。医学生が実習に来ることはあるので、活用させていただきます。「中学生へのピロリ検診」の話は「推奨されない」とはっきり書いてくださっていて、安心しました。
- 有用な事業だと思います。おまとめいただきありがとうございました。

【内容・編集に関する意見】

- Q&A 方式の部分もほしい。
- ケースの行動のどの部分がどのコンピテンシーに相当しているのか、作成された方の意図も入れていただけると幸いです。
- ケーススタディ集は、行政に来て間もない公衆衛生医師にとっては有意義と考えますが、それ以外の者について一般的にはお勧めしにくいです。
- 主人公が状況判断し実行して問題を解決したストーリーの記述には、①時間経過の数的情報がほとんど記載されていないこと、②主人公がもたらした問題解決のアウトプットに至る本人の思考・判断・準備行動のプロセスの記述があまり記述されていないこと、から、話に具体性とリアリティーがやや乏しく、そのためか、主人公がその時点で持っていると思われる各

コンピテンシーのレベルがあまりイメージできません。専攻医がトレーニングや実務でアウトプットする判断力や行動を支える能力のレベル感が、指導医と専攻医との間で共通認識を持てるような、具体性の高い第2巻を作成していただけると有難いです。

- ケーススタディ集は公衆衛生医師となってまだ日も浅い先生方には特に有用かと思います。対応に困られたご経験もいろいろおありのことと思いますので、引き続き、先生方のニーズに呼応する形で第2巻が作成されることを期待しております。
- 自治体によっては、(現地機関の)係長職や課長職を経験せずに、実務経験があまり無いなかで、所長となることもあります。そのような設定での、専攻医のスキルアップについても、可能であれば取り上げていただければ幸いです。
- 第1版は、時期が時期であったのもあり、感染症に関する内容がウエイトが多めでした。第2版に備えて、事例の記録を忘れないようにしたいと思います。
- それから、内容ではありませんが、これからもPDFでの提供を続けるのであれば、本文のページとPDF画面上でのページを同一にいただけると、先のページに飛ぶときに一回で、表示ができるのでお願いします。(今回の場合、本文の1ページが、PDFの表示では3ページになります。)
- 更に、根拠となる法律・理解を深めるための厚労省の通達や開催されている講習会・研修などが記載されていると、片時も離せない1冊になるのではないのでしょうか。
- この数ヶ月で老眼が進んだためか、PDFから印刷した場合や冊子で読む場合は文字のフォントが細く、内容が良いだけに読みづらさが非常にもったいないです。なお、PCモニターでは拡大できるので気になりません。指導医は中年以降の方が多いと思いますので、次回は通常～太めのフォントの採用をお願いします。
- 専攻医の所属がなく、指導機会はありますが、医学生や研修医を定期的に受け入れており、ケーススタディ集を活用したいと考えています。研修にそのまま使用できるパワーポイント等の資料や改正感染症法などの動きを踏まえたトピックスなどがあれば活用しやすいと思いました。

【その他】

- 活用してみようという場面がない。
- 法律や制度は変わっていくものなので、定期的にメンテナンスが必要になると思うのと、各地での実践を記録として残す、という点でもケーススタディ集が継続的に作成されるのは大事だと思う。
- 十分活用できていませんでした。指導医間の認識共有から始めたいと思います。

④ 社会医学系専攻医対象調査票

『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集』に関するご意見をお聞かせください。

[『ケーススタディ集はこちら』](#)

質問1 これまでに「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」を読んだことがありますか？

☐ 今回の調査の前に、既に読んだことはあった。

質問2 ケース等に対するご意見を教えてください。

	学びがあった	業務の参考になった	難易度	感想、コメントなどある場合は自由にご記入ください。（字数制限なし）
CASE1				
CASE2				
CASE3				
CASE4				
CASE5				
CASE6				
CASE7				
CASE8				
CASE9				
CASE10				
CASE11				
CASE12				
CASE13				
CASE14				
コラム(全般)				

質問3 構成やデザインも含め、ケーススタディ集全体についてご意見やご感想をお聞かせください。（字数制限なし）

質問4 ケーススタディ集を実際に何らかの形で活用されたことがある先生は、その活用方法を教えてください。

あるいは、新たな活用法のご提案がありましたら教えてください。

例) 社会医学系専攻医として指導医とのディスカッションの際にケーススタディ集を用いて議論を行った。

質問5 次回のケーススタディ集で取り上げてほしいテーマや具体的なケースを自由に記載してください。

分野： 例) 結核対策	テーマ： 例) 独居高齢者のDOTSについて、地域のネットワークを活用して取り組みをおこなった事例

質問6 次回のケーススタディ集作成の際に、事例があれば提供にご協力いただけますでしょうか？

☐ 応相談 ←プルダウンリストからお選びください。

お忙しい中にご回答いただき、誠にありがとうございました。

分担事業者・事業協力者・助言者・事務局 一覧（敬称略）

【分担事業者】	宗 陽子	長崎県県央保健所（兼）長崎県国保・健康増進課
【協力事業者】	山本 長史	北海道江別（兼）千歳保健所
	堀切 将	福島県県中保健所
	松澤 知	新潟県福祉保健部（兼）三条保健所
	武智 浩之	群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課
	早川 貴裕	栃木県保健福祉部医療政策課
	服部 早苗	茨城県筑西保健所
	兼任 千恵	神奈川県平塚保健福祉事務所
	向山 晴子	世田谷区世田谷保健所
	高橋 千香	世田谷区世田谷保健所
	成田 智晴	愛知県新城保健所
	北岡 政美	金沢市保健所
	田邊 裕	名古屋市西区保健福祉センター
	宮園 将哉	大阪府岸和田保健所
	植田 英也	大阪市健康局健康推進部健康づくり課
	岩瀬 敏秀	岡山県備前保健所
	平本 恵子	広島市南区役所厚生部（兼）南保健センター
	石倉 凱	島根県健康福祉部医療政策課
	横山 勝教	香川県中讃保健所
	山本信太郎	福岡市保健所精神保健・難病対策部
	劔 陽子	熊本県阿蘇保健所 （全国保健所長会・学術担当常務理事）
	藤井 可	熊本市総務局行政管理部労務厚生課安全衛生班
	茅野 正行	宮崎県高鍋保健所
	豊嶋 典世	宮崎県日向保健所
	前田 光哉	環境省大臣官房審議官
	尾島 俊之	浜松医科大学
	吉田 穂波	神奈川県立保健福祉大学
	高橋 宗康	帝京大学大学院公衆衛生学研究科
【助言者】	曾根 智史	国立保健医療科学院
	宇田 英典	地域医療振興協会
	内田 勝彦	大分県福祉保健部

藤田 利枝	久留米市保健所（全国保健所長会・会長）
木村 雅芳	静岡県西部保健所（全国保健所長会・副会長）
白井 千香	枚方市保健所（全国保健所長会・副会長）
町田 宗仁	厚生労働省保険局医療課医療指導監査室
斎藤 基輝	厚生労働省健康生活衛生局健康課地域保健室
森 幸野	厚生労働省健康生活衛生局健康課
松下 詢	厚生労働省健康生活衛生局健康課地域保健室

【事務局】

若井 友美	日本公衆衛生協会
斉藤 有子	日本公衆衛生協会

令和 6 年度 地域保健総合推進事業 全国保健所長会協力事業
「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業」
報告書

発行日 令和 7 年 3 月
編集・発行 一般財団法人日本公衆衛生協会
分担事業者 宗 陽子（長崎県県央保健所）
〒854-0081 長崎県諫早市栄田町 26 番 49 号
TEL：(0957)26-3304
FAX：(0957)26-9870

